2012 平成24年

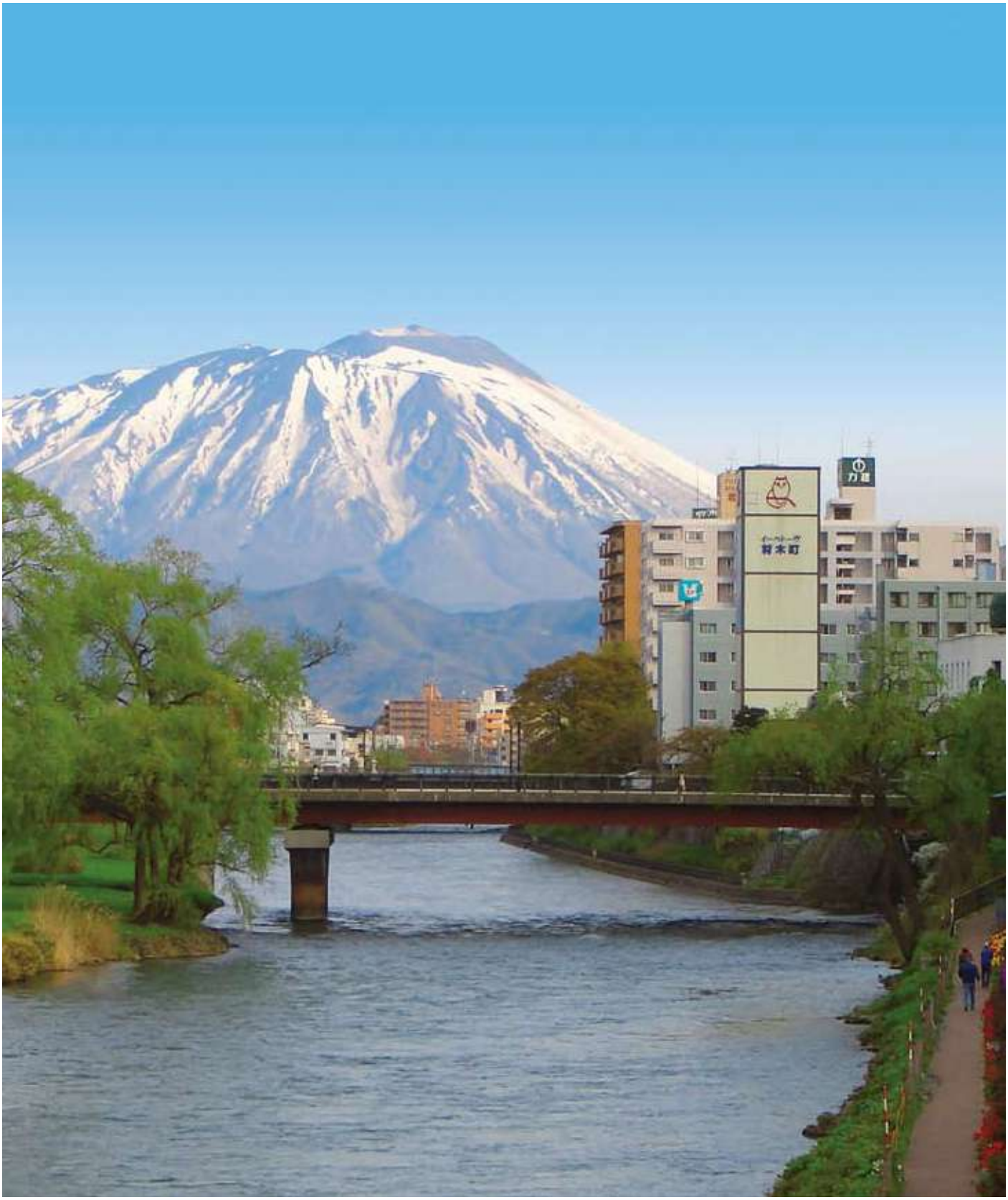
教室年報

Iwate Medical University

岩手医科大学医学部外科学講座

Iwate Medical University, School of Medicine
Department of Surgery: Annual Report 2012

巖刀会（外科学講座同門会）



http://surgery.iwate-med.ac.jp/index.html 外科学講座ホームページ紹介

外科学講座の沿革

当外科学講座の歴史は古く、岩手医科大学の前身である岩手医学専門学校の創立1年後の昭和4年、副島鎮雄の教授就任まで遡ります。その後、昭和5年に三宅徳三郎、昭和13年には永松之幹が教授となり、昭和19年には瀬田孝一が教授に就任しました。昭和24年に医科大学に昇格し、昭和31年第二外科の開講に伴い外科学第一講座となった後も、瀬田は在任35年にわたり当教室の基礎を築き、現在まで続く大いなる発展をもたらしました。昭和54年の瀬田の退職後には、東北大学第2外科助教授の森昌造が教授に赴任し、疾患別のグループ体制を確立することで、研究活動の躍進がみられるようになりました。昭和61年に森が東北大学第2外科教授へ転任するにあたり、昭和62年6月に斎藤和好が外科・内科では初の母校出身の教授に昇任しました。本学の良き伝統と誠の医師としての真摯な態度を継承し、内視鏡手術の積極的な導入など外科学の更なる進歩に貢献しました。平成17年に斎藤の退職後、同年9月に慶應義塾大学外科学専任講師の若林剛が教授として就任しました。患者中心の最良の治療が選択・実践可能な「チーム医療」を充実させつつ、内視鏡外科治療の指導的施設としての発展、北東北での肝移植の実現に着手してきました。平成18年には小児外科と合併し、外科学講座と名称を変更しました。平成19年1月に第1例目の生体肝移植を成功させ、平成24年3月までに36例の肝移植を順調に実施しています。内視鏡手術も、胃、大腸、食道、肝胆膵領域、乳腺、甲状腺等すべての分野で充実、発展しており、2011年は総手術数1100件の内、実に400件を越える内視鏡手術を施行いたしました。さらに、平成23年には脳死肝移植施設に認定されました。教室の掲げる「患者中心の医療」を実践するため、教室員一同精進して診療しています。

外科学講座の広報活動

当科では我々が行っている最新医療を一般の方、あるいは医学生や研修医の先生をはじめとするさまざまな医療関係者の方々にご理解を頂くために、ホームページの充実を図っております。平成18年9月の開設以来平成24年の5月までに患者様向けページが25,000回、医療関係者様向けページが48,000回を超えるアクセスを頂いております。先進医療の内容をトピックスとしてアピールするとともに、スタッフのプロフィールも公開しており「主治医の顔と人となり」が少しでもお分かり頂けることで、良好な信頼関係を築く一助になることを期待しております。また、私どもが主催する市民公開講座や研究会等、各種イベントのご案内やイベント終了後のレポートも随時掲載しております。また、昨年3.11の東日本大震災以降は、当科の医局員が沿岸被災地へ医療活動に向かい、各地の被災状況や復興の様子を毎週のようにホームページにアップし続けました。大学病院の機能が回復し、外科手術を含めた診療が可能となったことや、一部の薬剤の処方制限のことも、リアルタイムに情報を更新できるのがホームページの長所だと思います。このホームページが、理想的な医療体制の実現に向けて、私どもと皆様をつなぐ架け橋となるよう願っております。

教室年報（2012年）

岩手医科大学医学部外科学講座同門会

CONTENTS

巻頭言

日本の技術力……外科学講座教授　若林　剛
今年一年を振り返って……外科学講座准教授　水野　大
教室の今年1年……外科学講座准教授　佐々木　章
医局長とは……外科学講座講師　医局長　肥田　圭介

009 外科学講座スタッフ紹介・日常風景

013 グループ紹介

上部消化管グループ《食道》・上部消化管グループ《胃》・内分泌グループ《乳腺》・内分泌グループ《甲状腺》・内視鏡外科グループ・肝胆膵グループ・ヘルニアグループ・下部消化管グループ・リサーチグループ《分子治療研究室》・小児外科グループ・高度救命救急センター・岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

027 平成23年診療状況

入院患者分類／手術件数／関連病院手術件数／外科専門医制度修練指定施設・関連施設／日本消化器外科学会専門医制度認定施設

029 卒後臨床研修プログラム

岩手医科大学医学部 外科学講座　卒後臨床研修プログラム……卒後研修担当　水野　大

030 教科書

「ステップアップ 内視鏡外科手術」の刊行にあたって……佐々木　章

031 新教室員紹介

小沼　浩人／佐々木　秀策／伊藤　千絵／吉田　宗平

033 受賞

佐々木　章／遠野　千尋／板橋　哲也／西塚　哲／岩谷　岳／久米　浩平／高橋　正浩

038 寄稿

肥田　圭介／佐々木　章
留学先から……岩谷　岳／大渕　徹／石田　和茂／有末　篤弘／千葉　丈広／石橋　正久
岩手医科大学での研修を終えて……今井　寿／坂口　孝宣／白井　量久／大宜見　由奈

049 平成23年アルバム紹介

055 関連病院だより

岩手県立二戸病院・岩手県立軽米病院・岩手県立久慈病院・盛岡友愛病院・盛岡赤十字病院・盛岡市立病院・岩手県立釜石病院・岩手県立宮古病院・北上済生会病院・岩手県立大船渡病院・岩手県立江刺病院・岩手県立千厩病院・函館五稜郭病院・八戸赤十字病院・山本組合総合病院・かづの厚生病院

069 外科紹介医療機関

075 研究業績

095 編集後記

096 協賛広告

GO WAKABAYASHI

日本の技術力

巻頭言

岩手医科大学医学部外科学講座
教授
若林　剛
Go Wakabayashi, M.D., Ph.D
Professor and Chairman

2012年3月のSAGESでSSATとのjoint sessionがあり、L. William Traversoの素晴らしい講演を聞くことが出来ました。タイトルは“Whipple Outcomes: A set of Metrics Based on the Evidence For Open Surgery”というもので、開腹による膵頭十二指腸切除の成績を“metrics”により評価して腹腔鏡下手術との比較のための基準を提供した内容でした。開腹の素晴らしい成績を先に提示され、これに対するMayoのMichael Kendrickもかなり気合いの入った発表となり、腹腔鏡下手術の成績もそれほど劣らないことを堂々と示しておりました。今後は膵頭十二指腸切除も腹腔鏡下手術に変遷していくであろうと大いに予感させられました。時代や患者のニーズ、そして手術機器の進歩により、膵頭十二指腸切除すら腹腔鏡下手術になって行くのかと考えさせられる発表でした。また、この発表が私にとって大変意義深かったのは、以下の理由によります。

この発表で使われた“metrics”という言葉の由来が、W. Edwards Demingであることを知りました。Demingは米国の統計学者で戦後日本の経済復興にとって大きな役割を働いたことも、実は初めて知りました。DemingはSonyやToyotaなど日本の代表的製造業に非常に大きな影響を与え、後に米国Ford Motor社の経営改善にも貢献しました。それはDemingが1950年の夏に日本企業経営者に“improving quality will reduce expenses while increasing productivity and market share.”（質の向上が結果として経費を削減し、生産性と市場シェアを増す）と伝え、品質の向上こそが製造業が目指すべきものとの考え方を説きました。この考えに基づく製造業の振興が日本製品は高品質であるという世界的評価につながり、「日本製品のブランド力」向上をもたらしたとされています。ともすれば経営者は経費削減や生産性向上を目標にしがちですが、実は品質の向上を目標にすれば自ずと経費削減も生産性向上も得られると教えた訳です。品質管理に必要な統計的手法や計測基準の話を引用しながら、Traversoは開腹と腹腔鏡下手術を比較する評価項目（metrics）を設定しました。

ウィリアム・エドワーズ・デミング
William Edwards Deming

http://ja.wikipedia.org/wiki/W・エドワーズ・デミング/ より引用

彼の講演から気づいたことがあります。手術も質の向上により、結果として経費を削減し（合併症の減少から入院費の削減）、手術件数の増加（入院期間の短縮から患者数増加）と手術希望患者数の増加（評判による市場シェア増大）をもたらすということです。もちろん、手術室稼働率による制限はありますが、理論的にはDemingの教えが手術の質と経費や手術件数の関係に通じることに驚かされました。一方、Demingは変革には“system of profound knowledge”（深い知識体系）が必須であると説いたこともTraversoは引用し、開腹手術から腹腔鏡下手術への変革にある種の苦言を呈したものと理解しました。外科医としての“system of profound knowledge”とは何だろうと考えながら、さらに別の思いにとらわれてしまいました。

日本は今自信を失っていると言われております。確かにGDP 2位の座を中国に奪われ、東日本大震災を経験し、政治家はリーダーシップを発揮できておりません。若い外科医も留学希望が減り、NIHでも日本人留学生が激減しアジア人と言えば中国や韓国からの留学生になってしまっています。肝移植も胃切除も、韓国の大規模病院に数ではかないません。このまま“Japan as No.1”と言われた日本は戻ってこないのでしょうか？ちょうど、この本が出版された頃に留学していた身からすると、少し寂しい気持ちがします。しかし、本当に日本は自信をなくすべきでしょうか？日本製品のブランド力は衰えていませんし、日本の技術力へは変わらず高い評価が与えられています。サッカー日本代表も個々の技術力が向上し、世界のトップリーグで活躍する選手が多数招集されています。外科手術も日本の技術は世界のトップであると確信しています。海外の学会でいつも感じるのは、日本から発表されるビデオは技術も画質も他の追随を許しておりません。

外科医として日本人として、質の向上を追求することこそが、日本の技術力をさらに高め、外科領域における日本のリーダーシップを維持し、外科手術による患者満足度を向上させる道と考えます。まだ自分の年でも、手術技術が向上していることがわかります。若い世代には、是非とも手術の技術にこだわり外科医として真摯に修練して欲しいと願っております。教室が高い手術技術を持った外科医集団として、国内外に認められる日が来ることを楽しみにしています。目の前の患者との出会いは二度とありません。“System of profound knowledge”を持って、しっかりとした手術技術で患者満足度の高い外科治療を教室として実践したいと思います。

今年一年を振り返って

岩手医科大学外科学講座
准教授
水野　大
Masaru Mizuno, M.D., Ph.D
Associate Professor

2011年の出来事は3月11日14時46分に発生した大地震とその後襲来した大津波につきます。被災された先生方に心よりお見舞い申し上げますとともに、ご親族、ご友人を亡くされた先生方に心よりお悔やみを申し上げます。教室のこの1年も大震災およびその復興へ向けた活動の一語に尽きると思います。震災翌日から教室では関連病院をはじめとする沿岸各地の医療支援にあたりましたが、それについては他稿に書かれていると思いますのでここでは割愛させていただきます。さて、地震発生時、私は県立大船渡病院で外来診察中でした。地鳴りを伴った強い揺れを感じ始めた後に携帯電話が緊急地震速報を発し、「長い揺れだな」と思っているうちに揺れはどんどん強くなり、転倒防止措置がなされた書棚の本が目の前を真横に飛んでいきました。ちなみにこの時の大船渡の揺れは4月7日の大余震時の盛岡のそれよりも数段強いものでした。地震発生直後は携帯メールが通じたので、家族・医局に無事であるとの連絡を入れ、副院長と相談したところ「盛岡の状況も判らないのでとりあえず帰って下さい」と言われ、地震発生約15分後（津波到達数分前）に病院を出発しました。その帰路にすれ違った、高台にある病院を目指す長蛇の車列のドライバー達は、一様にこれまでに見たことのない「眼」をしていました。おそらく、身近に死を予感した人間の「眼」だったのだと思います。この「眼」は今も脳裏に焼き付いており、津波の先端から20m先の道を一番危険な時刻に通り抜けた自分の無謀さ、5時間かけて医局に帰った後テレビで見た衝撃的な画像共々、一生忘れることはありません。以上、個人的な体験ばかりを述べましたが、多くの教室員は震災そのもの、その後の復興過程、医療支援のなかでいろいろなことを経験するとともに、感じ、考えたことと思います。精神的にかなり辛い経験ではありましたが、この「被災地の医療者」という希有な経験を今後の診療活動、あるいは社会活動に活かしていくのが、我々教室員の責務と考えます。

MASARU
MIZUNO

教室の今年1年

岩手医科大学外科学講座
准教授
佐々木　章
Akira Sasaki, M.D., Ph.D
Associate Professor

「教室の今年1年」というテーマを編集者からいただきましたが、2011年を振り返って正直に執筆が進みませんでした。「東日本大震災」の影響で手術件数、論文・学会発表などの業績は、いずれも減少しているだろうと予測できたからです。震災直後は、通常の手術・診療ができない状況でありましたが、逆に色々なことを考える機会にもなりました。被災地では、「東日本大震災」の経験を後世に伝えようと色々な取り組みが行われています。この観点からは医学も同様であり、「合併症の予防法と対処法」が重要です。教育機関である大学病院は常に医療の質と向上が期待され、私自身が苦労した合併症、そしてその経験からの対処法や手技の工夫を後輩に伝えていく必要があります。今後は、今まで指導してきた「術後に不安のない手術」を後輩に徹底したいと考えています。

大学病院に勤務するスタッフは、臨床、教育、研究のバランスが重要です。岩手医科大学には研究推進委員会研究評価部会があり、私もその委員を務めています。教員の評価基準は毎年改訂が行われていますが、2011年は、英文論文数（JCR掲載誌および岩手医学雑誌に掲載された論文を対象とし、共著者を含む）、論文掲載雑誌のimpact factor値の合計、筆頭演者学会発表数（国際学会、全国規模の学会）で評価されました。その中で、英文論文数の評価は、各講座の教員数×1未満は評価基準0点となっています。私はこの基準の意味を、「教員は年に1編以上の英文論文を書くこと」と解釈しています。残念ながら2011年の評価では当教室は0点でしたが、「東日本大震災による影響」と解釈したいと思います。しかし、この問題は、教室員全員が一丸となって取り組まなければ解決できないことであり、個々の自覚が必要です。最後に、色々な意味で「一陽来復」を願っています。

医局長とは

岩手医科大学外科学講座講師
医局長
肥田　圭介
Keisuke Koeda, M.D., Ph.D
Assistant Professor

KEISUKE KOEDA

医局長に就任してこの3月で早くも2年が経過しました。自分がすべき仕事がなんであるかやっと理解し多少整理がつきましたが未だ至らない点も多く医局員並びに同門の先生方にご迷惑をおかけしております。医局長の大きな仕事の一つに人事があり、どちらかというと皆様の気分を曇らせる連絡をあちこちにしている今日この頃であります。昨年は震災の年であり振り返るといろいろなことがありましたが震災に関しては昨年すでに書きましたので、今年は人事を含め近年の医局長の仕事を少しばかりご紹介したいと思います。

なんといっても大きな仕事は人事ですが年度末の異動以外の仕事の一つに毎月の医局員の出張調整があります。現在医局は大所帯ですので各月ごとに各グループの手術日に合わせて出張を割り振っています。一人ずれるとすべてがずれるみたいな感じでPCを相手に詰将棋のように決めていきます。当然医局員、出張先双方からいろいろな要望、意見（ときにクレーム）等があり、各々に対応しつつ配置を決めていきます（ご迷惑をおかけしております）。出張が決まると次に乳腺検診を割り振ります。乳検も好んで行く者が少ないので結構気を遣いながら（各個人やグループのバランスなど）決めています。加えて試験監督や研修会への派遣等、私が笑顔とともに「ちょっといい？」と声をかけるときはだいたいこの手のお願いです。皆快く苦笑いとともに引き受けてもらっています。この作業を毎月繰り返し行います。

医局の環境整備（部屋の改修）や備品の購入、財務管理も行います。すこしずつではありますが医局も模様替えが進んでいます。医局員のやる気、学生受けにもきれいな医局、研究室が大切です。アカデミックな雰囲気作りを心掛けています。財務に絡んで各時期の会（歓迎会や壮行会）、学生勧誘の企画や、細かいところでは新年会のワインや忘年会の景品の金額まで決める必要があります。

診療では外科手術枠の調整（これは医局長前からやっています。）、手術機器購入があり手術室の師長さんとはいつも手術の入る入らないでやりあっています。しかし、手術室の増室に伴い外科手術もスムーズに入る様になり、結局はちゃんと外科のことも考えてもらっているので、手術が入りやすくなった今年は師長さんとの関係も雪解けが予想されています（？）。

教育では何と言っても学生の勧誘の先頭に立たなくてはいけません。5年次の臨床実習が一番近くに接する機会ですので、真摯に外科の良さを語るようにしています。学生に外科を目指してもらうには直近の先輩が元気に仕事をしているところを見てもらうのが一番効果的と考えています。ゆえに医局の人員を厚くし（大学院制度の影響の方が大きいのですが）若い先生方が気持ちよく仕事ができるように気を配っています。これに関連して医局員の教育も大切です。自分も年を取ったせいか最近の若い先生方とのギャップを感じつつ、学会の入会を勧め専門医取得の進捗状況をチェックするなど昔に比べると至れり尽くせりの？指導をしています。また病気や怪我や悩みの相談等にも随時応じられるように門戸を広く開けているつもりなのですがいま一つ信頼と人気が伴わず充分なフォローができておらず教授をはじめ諸先生方に迷惑をかけています。

以上のように決して「医局長になったら家が建つ」なんてことは今の時代に全くありえません（昔はあったのでしょうか？）。一般の会社でいえば人事、総務、経理、営業、秘書室の課長といったところでしょうか。他にもたくさん仕事はありますが自分なりに肩を張らずにこなしていきたいと思っています。この度2年間任期が延長となりました。無事後輩に医局長業務を引き継ぐまで、引き続きこの「課長」をよろしくお願いいたします。

外科学講座スタッフ紹介《平成24年4月1日現在》

外科学講座 教授 若林 剛〔昭和57年卒〕
准教授 佐々木 章〔昭和63年卒〕
講師 新田 浩幸〔平成5年卒〕
講師 大塚 幸喜〔平成5年卒〕
助教 岩谷 岳〔平成7年卒〕
助教 長谷川 康〔平成14年卒〕
助教 秋山 有史〔平成11年卒〕
助教 板橋 哲也〔平成12年卒〕
助教 有末 篤弘〔平成18年卒〕
秘書 入月 友香
秘書 下川原美保子
秘書 井上 かおり

助教 遠藤 久仁〔平成14年卒〕
大学院生 梅邑 晃〔平成17年卒〕
助教 稲葉 亨〔平成9年卒〕
助教 鴻巣 正史〔平成13年卒〕
助教 木村 聡元〔平成14年卒〕
助教 小沼 浩人〔平成10年卒〕
大学院生 渡邊 陽太郎〔平成21年卒〕
ポストドクター 久米 浩平
大学院生 藤井 仁志〔平成20年卒〕
非常勤講師 杉立 彰夫

大学院生 遠藤 史隆〔平成18年卒〕
助教 藤原 久貴〔平成10年卒〕
助教 小林 めぐみ〔平成19年卒〕
秘書 菊池 知美
大学院生 眞壁 健二〔平成21年卒〕
助教 小松 英明〔平成16年卒〕
助教 高原 武志〔平成12年卒〕
大学院生 八重樫 瑞典〔平成21年卒〕
助教 伊藤 直子〔平成12年卒〕
講師 木村 祐輔〔平成6年卒〕
講師 柏葉 匡寛〔平成3年卒〕
講師 肥田 圭介〔平成元年卒〕
准教授 水野 大〔昭和62年卒〕
大学院生 石田 馨〔平成18年卒〕
助教 馬場 誠朗〔平成16年卒〕
大学院生 中村 聖華〔平成21年卒〕
大学院生 川岸 涼子〔平成21年卒〕
助教 伊藤 千絵〔平成18年卒〕
助教 菅野 将史〔平成16年卒〕
秘書 小向 貴子
秘書 岩崎 郁江

朝会風景

術前プレゼンテーション

術後プレゼンテーション

病棟回診風景

教授回診

西4階ナースステーション

外来風景

外来受付

外来診療

手術風景

食道チーム

胃チーム

乳腺チーム

肝胆膵チーム

内視鏡外科チーム

下部消化管チーム

小児外科チーム

上部消化管グループ《食道》

STAFF：木村祐輔･岩谷 岳･秋山有史･鴻巣正史

専門外来
火曜
8時30分-17時

食道癌の治療を担当しています。毎週火曜日の「食道専門外来」では、主に治療後のフォローアップや、ご紹介いただいた患者様の診察を行います。外来診療は通常のフォローアップとともに、外来化学療法室、治療放射線科と連携し、外来放射線/化学療法を積極的に導入しています。入院においては、手術治療を中心に早期癌から高度進行癌まで、当科が中心となり消化器・肝臓内科や放射線科と連携し治療にあたっており、特に手術不能の高度進行癌に対しては化学・放射線療法を組み合わせた治療を積極的に行うことにより治療成績の向上を目指しております。また、われわれは日本臨床腫瘍グループ（JCOG）に所属し、多施設共同臨床研究を通じて本邦の標準治療の開発に携わっております。

食道癌の治療につきまして、いつでもご相談をお受けいたしております。是非お気軽にご連絡下さい。

連絡先　木村祐輔　E-mail : ykimura@iwate-med.ac.jp

平成23年のニュース

- ３月 ▶野田芳範助教が、実家を継ぐために退職。新しい食道グループの立ち上げに尽力してくれて本当に感謝しています。新たなフィールドでの活躍を祈念しています。
- ４月 ▶秋山有史助教が医局に復帰。食道グループのみならず、外科医局の中核としの活躍を期待しています。

平成23年 診療･研究状況報告

●**入院数**：59例

●**手術数**：25例（胸腔鏡下食道切除術(腹臥位)：11例）

●**食道癌手術年次推移　全切除数（うち胸腔鏡下手術）**

2007年　28(7)例、2008年　28(17)例、2009年　32(20)例、2010年　26(12)例、2011年　25(11)例

●**平成23年研究報告**

【教室内】

・臨床試験「食道癌に対する5-FU+CDDP効果予測遺伝子診断薬の開発」症例登録中。

・TRICE06「食道癌生検標本の遺伝子プロファイル解析による化学放射線療法感受性予測に関する探求的研究」症例登録中。

・「分子標的治療薬ZD1839を用いた老化誘導療法による食道癌治療戦略の開発」文部科学省科学研究費　基盤研究C

・「核内γH2AX発現に基づく食道癌化学放射線療法の新たな感受性予測」文部科学省科学研究費　基盤研究C

・「胸部食道癌術後感染性合併症と血糖値に関する研究」

・「17番染色体長腕上の食道扁平上皮癌原因遺伝子の同定」

・「CDDPを用いた術前化学療法を施行した食道癌患者における、イオンビーム励起エックス線分光分析によるシスプラチン体内動態の検討」

・「食道扁平上皮癌の発生・進展に関与するフォスファターゼの変異・機能解析」

・「食道癌切除術後、アミノ酸付加末梢静脈栄養補助療法の検討」

【全国規模】

・JCOG0502「臨床病期Ⅰ（Clinical-T1N0M0）食道癌に対する食道切除術と化学放射線療法同時併用療法（CDDP+5-FU）のランダム化比較試験」症例登録中。

・JCOG0909「臨床病期Ⅱ/Ⅲ（T4を除く）食道癌に対する根治的化学放射線療法 +/－ 救済治療の第Ⅱ相試験」症例登録中。

・JCOG0807「切除不能または再発食道癌に対するDocetaxel, Cisplatin, 5-FU 併用療法の臨床第Ⅰ/Ⅱ相試験」症例登録中。

●**今後の研究課題**

・根治的放射線化学療法後のSalvage surgeryの積極的な実施。

・腹臥位胸腔鏡下食道切除術の手術件数を増加させる。

上部消化管グループ《胃》

STAFF：肥田圭介･藤原久貴

専門外来
木曜
8時30分-16時

昨年は3月の大震災の影響で症例数の減少が危惧されましたが、震災後手術を行う事が出来なかった県立宮古病院、県立釜石病院等からのご紹介もあり過去最高の症例数を経験することができました。ご紹介いただいた諸先生方に感謝申し上げます。診療内容としては昨年目標として掲げた①腹腔鏡下手術の適応拡大（進行がんへの応用、完全鏡視下手術の導入）②術前術後化学療法による高度進行胃がんに対する集学的治療に関しては徐々にではありますがスタートを切ることができました。今年の課題としては腹腔鏡手術では腹腔鏡下胃全摘術の定型化（特に再建）、Port reduced surgeryの導入を、化学療法（集学的治療）では症例に応じたオーダーメード治療の可能性についてすすめていきたいと思います。

またJCOG、がん集学的治療財団をはじめとする多施設共同研究に積極的に登録参加し胃がんの標準治療の確立にも貢献していきたいと思います。日本発のevidence確立に向け一層のご協力、ご紹介をお待ちしております。

平成23年のニュース

- ３月 ▶平成胃外科の会を八戸市で開催
- ４月 ▶千葉丈広先生、癌研有明病院研修（2年間）へ
- 12月 ▶胃癌切除例124例と過去最高を記録

平成23年 診療･研究状況報告

●**入院数**：240例

●**手術数**：137例

《内訳》

胃癌　　開腹切除　58例　　腹腔鏡下切除　66例

その他（非切除バイパス、GIST等）　13例

●**胃癌手術年次推移**

切除数　　2009年 111例、2010年 79例、2011年 124例

腹腔鏡下手術数 2009年　49例、2010年 41例、2011年　66例

●**平成23年研究報告**

・JCOG 0110「上部進行胃癌に対する胃全摘術における脾合併切除の意義に関するランダム化比較試験」症例登録終了、解析中。

・JCOG 0501「根治切除可能な大型3型・4型胃癌に対する術前TS-1+CDDP併用療法による第Ⅲ相試験」症例登録中。

・JCOG 0705「治癒切除不能進行胃癌に対する胃切除術の意義に関するランダム化比較第Ⅲ相試験」症例登録中。

・JCOG0912「臨床病期Ⅰ期胃がんに対する腹腔鏡下幽門側胃切除術の開腹幽門側胃切除術に対する非劣性を検証するランダム化比較試験」症例登録中。

・JCOG1001「深達度SS/SEの切除可能胃癌に対する網嚢切除の意義に関するランダム化比較第三相試験」症例登録中。

・JCOG1002「「高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対する術前Docetaxel+CDDP+S-1の第Ⅱ相試験」症例登録中。

・JACCRO GC-05「初回TS-1療法に治療抵抗性を示した進行・再発胃癌に対する二次化学療法－CPT-11単独療法vs TS-1+CPT-11併用化学療法の無作為化比較第Ⅱ/Ⅲ相臨床試験－」症例登録中。

・JFMC42-1002「胃全摘術施行後の消化管機能異常に対する大建中湯の臨床効果（プラセボを対照とした多施設二重盲検群間比較試験）症例登録中。

・JFMC43-1003「切除不能進行・再発胃癌症例に対するTS-1の連日投与法および隔日投与法のランダム化第Ⅱ相試験」症例登録中。

・JLSSG0901「進行胃癌に対する腹腔鏡下手術と開腹手術の安全性と根治性に関するランダム化Ⅱ/Ⅲ相比較試験」症例登録中。

・HERBIS-1「HER2陽性・測定可能病変を有する進行再発胃癌に対するTS-1+CDDP+Trastuzumab3週間サイクル併用療法第Ⅱ相試験」　症例登録中。

・日本外科感染症学会多施設共同試験「胃全摘手術における術後感染予防薬の投与期間に関する比較試験」症例登録中。

・「胃癌術後評価を考える」ワーキンググループ「胃切除術式と胃術後障害に関する研究」解析中。

●**今後の研究課題**

・進行胃癌術前化学療法（TS-1/CDDP）療法後切除検体を用いた薬物動態の解析

・腹腔鏡下胃癌手術の推進、技術認定医育成など

・癌性腹水に対する抗癌剤感受性試験を指標とした化学療法

内分泌グループ《乳腺》

STAFF：柏葉匡寛・稲葉 亨・小松英明・川岸涼子
松井雄介

専門外来
火・水曜日
8時30分-17時
（紹介新患13時～）

乳腺チーム計11名（専門常勤医師3名、薬剤師3名、乳がん看護認定看護師1名を含む看護師5名）での診療を基本としています。術前化学療法を約30%に、センチネルリンパ節生検は過去900例以上と経験も豊富です。医師だけでなく看護師、薬剤師による親身な患者サポートにより患者さんをチームの一員として共に立ち向かうチーム医療の実践をモットーとしています。セカンドオピニオン、薬物療法の相談、再発治療からの紹介も承っています。先進的な医師主導型試験、国際第Ⅲ相試験にも積極的に参加し東北で最も高いレベルの医療実践を心懸け、そのビジョンを通し乳腺外科医の育成を推進しています。

平成23年のニュース

- ● １月 ▶大学院中間審査（川岸）
- ● ２月 ▶乳癌学会九州地方会でシンポジスト（柏葉）
- ● ３月 ▶乳癌学会東北地方会でランチョンセミナー（柏葉）
  - ▶震災にてSt.Gallen Consensus 2011参加キャンセル
  - ▶各自沿岸部救援活動に励む
- ● ６月 ▶ASCO参加（柏葉）
- ● ８月 ▶乳癌最新情報カンファランスにて招待講演（柏葉）
  - ▶乳がん病診連携会議　開催
  - ▶沿岸部MMG検診ボランティア参加（小松）
  - ▶ISWにてPlenary session発表（柏葉）
- ● ９月 ▶乳癌学会総会で全員が発表（柏葉、稲葉、小松、川岸、松井）
- ●10月 ▶第３回岩手ピンクリボンスマイルウォーク参加
  - ▶第49回日本癌治療学会総会ミニシンポジウム発表（柏葉）
- ●11月 ▶ABC-1（Advanced Breast Cancer-1）@Lisbonに参加（柏葉）
  - ▶リサーチプロポーザル完了（川岸）
- ●12月 ▶San Antonio Breast Cancer Symposiumに参加（柏葉、小松）
  - ▶小松先生結納

平成23年 診療・研究状況報告

●**入院数**：154例
●**手術数**：135例

《内訳》

疾患	術式	症例数
乳癌	乳房部分切除	89例（温存率65％）
	うち内視鏡補助下	2例
	胸筋温存乳房切除	46例
	うち同時再建	3例
計		135例

《年次手術数推移》

	2009年	2010年	2011年
原発乳癌	134件	150件	135件

●**平成23年研究報告**

《臨床研究》

・原発乳癌におけるKi67-LIの有用性の検討
・原発巣における乳がん幹細胞の予後予測因子、薬剤感受性に関する検討
・乳癌の転移と薬剤感受性におけるEMTの関与の検討

《医師主導研究》

・JBCRG（Japan Breast Cancer Research Group）-04「術前化学療法、原発巣手術施行後、病理学的に腫瘍が残存している乳がん患者を対象にした術後補助療法におけるCapecitabine単独療法の検討」第Ⅲ相比較試験
・JBCRG（Japan Breast Cancer Research Group）-06「閉経後・ホルモン感受性・neo-adjuvant anthracycline不応性の原発性乳癌に対する術前 Letrozole 療法の第Ⅱ相試験
・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳がん臨床研究支援事業「転移・再発乳がんに対するタキサン系薬剤とティーエスワンのランダム化比較試験（SELECT-BC）」
・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳がん臨床研究支援事業「レトロゾールによる術前内分泌療法が奏効した閉経後乳がん患者に対する術後化学内分泌療法と内分泌単独療法のランダム化比較試験（NSAS-BC06）
・財団法人パブリックヘルスリサーチセンター：乳がん臨床研究支援事業「HER2陽性の高齢者原発性乳がんに対する術後補助療法における化学療法とトラスツズマブ併用に関するランダム化比較試験（NSAS-BC07）

《開発治験》

・前治療なしのHER2陽性転移性乳癌患者におけるPertuzumab +Trastuzumab + DocetaxelとPlacebo + Trastuzumab + Docetaxelの有効性及び安全性を評価する国際第Ⅲ相無作為化二重盲検プラセボ対照比較試験（CLEOPATRA試験）
・ErbB-2陽性局所再発性又は転移性乳癌患者を対象としたNeratinib（HKI-272）とパクリタキセルの併用投与及びトラスツズマブとパクリタキセルの併用投与を第一選択療法として比較する国際第Ⅲ相無作為化非盲検2群対照試験
・KRN125第Ⅱ相臨床試験（乳癌の癌化学療法による好中球減少症に対するKRN125の用量設定試験）
・「転移・再発乳癌患者を対象としたRO4876646（Avastin）とパクリタキセルの併用第Ⅱ相試験」
・転移性乳癌患者を対象としたABI-007（アブラキサン）毎週投与とドセタキセル3週ごと投与法との比較第Ⅱ相試験
・「RO5304020（T-DM1）によるHER2陽性の局所進行・再発又は転移性乳癌患者を対象とした第Ⅱ相臨床試験」
・「HER2陽性の進行性／再発性の局所進行乳癌又は転移性乳癌（MBC）の一次治療としてのT-DM1とペルツズマブの併用又はT-DM1とペルツズマブのプラセボ（ペルツズマブに対し盲検）の併用の有効性及び安全性をトラスツズマブとタキサン系薬剤の併用と比較する国際多施設共同第III相ランダム化3群比較試験」（MARIANNE試験）

●**今後の研究課題**

・Triple-negative（ER/PgR/HER2陰性）乳癌のサブタイピングの臨床的意味の検証
・薬剤感受性と転移における乳癌幹細胞の機能の検証
・EMTと薬剤感受性の関連性の検討
・Trastuzumab耐性に対するProteomicsによる検証
・看護師・薬剤師による術後化学療法におけるPatterns of Care研究の指導・支援
・癌化学療法専門薬剤師、乳がん看護認定看護師の育成補助
・チーム医療の有用性の科学的評価

内分泌グループ《甲状腺》

専門外来
水曜
14時-17時

STAFF：小笠原 聡・冨澤勇貴

甲状腺グループは、少数（2人）精鋭（?）チームで診療にあたっております。当科では、術中の反回神経モニタリングや術中iPTH測定、リコンビナントTSH製剤による術後ヨードシンチ、内視鏡外科グループにて内視鏡下甲状腺手術など特徴ある治療を行っております。また、甲状腺未分化癌コンソーシアムに加盟し、未分化癌の全国集計や研究に参加しており、未分化癌の治療・研究には力を入れております。

2012年の大きな変革として、4月より内丸病院にて甲状腺疾患の診療を行うことになりました。それに伴い、甲状腺専門外来が月曜から土曜日の毎日となり、紹介や受診しやいようになりました（医大では水曜午後のみ）。手術も内丸病院となり、手術日数も十分確保できるようになりました。多くの甲状腺患者様のニーズに対応できるように、病院全体として受け入れ体制を整えております。

平成23年のニュース

- ３月 ▶第24回東北甲状腺談話会（盛岡）中止（3.11の翌日開催予定）
- ７月 ▶第11回岩手甲状腺研究会（盛岡（中止（3.11震災後のため）
- 10月 ▶冨澤　第44回日本甲状腺外科学会シンポジウムで発表
- 12月 ▶小笠原　日本内分泌甲状腺外科専門医合格！
  ▶冨澤　消化器外科専門医合格！
  ▶冨澤　日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士合格！

平成23年 診療・研究状況報告

●**入院数**：66例

●**手術数**：62例

《内訳》

疾患	術式	症例数
甲状腺癌	甲状腺悪性腫瘍手術	30例
甲状腺良性疾患	甲状腺切除術	21例
副甲状腺疾患	副甲状腺摘出術	5例
その他		6例

《年次手術数推移》

	2009年	2010年	2011年
甲状腺癌	32	33	30
甲状腺良性、その他	35	25	32
計	67	58	62

●**平成23年研究報告**

《教室内》

・「甲状腺未分化癌の白血球増多とサイトカインの検討」
・「抗癌剤感受性試験に基づいた甲状腺未分化癌の化学療法」
・「低酸素環境における癌細胞の増殖能の検討」
・「甲状腺癌の癌幹細胞の証明」

《全国規模》

・「甲状腺未分化癌と石灰化の検討」甲状腺未分化癌コンソーシアム研究
・「リコンビナントTSHを用いたヨードシンチグラフィー」（市販後調査）

●**今後の研究課題**

・「甲状腺癌全摘術後の外来アブレーションの治療成績」
・「術中反回神経モニタリングを用いた反回神経温存の治療成績」
・「甲状腺未分化癌におけるG-CSF細胞内シグナル伝達の検討」

内視鏡外科グループ

専門外来
水曜
8時30分-12時

STAFF：佐々木 章・大渕 徹・馬場誠朗・梅邑 晃

臨床ではsingle-port surgeryの適応拡大、研究では高度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術に関する研究が中心となりました。

平成23年のニュース

- ６月 ▶圭陵会学術賞受賞（佐々木章）
  ▶岩手詣学士受賞（佐々木章）

平成23年 診療・研究状況報告

●**入院数**：189例

●**手術数**：内視鏡外科手術　71例（盛岡市立病院での施行例を含む）、ヘルニア手術　98件

《内訳》

疾患	術式	症例数
胆嚢良性疾患	腹腔鏡下胆嚢摘出術	9
	単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術	27
甲状腺良性疾患	内視鏡下甲状腺亜全摘術	6
	内視鏡下甲状腺葉切除術	2
副腎疾患	単孔式腹腔鏡下副腎摘出術	6
高度肥満症	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	5
食道アカラシア	単孔式腹腔鏡下Heller-Dor手術	2
逆流性食道炎	腹腔鏡下Nissen噴門形成術	1
胃粘膜下腫瘍	単孔式腹腔鏡下胃局所切除術	3
腹壁瘢痕ヘルニア	腹腔鏡下修復術	1
	開腹下修復術	1
腹膜偽粘液腫	開腹下腹腔リザーバー留置術	2
後腹膜腔嚢胞	腹腔鏡下嚢胞切除術	1
膵管内乳頭粘液性腫瘍	腹腔鏡下膵体尾部切除術	1
横隔膜ヘルニア	腹腔鏡下ヘルニア修復術	1
腸閉塞	腹腔鏡下癒着剥離術	1
上腸管膜動脈血栓症	開腹下小腸切除術	1
結腸穿孔	開腹下結腸部分切除術	1
ヘルニア	全麻　29例、局麻69例	98
計		169

《年次手術数推移》（主要疾患）

疾患	2009年	2010年	2011年
胆嚢良性疾患	56	41	36
甲状腺良性疾患	13	6	8
脾臓疾患	9	7	0
副腎疾患	7	3	6
高度肥満症	6	2	5
食道良性疾患	5	4	3

●**平成23年研究報告**

《教室内》

・単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の多施設共同臨床研究：終了
Single-port versus multi-port laparoscopic cholecystectomy: a prospective randomized clinical trial. Surg Laparosc Endosc Percutan Tech (in press).
・肥満症に対する低侵襲外科治療効果と脂肪細胞由来ホルモンの動態：継続
（平成22年度科研費 基盤研究C）
・MSP法とmRNAマイクロアレイ法による肥満関連遺伝子の解析：継続
（平成22年度圭陵会学術振興会 共同研究助成）
・単孔式腹腔鏡下手術における腹部実質臓器の針状圧排鉗子・器具に関する研究：継続
（平成22年度内視鏡医学研究振興財団 研究助成）
・遠隔医療会議を利用した医師と医療従事者の教育：継続
（平成23年度地域医療研究事業）

《全国規模》

・肥がん専門医等育成事業（厚生労働省共同事業）
www.cael.jpをごらん下さい

肝胆膵グループ

専門外来
木曜
8時30分-12時30分
金曜
8時30分-12時30分

STAFF：若林 剛･新田浩幸･高橋正浩･高原武志
伊藤直子･長谷川 康

肝胆膵系悪性・良性疾患に対する拡大手術、内視鏡(腹腔鏡・胸腔鏡)手術、化学療法、肝移植など幅広い治療選択肢をもって、患者様に最も適した治療は何かを考え診療にあたっております。

特に、肝疾患に対する内視鏡下手術は本邦で最も症例数の多い施設の一つであり、2011年は肝切除症例の84%を内視鏡下手術で行いました。高度医療として承認されている腹腔鏡補助下肝切除術に関しても継続して行っており、生体肝移植のドナー手術のみならず肝門部胆管癌（血管合切）などに対しても導入するなど適応を拡大しております。一方で、完全腹腔鏡下肝切除術も積極的に行っており、手術手技の向上・定型化をすすめております。胆道癌や膵癌に対しては術前および術後補助化学療法など、手術成績を向上させるべく取り組んでおります。

2011年9月に脳死肝移植施設として認定され、現在病院をあげて脳死肝移植に向けた準備をすすめているところであります。

新患、手術後の患者さんの診察を週に二日間設けて行っており、新患は主に木曜日午前、化学療法は主に金曜日の外来で担当しております。

平成23年のニュース

- ● ９月 ▶脳死肝移植施設に認定されました。
- ●10月 ▶第30回Microwave Surgery研究会を盛岡で開催しました。
- ●11月 ▶岩手医大生体肝移植30例記念肝移植セミナーを開催、神戸国際医療交流財団理事長の田中紘一先生に講演を頂戴しました。

平成23年 診療･研究状況報告

●**入院数**：234例

●**手術数**：169例

●**平成23年の手術症例**

《疾患別》

▶悪性：肝細胞癌：27例／転移性肝癌：43例／肝内胆管癌:2例／胆管癌:30例（肝門部11例、肝外19例）／胆嚢癌:7例／乳頭部癌：1例／膵癌（IPMC含む）：17例▶良性：生体肝移植ドナー、肝嚢胞、IPMNなど　27例▶その他:後腹膜腫瘍など　15例

《術式別》

生体肝移植：7例／肝切除：96例／ PpPD：27例／ PD：1例／膵体尾部切除：9例／膵全摘：2例／胆管切除：3例／胆石、胆嚢良性疾患手術：4例／後腹膜腫瘍摘出：1例／バイパス（胆管、消化管）:3例／非切除:2例／その他:14例

《年次推移》

	2009	2010	2011
肝細胞癌	36	28	27
肝内胆管癌	6	1	2
転移性肝癌	36	50	43
胆管癌	26	21	30
胆嚢癌	5	10	7
乳頭部癌	6	2	1
膵癌	16	15	17
生体肝移植	5	9	7

●**平成23年研究報告**

《教室内》

・「大腸癌肝転移に対する肝切除前化学療法後の肝予備能評価と術後肝再生に関する研究」論文作成中。
・「3D-CTによる腹腔鏡補助下ドナー肝切除術の術難易度予測」症例集積中。
・「生体肝移植術周術期における好中球エラスターゼ阻害剤投与の検討」症例集積中。
・「肝切除患者における肝栄養療法の有用性に関する臨床研究」症例集積中。
・「肝切除手術における画像支援ナビゲーションの有用性に関する検討」症例集積中。
・「腹腔鏡下肝切除における循環動態の実験的検討」症例集積中。

《全国規模》

・「初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有用性に関する多施設共同ランダム化並行群間比較試験」
・「ゲムシタビン耐性膵癌に対するS-1療法とS-1+オキサリプラチン（L-OHP）併用療法の無作為化比較試験」

●**今後の研究課題**

・腹腔鏡補助下肝切除術の有用性に関する多施設共同研究
・胆道癌術後補助化学療法としてのTS-1+GEM併用第Ⅲ相試験
・完全腹腔鏡下肝切除術における手術手技の定型化
・開腹肝切除の低侵襲化を目指した手術手技の確立

ヘルニアグループ

専門外来
水曜
14時-17時

STAFF：冨澤勇貴･他医局員

成人鼠径ヘルニアに対して、膨潤局所麻酔（TLA）下のStandard Kugel法を標準的に行っております。高齢者・合併症のある患者様・抗凝固剤血小板内服中の患者様でも（内服を中止せず）、積極的に本法を施行しております。また、平成23年より、（単孔式）内視鏡下腹膜外アプローチ法（TEP法：transextraperitoneal approach法）を導入しました。Kugel法を臍下から内視鏡下で行うイメージで、腹膜前腔を剥離してpatchを挿入します。一方、若年成人女性に対してはpatchを使用しない鼠径ヘルニア手術法として、単孔式腹腔鏡下経皮的腹膜外閉鎖法（SILPEC法）を導入して、ヘルニア学会等で報告しております。

ヘルニア手術はさまざまありますが、それぞれの術式の利点を生かして、特徴ある診療を行っております。

平成23年のニュース

- ● １月 ▶冨澤　ヘルニア担当に。
- ●11月 ▶第4回東北ヘルニア研究会開催（仙台）
- ●12月 ▶冨澤　消化器外科専門医合格!
- ▶TEP法導入

平成23年 診療･研究状況報告

●**入院数**：98例

●**手術数**：98例

●**平成23年診療報告**

《内訳》

	症例数
膨潤局所麻酔法	69例
全身麻酔法	29例
Standard Kugel法	78例
腹腔鏡下ヘルニア修復術	5例
Mesh-Plug法	9例
UPP	1例
その他	5例

《年次手術数推移》

	2009年	2010年	2011年
ヘルニア手術	92	87	96

●**平成23年研究報告**

《教室内》

・静単孔式腹腔鏡下経皮的腹膜外閉鎖法（SILPEC法）の有用性と成績

●**今後の研究課題**

・内視鏡下腹膜外アプローチ法（TEP法：transextraperitoneal approach法）と腹腔内アプローチ法（TAPP法：transabdominal preperitoneal法）との比較

下部消化管グループ

STAFF：大塚幸喜・板橋哲也・木村聡元*（*4月から加藤久仁之と交代）
千葉励子・熊谷妃小江（WOCN；ストーマ外来）

専門外来
月曜
8時30分-15時
＊外来化学療法のみ
金曜AM

1997年から大腸癌に対する腹腔鏡手術をはじめ、2011年12月まで984名の患者様に行ってきました。年々増加傾向にあり、昨年は全大腸癌手術の76％が腹腔鏡手術でした。最近の特徴として、80歳以上の超高齢者や心疾患・脳疾患の患者様、そして肛門温存を強く希望される患者様に対する腹腔鏡手術が増加しておりますが、大きな合併症無く良好な成績が得られております。これも低侵襲手術がもたらした結果と自負しております。さらに当グループには日本内視鏡外科学会技術認定医が3名在籍していることも、術後合併症が少ない理由と考えています。

切除不能・再発大腸癌に対しては板橋哲也助教を中心に、全国標準化学療法を患者様の立場になってわかりやすく説明し行っております。

潰瘍性大腸炎やCrohn病などの炎症性腸疾患症例に対しても患者様のQOLを重視した腹腔鏡下手術を積極的に行っております。

ストーマ外来は当院の千葉励子、熊谷妃小江WOCナース2名で外来・入院ストーマ教育を行っており、精神面からもフォローさせていただいております。

また若手外科医に対しての腹腔鏡手術の教育も積極的に行っており、2011年は全国から29名の手術見学者を患者様の同意を得た上で受け入れております。

平成23年のニュース

- ● ３月 ▶「3.11」当日は、腹腔鏡手術執刀直前で患者様には大きな影響はなかった。
  ▶岩手ストーマ研究会中止
- ● ５月 ▶5人から、一人減？の4人の新体制でスタート。
- ● ９月 ▶北東北LAC情報交換会中止。
- ●12月 ▶震災の影響か？ 4人体制の影響か？症例数は2010年より減少。

平成23年 診療・研究状況報告

●**入院数**：289例
●**手術数（全麻）**：223例 ＊そのうち大腸癌手術は156例
《内訳》

疾患	術式	症例数
結腸癌（95例）	開腹結腸切除術	20例
	腹腔鏡下結腸切除術	75例
直腸癌（61例）	開腹高位前方切除	2例
	腹腔鏡下高位前方切除	10例
	開腹低位前方切除	3例
	腹腔鏡下低位前方切除	23例
	腹腔鏡下超低位吻合（ISR含む）	2例
	開腹マイルス手術	5例
	腹腔鏡下マイルス手術	3例
非切除大腸癌 FAP	開腹ハルトマン手術	5例
	腹腔鏡下ハルトマン手術	4例
	経肛門的腫瘍切除	6例
	人工肛門造設	6例
	腹腔鏡下大腸全摘	1例
大腸良性腫瘍	腹腔鏡下手術	7例
	開腹手術	2例
Crohn病（5例）	腹腔鏡下手術	1例
	開腹手術	4例
潰瘍性大腸炎（4例）	腹腔鏡下大腸全摘	1例
	開腹大腸全摘	3例
大腸癌再発 直腸癌術後	腫瘍切除	4例
	一時的回腸人工肛門閉鎖	7例
イレウス	開腹イレウス解除	3例
	腹腔鏡下イレウス解除	4例
他（憩室炎・腹膜炎など）		6例
＊他科応援手術	（婦人科・泌尿器科）	16例

《大腸癌の年次手術数推移》

	2009年	2010年	2011年
結腸癌全手術数	101	109	95
直腸癌全手術数	81	73	61
計	182	182	156
腹腔鏡下大腸癌手術	115	136	120

●**平成23年研究報告**
《教室内》
・「組織学的ステージⅢa、Ⅲb大腸癌症例に対する術後補助療法としてのUFT/LV療法とUFT/LV+PSK療法の無作為化第Ⅲ相比較臨床試験」ICOG-CC01：岩手医科大学関連施設との共同臨床試験：260例集積中（2012年3月時点）。
・「結腸・直腸癌肝転移に対するベバシズマブ併用FOLFOX療法による肝切除の検討－第Ⅱ相臨床試験－」ICOG CRC ML-001；岩手医科大学関連施設との共同臨床試験：25例集積中（2012年3月時点）。
・「大腸癌術後の消化管機能に対する大建中湯の臨床的効果(比較試験)」：80例集積中（2012年3月時点）八重樫瑞典
・「腹腔鏡下結腸手術における硬膜外麻酔の必要性に関する検討(比較試験)」：20例集積中（2012年3月時点）
・「腹腔鏡下大腸癌手術における小開腹創位置の標準化に関する検討(比較試験)」：50例集積中（2012年3月時点）藤井仁志
《全国多施設共同研究》
▶JCOG
・0910試験「Stage Ⅲ治癒切除大腸癌に対する術後補助化学療法としてのCapecitabine 療法とS-1 療法とのランダム化第Ⅲ相比較臨床試験」CAPS：症例集積中
・1006試験「大腸癌切除における適切な切除手順に関するランダム化比較試験」：症例集積中
▶腹腔鏡下大腸切除研究会
・「Clinical Stage 0-I 期直腸癌に対する腹腔鏡下手術の妥当性に関する第Ⅱ相試験」Lap-RC：症例集積終了・解析中
・「高齢者における腹腔鏡下大腸切除術の有効性と安全性に関する後ろ向き調査」：症例集積終了・解析中
・「Stage Ⅳ大腸癌に対する腹腔鏡下手術の意義」：症例集積終了・解析中
・「横行結腸癌、下行結腸癌に対する腹腔鏡下大腸切除術の後向き試験」：症例集積終了・解析中

●**今後の研究課題**
▶臨床面
・内視鏡外科学会技術認定医の育成。
・腹腔鏡下大腸手術の県内外への啓蒙と技術指導。
▶研究面
・ICOG CCの論文化
・ICOG CRC LMの登録数の拡大
・大学院生に対する学位指導
・学会発表の論文化

リサーチグループ《分子治療研究室》

STAFF：西塚 哲・岩谷 岳・久米浩平・松尾鉄平・遠藤史隆
片桐弘勝・石田 馨・池田みゆき・小笠原 聡・杉立彰夫

グループ整列

グループ乱列

外科分子治療研究室では再発癌の分子生物学的特徴、肝再生機序、および抗癌剤感受性バイオマーカー探索を柱として研究を行っています。スタッフ2名、ポスドク1名、大学院3名および非常勤2名でそれぞれのテーマに取り組んでいます。また今年度からはポスドクの久米浩平先生が岩手大学より加わりました。九州大学生体防御研究所で、2年間にわたり食道癌の遺伝子研究を行った岩谷岳先生も2012年5月には準備完了です。全員が日中に揃わないので、論文抄読会は毎週金曜日午前6時45分からですが、最近では医学部学生も参加するようになりこちらも活気に満ちた抄読会となってきています。今年こそ岩手、東北そして日本に活力を与える情報を発信していきます。

平成23年のニュース

- ● ３月 ▶11日、東日本大震災。西塚・松尾、制癌剤適応研究会（熊本）出席中に震災の報を聞く。松尾学位審査。池田退職。
- ● ４月 ▶久米、ポスドクとして参加。遠藤、大学院研究開始。西塚、アメリカ癌学会の口演で震災について話す。米国国立がん研究所日本支援プログラムMichael Gottesman博士と面談。
- ● ５月 ▶医学部4年生ラボ配属（7名）。
- ● ７月 ▶片桐、大学院研究開始。
- ● ９月 ▶医学部4年生ラボ配属国内海外研修（1ヶ月）。
- ●10月 ▶西塚、逆相タンパクアレイ国際ワークショップ（テキサス州ヒューストン）出席中、被災した子供達へと3000通の手紙の分配を要請される（後日日本赤十字社が分配）。
- ●12月 ▶忘年会で作製したDVDが大反響。

平成23年 診療･研究状況報告

●診療報告：抗癌剤感受性試験

12例（胃6例、その他6例）

●平成23年研究報告

《教室内》

・タンパク質動態とマウス異種移植モデルによるセツキシマブの抗腫瘍効果の解析（松尾）
・抗癌剤抵抗性がん細胞集団の解析（久米）
・抗癌剤投与におけるがん細胞双安定性の解析（久米）
・5-FU系薬剤抵抗性における転写因子群の解析（遠藤）
・生体肝移植をモデルとした肝再生機構の解析（片桐）

小児外科グループ

STAFF：水野 大･有末篤弘･小林めぐみ

専門外来
火曜・金曜
10時-12時

一般小児外科外来：前年同様、原則、火曜日と金曜日の10時から12時を一般小児外科外来診察時間としておりますが、他の曜日・時間も手術、検査をはじめとする他業務との兼ね合いをみながら可能な限り対応させていただいております。

小児ストーマ・スキンケア外来：第4火曜日14時から16時。WOCナースと協力しながら、人工肛門を有する患者様や、直腸肛門奇形術後、神経因性排便障害等の患者様にスキンケア、排便コントロール等の指導をしております。

また、原則として30分刻みの枠に各5人の予約設定とし、患者様の待ち時間短縮を図っております。

平成23年のニュース

- ● ３月 ▶水野、大船渡で東日本大震災に遭遇。約5時間にわたり消息不明となる。
- ● ７月 ▶虫垂炎穿孔による汎発性腹膜炎に対する待機的虫垂切除術導入
- ●10月 ▶乳児肝芽腫に対しHanging maneuverを用いた肝切除術施行。

平成23年 診療･研究状況報告

●入院数：228例

●手術数：219例

《内訳（重複あり）》

▶新生児（横隔膜ヘルニア，CCAM，壊死性腸炎，腸閉鎖，消化管穿孔，鎖肛，腹壁異常など）15例▶悪性腫瘍（悪性リンパ腫，肝芽腫，奇形腫など）７例（含む生検）▶上部消化管（胃食道逆流症，食道狭窄症，肥厚性幽門狭窄症など）19例▶下部消化管（イレウス，Meckel憩室，腸重積，直腸肛門奇形など）23例▶肝胆膵脾（肝芽腫，胆道拡張症，遺伝性球状赤血球症など）６例▶急性虫垂炎　18例▶鼡径ヘルニア（停留精巣含む）47例▶泌尿器系（水腎症，膀胱尿管逆流症，腎不全など）28例▶呼吸器系（CCAM，気胸，気管切開など）12例

●過去3年間の手術数

平成21年：224件／平成22年：209件／平成23年：219件

●平成23年研究報告

《教室内》

・胃瘻を利用した新たな低侵襲胃噴門形成術の開発　動物実験継続中
・大動物を用いた小児腹腔鏡下手術教育

《全国規模》

・JNBSG　日本神経芽腫芽腫研究グループ　高リスク神経芽腫臨床試験
・JPLT3　日本小児肝癌スタディグループ
・JWiTS2　日本ウィルムス腫瘍スタディグループ

高度救命救急センター

専門外来

24時間体制

STAFF：小鹿雅博・野田宏伸

三次外来紹介：24時間、年中無休。年間約6000件の救急搬送患者を収容しております。高度救命救急センターは院内各講座からスタッフが派遣されている複合科であり、各科医師との連携が重要です。外科学講座はじめ同門の先生方の多大なご協力に深く御礼申し上げます。我々は外科チームですが、あらゆる救急疾患、重症疾患、急性血液浄化等の窓口とも考えております。適切な専門医と連絡を取りますので、24時間いつでもどのような病態でもご相談ください。岩手医科大学代表電話（019-651-5111）から救急センター事務経由で呼び出すように命じてください。

平成23年 診療・研究状況報告

●**入院数**：192例

内因性疾患　110例

外傷　　82例

●**手術数**：92例（全身麻酔）

内因性疾患（手術数）

特発性食道破裂1例

胃十二指腸潰瘍穿孔7例

小腸イレウス3例

急性胆嚢炎1例

虫垂炎22例

大腸癌イレウス3例

大腸穿孔18例

急性虚血性腸疾患9例

嵌頓ヘルニア3例

外傷（手術数）

胸部外傷1例

横隔膜破裂2例

腸間膜・腸管損傷9例

その他（異物等）2例

局所麻酔

気切・PEGなど11例

●**平成23年研究報告**

《教室内》

・術後敗血症に対する人工膵臓を用いた血糖管理

・抗生剤による生体反応修飾の研究

・エンドトキシン遊離作用抗菌薬のサイトカイン産生能検討

・ALI/ARDSによる新規メディエーター検討

・LPS刺激によるendotoxin中和能の検討

・急性虫垂炎における保存的加療（抗菌薬治療）の検討

●**今後の研究課題**

・人工膵臓を用いた血糖管理（多施設共同研究）

・終末糖化産物（advanced glycation end products）とサイトカイン変動による生体侵襲反応とSSIの関係

・血管内冷却システムによる敗血症患者の生体反応

・下部消化管穿孔に対する集学的治療
（Surviving Sepsis Campaign guidelines for management of severe sepsis and septic shockの再検証）

・侵襲、敗血症に対する生体反応の究明。とくにサイトカインと各種細胞膜上レセプター発現の変動と臓器障害について。
（S100A12,HMGB1,sRAGE,AGE,MCP1の特異的変動）

岩手医科大学附属花巻温泉病院外科

STAFF：細井信之・高橋正浩

昨年3月に脳出血を発症し、長期入院・療養を余儀なくされ8月より診療に復帰しております。

この度多大なご迷惑をお掛け致しました先生方に紙面をお借り致しましてお詫び申し上げます。

4月より高橋正浩先生が着任され、肝胆膵領域手術にも意欲的に取り組むことのできる体制が整いました。

尚、今期外科手術室の無影灯が一新される予定であります。

平成23年 診療・研究状況報告

《手術術式》

・鼠径ヘルニア手術：全身麻酔下でのKugel法, Direct-Kugel法を基本術式としていますが、両側症例・腹腔鏡手術併施例等の状況に応じてTAPPを選択する場合もあります。

・胆石症・虫垂炎・消化管穿孔（主に上部）：3～4ポートでの腹腔鏡下手術を第一選択としています。

・胃癌：早期例に限定しLADG, LATGを選択します。（LATGは未施行）

・大腸癌：明らかな他臓器浸潤・イレウスによる腸管減圧不十分例以外では腹腔鏡下手術を選択します。

・イレウス：全身状態を鑑み、診断的腹腔鏡の先行も試みています。

入院患者分類

疾　患		例　数
顔面・頸部		1
甲状腺・上皮小体	良性	11
	悪性	35
乳 腺	良性	1
	悪性	200
食 道	良性	9
	悪性	135
胃・十二指腸	良性	2
	悪性	199
大腸・肛門	良性	14
	悪性	257
肝・胆・膵・脾	良性	51
	悪性	224
イレウス		11
虫垂炎		24
ヘルニア・腹壁・腹膜		71
副 腎		5
その他		70
入院者合計		1,320

手術件数

	件　数
全麻数	979
腰麻数	0
局麻数	86
全手術数	1,065

関連病院手術件数

病院	全手術例数	全身麻酔件数	緊急手術数	腹腔鏡下手術数	甲状腺癌	乳癌	食道癌	胃癌	胆膵癌	肝癌	大腸癌
函館五稜郭病院	1,294	991	125	475	8	155	17	98	16	29	165
盛岡赤十字病院	697	631	138	209	9	22	1	29	7	8	84
八戸赤十字病院	526	447	66	137	7	41	0	37	7	5	81
県立久慈病院	525	336	101	137	3	26	0	35	6	5	51
盛岡市立病院	504	407	37	202	1	9	0	15	12	13	61
県立二戸病院	386	237	51	58	2	15	1	16	8	5	60
山本組合病院	363	330	45	158	15	24	0	40	3	7	60
県立宮古病院	333	297	91	49	0	21	0	17	3	0	66
県立江刺病院	290	83	21	21	2	5	0	7	3	1	17
県立釜石病院	287	156	55	47	1	15	0	10	4	0	27
かづの厚生病院	271	176	26	33	6	21	0	31	6	0	48
県立千厩病院	219	146	39	43	0	13	1	4	0	0	30
北上済生会病院	195	94	24	29	2	12	0	5	0	0	8
花巻温泉病院	83	62	13	20	0	1	0	7	0	0	15

外科専門医制度修練指定施設・関連施設

指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2012. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2012. 12
指定	八戸赤十字病院	～ 2012. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2012. 12
指定	岩手県立大船渡病院	～ 2012. 12
指定	岩手県立宮古病院	～ 2012. 12
指定	岩手県立二戸病院	～ 2012. 12
指定	岩手県立久慈病院	～ 2012. 12
指定	岩手県立釜石病院	～ 2012. 12

指定関連区分	施設名	
指定	岩手県立千厩病院	～ 2012. 12
指定	北上済生会病院	～ 2012. 12
指定	盛岡市立病院	～ 2012. 12
指定	盛岡友愛病院	～ 2012. 12
関連	岩手県立軽米病院	～ 2012. 12
関連	山本組合総合病院	～ 2012. 12
関連	かづの厚生病院	～ 2012. 12
関連	県立江刺病院	～ 2012. 12
関連	国保西根病院	～ 2012. 12

日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設

指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2012. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2012. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2012. 12
指定	岩手県立大船渡病院	～ 2012. 12

指定関連区分	施設名	
指定	岩手県立久慈病院	～ 2012. 12
指定	岩手県立釜石病院	～ 2012. 12
指定	岩手県立宮古病院	～ 2012. 12
指定	岩手県立二戸病院	～ 2012. 12

岩手医科大学医学部 外科学講座　卒後臨床研修プログラム

卒後研修担当　水野　大

当教室では、これまで卒後初期臨床研修終了者を対象とした、各人の入局前のキャリア、将来に描くキャリアパスに合わたせ多数の（オーダーメード型）後期研修プログラムを用意し、3年前にはさらにその上の日本外科学会専門医をすでに取得した医師を対象とした、次のステップを目指す専門教育プログラムをスタートし、ある程度の成果を得てきました。また、一昨年には「卒業時に進路を固めている学生には遠回りとも言える卒後初期臨床研修」への対応策として「卒業前に、外科医を目指す決意が固まっている学生」をターゲットとした、卒後初期臨床研修全体の規定をクリアしつつ研修期間中に「外科専門医取得に必要な関連領域の症例を学内外科系講座で横断的に効率よく経験するためのプログラム」と、ひたすら「学外関連施設研修を中心とした多くの手術を経験するためのプログラム」を作成しました。これにより卒後初期臨床研修制度導入前の外科研修にかなり近づき、我々の世代が外科入局時にそうであったような「自分は絶対外科医になるぞ！！」という高いモチベーションを持った若者が多数現れることを期待していましたが、残念ながら本学新卒者に関しては全くの空振りが続いています。本学での初期臨床研修制度における外科研修を必修から外したとたんに選択する者、期間が激減したことと考え合わせると、本当に深刻な「外科離れ」が浸透していると思われます。さらに「ゆとり教育世代」の卒業生が増えていく中、明らかに「楽な方」を選択する傾向がみえており、本学卒業生に対するリクルート活動を如何に進めていくかが今後の鍵かもしれません。その一方で、ここ数年他大学出身が、岩手県内の病院で初期臨床研修を終了した後に当科へ入局し後期研修を行うというパターンが少しずつ増えてきているのは喜ばしいことです。これは、ひとえに関連病院の先生方によるご指導、ご助言のたまものです。長期的に見れば将来、岩手県の医療を担うのは、他都道府県出身の本学卒業生より、むしろ本県出身の他大学卒業生かもしれません。今後とも、同門の先生におかれましては各施設の研修医、見学医学生に岩手医科大学外科学講座の魅力を紹介していただきたいと思います。

学内研修

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一年次	基礎研修 内　科	内　科						救急科		麻酔科	精神科	産婦人科
二年次	地域医療	学内外科系講座で横断的に研修										

学外関連施設研修

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一年次	基礎研修 内　科	内　科						救急科		麻酔科	精神科	産婦人科
二年次	地域医療	関連病院　外科										

「ステップアップ 内視鏡外科手術」の刊行にあたって

岩手医科大学外科学講座　准教授　佐々木　章

わが国では、1990年に腹腔鏡下胆嚢摘出術が開始され、その後、内視鏡外科手術は急速に普及していきました。その適応は拡大し、教科書で習っていた微細な解剖が内視鏡の拡大視により確認できるようになり、精度の高い内視鏡外科手術が多くの領域で標準手術となりました。現在は、更なる低侵襲手術と整容性を重視した単孔式腹腔鏡下手術、NOTES（経管腔的内視鏡手術）が注目を集めています。岩手医科大学外科学講座は、各臓器で内視鏡外科手術を積極的に取り入れている教育機関です。この度、当教室の総力を結集し、「ステップアップ 内視鏡外科手術」を刊行いたしました。本書では、綺麗でわかりやすい写真を中心に、実践手技のコツと注意点について簡潔に解説し、手術手技を実際の動画としてDVDに収めました。このような特色を持つ本書が、初学者はもちろんのこと、日本内視鏡外科学会の技術認定医や日本消化器外科学会の専門医を目指している外科医に役立つことを願っています。

最後に、本書を監修した若林　剛教授は「序」において、「患者の満足は外科医の満足であり、患者の満足度が高い内視鏡外科手術を患者に提供できるように外科医は修練すべきである。外科医は多少の動作制限をものともせず、少し手術時間が長くなっても、患者の満足のために質の高い内視鏡外科手術を行う心意気持っているはずである。そんな心意気を持った外科医がステップアップを目指し、定型化された内視鏡外科手術を習得するために本書を活用いただきたい。教室で行われている内視鏡外科標準術式が広く安全に普及し、患者満足度の向上に少しでも役立つことを願っている」と述べています。

外科学講座
小沼 浩人

出 身 大 学：富山医科薬科大学
大学卒業年：1998年
出　身　地：群馬県　館林市
座 右 の 銘：a great cry, a little wool
岩手医科大学外科に入った理由：
　内科、整形外科を中心に県南の病院で勤務していました。時々、手洗いをして手術に参加することもあり、医学部学生時代の時の様に外科へ興味が増し、外科医への道を決心しました。特に、胃癌の手術をしていきたいと希望しています。
これからの意気込み：
　今後も、内科の勉強は継続していき、内科のわかる外科医になることです。

外科学講座
佐々木 秀策

出 身 大 学：岩手医科大学
大学卒業年：2010年
出　身　地：岩手県　奥州市
趣　　味：サッカー
座 右 の 銘：温故知新
岩手医科大学外科に入った理由：
　外科学講座の先生方との出会いは学生実習でしたが先生方の昼夜問わず患者さんのために昼夜問わず働いている姿を見て本当に大変そうだということと、カッコいいというのが第一印象でした。
　また部活の先輩が多数いらして外科について日々、御指導と勧誘をして頂いたことも外科に進むうえでかなり大きな要因でした。
　卒業が近づくにつれ自分の進路を真剣に考えるようになると、実習で見た真摯な先生方のようになりたいという気持ちが強くなり、外科で勉強させて頂こうと決めました。
これからの意気込み：
　現在初期研修を終えましたが、まだまだ何もできない自分です。研修終了後は数多くの経験をし、一つ一つの症例を大切に学んでいきたいと考えています。
　また私は地元が岩手県のため少しでも地元に貢献できる外科医になることが目標です。
　あと自分が諸先生方をカッコイイと思ったように自分も後輩からそのように見られたいです。そして岩手医科大学外科学講座に入りたいと思う人が増えればと思っています。
　今後、諸先生方には御迷惑をかけることが多くあると思います。一生懸命頑張りますので御指導のほど宜しくお願いいたします。

外科学講座
伊藤 千絵

出 身 大 学：秋田大学
大学卒業年：2006年
出　身　地：岩手県　盛岡市
趣　　味：世界遺産旅行
岩手医科大学外科に入った理由：
　私が医学部に入学する前から岩手県の医師不足は騒がれていました。その影響からか医師になっても岩手県内から出たくないと学生のころから思っていました。ずっと県内で働きたいと思い岩手県に根付いている岩手医科大学に入局を決めました。
これからの意気込み：
　職場が変わるとその分、いろいろな経験が増えます。今年4月から大学病院勤務ですが、きっと今までの6年間ではすることがなかった経験ができると思います。新しい経験は人を成長させてくれるので、少しでも成長できるように一つ一つ乗り越えていこうと思います。よろしくお願いします。

外科学講座
吉田 宗平

出 身 大 学：岩手医科大学
大学卒業年：2011年
出　身　地：岩手県　盛岡市
趣　　味：野球
座 右 の 銘：明日は明日の風が吹く
岩手医科大学外科に入った理由：
　お恥ずかしながら、ポリクリが始まる前には外科を志そうという考えは、正直な所一度も頭に浮かびませんでした。大学5年でのポリクリで外科・小児外科を回り、それから少しずつ外科医というイメージを意識し始めました。外科の先生方の仕事ぶりを観察し、あくまで私個人の見解ですが、治療に対する姿勢・知識や議論等、ほとんど全てが他科での実習の時と比べ一際印象的でした。特に自分には小児外科ポリクリでの水野大先生の印象が心に強く残り、大学6年のスーパーポリクリでも小児外科を選択しました。そこで再び学ばせて頂き、これからも外科で勉強させて頂きたいと思い、色々と考えた末ではありますが入局を決めました。
これからの意気込み：
　現在自分は初期研修医なため、外科医としてのスタートラインにすら立てていない状態です。研修機関でも少しでも多く手術を経験させてもらえる機会を作り、少しでも早く諸先輩方に追いつけるよう頑張りたいです。岩手県の奨学生の為､岩手に骨を埋めるつもりですので、長くお世話になる事と思います。10年後にはそれなりに使い物になると言われるよう食らいついていきたいと思います。宜しくお願い致します。

　今年度（H23年度）の新教室員として4名を紹介しましたが、全員がfreshmanというわけではありません。様々な研修プログラムを経て、今年度から新しく岩手医科大学外科教室の仲間に加わった精鋭達も紹介しております。同門の先生方には是非顔を覚えていただき、研修に訪れた際はかわいがってあげてください。

圭陵会　岩手詣学士賞

佐々木 章

欧文の医学教科書、専門書ないしは評価の高い外国雑誌に引用された原著論文が5編以上あることが本賞の申請基準であり、最近、執筆した論文5編（total impact factor 14.1）で評価をいただきました。平成7年から当時、先駆的で新しい手術方法であった内視鏡外科の担当となり、各疾患の内視鏡外科手術の導入と新術式の開発を行い、その成績を世界に発信してきました。国内外で最も評価をいただき引用されている論文は、「Ten-year experience of totally laparoscopic liver resection in a single institution. Br J Surg 2009」であり、国内最多報告です。「Endoscopic thyroidectomy by the breast approach: a single institution's 9-year experience. World J Surg 2008」は、第21回日本内視鏡外科学会総会で第1回大上賞を受賞することができました。本賞は、日本内視鏡外科学会が故大上正裕先生の偉大な功績を永く顕彰するために設立されたものであり、内視鏡外科学に関して優れた業績を発表した研究者に贈られるものです。「Endoscopic subtotal thyroidectomy: the procedure of choice for Graves' disease? World J Surg 2009」は、バセドウ病に対する新術式の世界初報告、「Tailored laparoscopic resection for suspected gastric gastrointestinal stromal tumors. Surgery 2010」は、胃GISTに対する単孔式腹腔鏡下胃局所切除術の世界初報告を含めた論文です。

今後も日常診療の素朴な疑問を明確とする前向き臨床研究、そして内視鏡外科の発展に努めていきたいと考えています。

圭陵会　学術賞

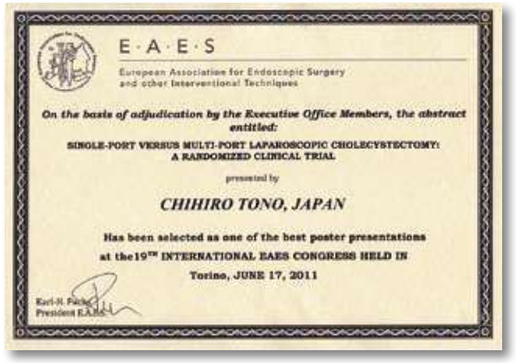
佐々木 章

胃GISTに対する単孔式腹腔鏡下胃局所切除術の世界初報告を含めた論文である「Tailored laparoscopic resection for suspected gastric gastrointestinal stromal tumors」で圭陵会学術賞を受賞することができました。

胃GIST（gastrointestinal stromal tumor）は、リンパ節転移がまれであることから系統的リンパ節郭清は必要なく、われわれは、本疾患に対して腹腔鏡下胃局所切除術を標準術式として実施してきました。本術式は、低侵襲下に発育形態の診断と治療が同時に行える利点があり、噴門・幽門近傍の病変でも手技の工夫により噴門・幽門機能の温存が可能です。1994年2月から2009年4月までの期間に、胃GIST45例に対して胃外または胃内アプローチによる腹腔鏡下胃局所切除を施行、胃前壁の管外発育型に対しては単孔式腹腔鏡下手術の適応としました。腫瘍占居部位は、胃上部28例、胃中部9例、胃下部8例で、胃外アプローチ35例（単孔式手術3例）、胃内アプローチ10例でした。手術時間100分、出血量5ml、腫瘍径32mm、切除断端距離7mm、経過観察期間74か月で、5年生存率は100%でした。本研究の結果により、胃GISTに対する外科的治療戦略として、各占居部位において腹腔鏡下胃局所切除術が有用で安全であることが証明でき、本疾患のガイドラインの作成に有用な知見を付与するものと考えています。近年、種々の疾患で3-4か所のポートから手術を行う多孔式腹腔鏡下手術が標準手術となりました。更なる低侵襲手術のためには、ポートサイズを縮小、または、ポート数を減らす工夫が必要です。われわれは、2009年3月から、消化器外科疾患に対して先駆的で新しい手術方法である単孔式腹腔鏡下手術（臍1か所から手術を行う）を開始しました。本論文の特筆すべき点は、胃GISTに対する単孔式腹腔鏡下胃局所切除術3例を報告したことで、本論文が世界初報告となり、岩手医科大学から世界へ新しい外科的治療戦略を発信できたことです。

EAES best poster賞

遠野 千尋



このたび私は2011年6月15日から18日までイタリアのトリノで開催された第19回欧州内視鏡外科会議（EAES）に参加しました。演題名は「SINGLE-PORT VERSUS MULTI-PORT LAPAROSCOPIC CHOLECYSTECTOMY: A RANDOMIZED CLINICAL TRIAL」です。腹腔鏡下胆嚢摘出術でのTANKOと従来の4ポート手術の前向き多施設共同研究です。久慈病院の登録数が多いことより、僭越ながら私が代表として参加させていただきました。若林教授、佐々木准教授のご指導はもとより、登録施設の先生方、また久慈病院外科スタッフの尽力には大変感謝しております。

さて、トリノへは、諸事情により一人旅でした。海外旅行は10年ぶりぐらいで、ヨーロッパは初めてでしたので何とも心細く感じていました。しかし、現地では先にスペインの国際会議に参加されていた若林教授が、発表日に朝から学会場に来てくださいました。発表前に早速一緒に食事もし、本当に安堵しました。発表でプレゼンはできましたが、やはり座長からの質問は聞き取れませんでした。しかし、若林教授が長期followはしていないかという質問だとささやいてくれたので、まだこれからだと答えました。冷や汗でした。さらに、夜からは学会のレセプションがFIATの自動車博物館で行われるということで若林教授と奥様、私の3人で参加しました。博物館はアルプス源流のポー川のほとりにあり、あらかじめ早く会場に行き、レセプション開始時間前にポー川のほとりを散策しました。博物館では広い施設に歴代の名車が並んでいました。レセプションでは教授が日本人のみならず、多国籍のDr達と様々な会話を織りなしていました。会話を聞き取り、その輪に入りたかったのですが不可能でした。私たち3人は遅くまでレセプションを満喫し帰路につきました。そんなすばらしい思い出を作り日本に帰りましたが、帰国後10日ほどしてEAESからWinner-EAES Poster Prize 2011という件名でメールが届きました。同賞を受賞したという知らせでした。ポスターセッションはE-ポスターと合わせて470演題ありましたが、受賞は10演題でした。しかも250ユーロの賞金付きです。かなりありがたい話で早速佐々木准教授にご報告し、ねぎらいの言葉を頂きましたが、これは本当に教室、同門の研究参加者全員の功績であります。たまたま私がトリノに行ったのでこのような形あるものを頂き恐縮する次第です。巡り合わせでこのような貴重な経験をさせていただき、同門の皆様には深く感謝いたします。

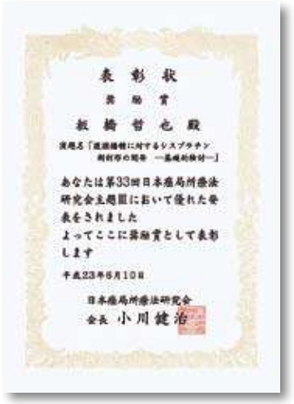
自動車博物館で

第33回日本局所療法研究会奨励賞を受賞して

板橋 哲也

このたび日本局所療法研究会にて奨励賞を受賞させていただいたことをご報告させていただきます。発表者のなかから年齢40歳未満を対象者として選考され、本年の受賞となりました。「腹水癌に対するシスプラチン新剤形の開発　－基礎的検討－」。

薬剤をより効率よく病変へ到達させ、より十分な効果を発揮させる、薬剤局所停留性の維持、経時的徐放性の追求。指導研究者であられます杉立彰夫先生が長年取り組んでこられた研究テーマであります。薬剤の変更を重ね、毎年新しいテーマで新しい疾患への臨床応用を目指されている杉立先生には常に刺激をいただき、自分の視野の狭さを自覚させられ、継続することの大切さをいつも教えていただいております。


表彰状
奨励賞
板橋哲也殿
演題名「腹膜癌に対するシスプラチン新剤型の開発　－基礎的検討－」
あなたは第33回日本癌局所療法研究会主題賞において優れた発表をされました
よってここに奨励賞として表彰します
平成23年6月10日
日本癌局所療法研究会
会長　小川健治

以前いただいたテーマは潰瘍性大腸炎に対しての治療でした。実臨床で使用されている5アセチルサリチル酸を担持体であるキチン・キトサンと配合させ、効率のよい薬物動態を示す新剤形を開発することでありました。「大腸に限局している疾患に対して薬剤の全身投与は必要なのであろうか？」。きわめてシンプルでありながら壮大なテーマをいただきました。本研究内容で2007年度の科学研究費の取得もさせていただきました。薬剤投与後のマウスを一緒に見にいった際に「毎日通うと顔の違いもわかってくるねん。名前も付けなあかんな。」と本気とも冗談ともとれないスマッシュギャグを曇りなき笑顔で話される先生であります。

受賞後の夜の大阪でごちそうしていただいた中華料理と人生についてのお話。「人生には来るときが必ず来るから、その時になって尻込みしないように、今、自分を鍛えておきなさい。」と話された先生の後ろには、間違いなく後光が輝いておりました。満腹のおなかを抱え、「大阪のソールフードも食べよう。」と言って連れて行っていただいたデパチカのたこ焼き屋は、一生の思い出であります。

インテリジェント コスモス受賞式

西塚 哲

昨年の同門会誌ですでに報告させていただいていたのですが、受賞と受賞式が年を跨いでしまいましたので、今回は受賞式の様子を写真でお伝えさせていただきます。

同賞は「ミスター半導体」として有名な元東北大学総長・岩手県立大学長、現上智大学特任教授の西澤純一先生が理事長を務める「東北インテリジェント・コスモス学術機構」により授与されるもので、東北地区の大学・研究所に属する各分野の新進気鋭の若手研究者が名を連ねています。

西澤潤一先生と

受賞式では、震災後の東北を研究の分野から元気づけたいという思いが各受賞者および主催者側からも述べられました。

受賞式の様子（後列右から1人目）。ホームページより抜粋

受賞式のあとは昼食会がありましたが、幸運にも私の席は西澤先生の隣でした。「大ホームランは一生に数回。でもヒットは打ち続けないといけない」との言葉が印象的でした。がん研究で半導体をテーマにしている研究者と出会うことは多くないと思いますが、西澤先生の最近の研究ではテラヘルツ波を用いたがん診断に関するものもあり、半導体とがん研究が出会うまでに我々も準備を怠ってはならないと感じさせられた時間でした。

第49回日本癌治療学会 優秀演題賞

岩谷 岳

早期・進行胃癌症例骨髄のWhole transcriptome解析による比較検討

昨年10月27～29日に開催されました「第49回日本癌治療学会学術集会」にて上記の演題で優秀演題賞を受賞いたしました。本賞は、乳腺、胃/食道、頭頸部/口腔、肺/横隔膜、婦人科、肝胆膵、大腸、泌尿器の8領域から数題ずつが選考されております。学会期間中は放映ブースでスライド放映があり、学会ホームページ上でも閲覧可能でありましたので、もしかすると見かけられた方もいらっしゃるかもしれません。

発表内容に関しましては、癌患者の骨髄中細胞を対象とし、Stageによる全遺伝子の発現差を次世代シークエンサーを用いて解析したものであります。近年の研究で、癌転移・再発には循環血液中あるいは骨髄中に存在する微量癌細胞の存在およびマクロファージや骨髄由来の造血幹細胞・線維芽細胞などの宿主側細胞が関連することが明らかになってきております。本研究では腫瘍細胞・宿主細胞を含めた骨髄中細胞全体の遺伝子発現の網羅的発現解析からStage IV進行癌症例の骨髄で一群のヒストンmRNAの発現が上昇していることを明らかにしました。さらに、多数のヒストンmRNAを制御する因子についての検討で、ヒストンmRNA代謝経路の一部で低分子RNAであるmicroRNAが関与する可能性を見出しました。

第38回調査研究助成金

岩谷 岳

消化器癌の転移再発を制御するnon-coding RNAの同定

昨年12月、公益財団法人大和証券ヘルス財団より「第38回調査研究助成金（100万円）」の助成をいただきました。大和証券ヘルス財団では、「生活習慣病並びに治療に関する研究と調査」に対し毎年一回（1件100万円、30研究、増額3,000万円）の助成金を贈呈し、調査研究を支援しております。昨年度は「中・高年者の保護・医療および福祉等に関する調査研究」という対象課題でありましたが、上記研究課題名で助成をいただくことができました。

近年、蛋白をコードしないnon-coding RNA（ncRNA）とさまざまな疾患との関与が明らかとされてきております。蛋白をコードする遺伝子領域は全ゲノムの約1%ほどにすぎず、癌の発生・進展にこのncRNAが関与していることが十分考えられ、実際に癌関連ncRNAが続々と同定されております。本研究では、消化器癌原発巣・転移巣・骨髄/末梢血中のncRNAを含めた網羅的な遺伝子発現解析を行い、転移に重要な因子を同定し、転移・再発マーカーあるいは治療標的としての意義を明らかにすることを目的としています。

昨年度はこれら2つの受賞をいただきましたが、九州大学別府病院外科三森教授をはじめとする教室員、また多くの共同研究施設の先生方のお力によるものであり、深く感謝申し上げます。

国際科学技術財団研究助成金

久米 浩平

今年度から分子治療研究室にて始めた研究が評価され、公益財団法人国際科学技術財団の研究助成金を獲得しました。同財団はノーベル賞に準じる国際的な賞「日本国際賞（JAPAN PRIZE）」を創設するために1982年に発足しました。授賞式には天皇陛下のご臨席を賜る名誉ある賞です。式には助成金を獲得した我々も招待され、受賞の光景を目の当たりにする機会を頂きます。私の研究は「ヒト癌薬剤反応機構における細胞集団不均一性の解明」で、化学療法によって一部の癌細胞集団が生き残る現象を、細胞個々の反応閾値の違いで説明しようという内容です。反応閾値が均一な細胞集団は、薬剤ストレス条件下で「全て生き残るか全滅」という運命を辿るのに対し、不均一な集団は一部を犠牲にして「全滅リスクを回避」することができると推測されます。本研究は、細胞内分子を電気回路のモジュールとして捉えることで見えた、細胞集団のリスク回避システムに着目しており、その点が評価されたものと思います。

伊藤正男会長と吉川弘之理事長の間に座って記念撮影

最後に、申請書の細部にわたりご指導いただきました西塚講師の存在無くしては本助成を獲得し得なかったこと、またこのような充実した研究活動を行えるのも若林教授、祖父江研究所長、前沢部門長のお陰であることについて、この場を借りて御礼申し上げます。

万国外科学会最優秀発表賞

高橋 正浩

2011年8月28日から9月1日の5日間にわたり、第44回 国際外科週間［ISW 2011, ISS/SIC：万国外科学会］が横浜で開催されました。本学会は世界5大陸の都市で2年に一度だけ開催される国際外科大会であり、日本で開催されるのは1977年の京都開催以来34年ぶりとなりました。世界68ヶ国から総参加者約1800名が集まり熱心な討論が展開されました。この度、私のVideo presentation がBest Free Paper Presentation（最優秀発表賞）、Lloyd M. Nyhus Free Paper Prize 2011の栄誉に預かることとなりましたので受賞のご報告をさせて頂きます。演題は「Laparoscopy-assisted living donor hepatectomy」で、当科で行っている低侵襲ドナー肝

INTERNATIONAL SOCIETY OF SURGERY
SOCIÉTÉ INTERNATIONALE DE CHIRURGIE
Masahiro Takahashi, MD, Japan
ISS/SIC Lloyd M. Nyhus Prize
Laparoscopic-assisted living donor hepatectomy
at International Surgical Week ISW 2011
Yokohama, August 31, 2011

切除術の有用性を発表しました。生体肝移植は健常人であるドナーからの臓器提供がなければ成り立たない医療です。生体ドナーの身体的、精神的負担を軽減し、かつ安全な手術を提供できる本術式は、その手術術式は無論、小切開による術後創部痛の改善、入院期間の短縮や早期社会復帰、術後QOLの向上に非常に有用であることが高く評価されました。本大会賞のLloyd M. Nyhus Prizeの由来はアメリカ、イリノイ大学の高名な外科医で、消化器外科・ヘルニア外科の先駆者であるProfessor Lloyd M. Nyhusからきています。この誉れ高き賞を受賞できましたのは、ご指導頂きました若林教授をはじめ、諸先生方、パラメディカルスタッフの皆様のご協力のおかげです。深く感謝申し上げます。（学会ホームページ：http://www.iss-sic.com/index.php?id=166）

外科学講座における東日本大震災に対する対応

肥田 圭介

当教室の東日本大震災に対する活動について報告いたします。

〈院内の対応〉

東日本大震災の発災は金曜日の午後であり、病棟、ICUの入院患者、医療機器作動のチェックに加え、手術室では予定手術が行われおり緊急対応を要した。当科関連では麻酔導入中の患者が幸い執刀直前であったため手術を延期として対応し、もう一名は終了前であったため特に支障なく対応可能であった。これら手術患者への対応を含め一通り状況が落ち着いたのを確認した後、医局に集合し救急患者の対応に備えた。しかし予想以上に搬送される患者は少なく、11日から13日までに当科で行った緊急手術は1次2次外来を受診した急性虫垂炎1例と手術室が使用不可となった県立釜石病院から救急搬送された腫瘍からの出血を伴った胃癌症例の2例であり、震災により被災された症例を直接診療することはなかった。その後は、緊急出血に対する輸血が困難であることからいわゆる大手術は予定しなかったものの胃癌、大腸癌症例等は手術を16日から再開することができ、下記の震災応援と並行し粛々と業務を遂行することが可能であった。

〈被災地支援〉

3月14日の時点で通信網の麻痺によって沿岸の関連病院からの被災状況、安否の確認等、情報が全く得られない状況であった。そこで若林教授の指示を受け、各沿岸諸地域の状況の把握を目的に医局内でチームを4つ編成し、宮古、釜石・大槌、大船渡、気仙沼にそれぞれ視察へと向かった（若林教授も自ら大船渡地区に視察へ）。そこで得られた情報は医局に戻り皆で共有するほか、病院の対策本部にも報告しその後の活動に役立てていただいた。この報告を受け、翌日から大学の支援チームに協力することに加え、教室独自に県立宮古病院、大槌病院（病院被災により大槌高校の仮診療室）、大船渡病院に支援チームを派遣した。医局では毎晩各チームの帰院を待ちミーティングを開き情報を共有するとともに翌日以降の対応につき皆で協議を行った。特に大槌高校仮診療所への支援に関しては、普段から大槌病院に当直応援でお世話になっている医師も多いことに加え、大槌町出身者（小笠原助教）もおりJMATの定期的な支援が得られるまで継続した応援を行った。この一連の活動から学んだ教訓は、通信網が遮断されると正確な情報が閉ざされてしまうので、今回のような行動力が必要ということであった。実際各地へ派遣する前には大槌、釜石地区には道路が寸断され危険で行くことが出来ないかもと云われていたがタクシーで難なく行くことが可能であった（医療局の情報よりタクシーの方々の情報が為になった）。また今回の震災では我々外科医の専門性が発揮される患者さんは少なく、内科的疾患に対する処置、処方（降圧剤が最多）が治療の中心であった。

〈震災後の病棟・外来診療（被災地からの患者受け入れとその後の対応）〉

被災地の拠点病院が通常の手術が行えない状況にあり、手術目的に転院する症例も数例経験した。転院に際し本人の同意は得られたもののご家族に連絡が取れない方々も多く存在した。また治療を無事終了してもいわゆる後方病院もなく、入院期間を延長するなどの対応を行ったが、なかには帰るところが避難所しかないという方もおりその対応に苦慮した。外来でも沿岸拠点病院での継続的な治療が困難となり当科で治療した症例や転居に伴い治療を開始した症例も認めた。なかには当院への通院手段が絶たれやむなく治療休止となった方も認められた。

〈人事異動の一時凍結〉

医局内では4月に予定していた人事異動の1ヶ月の延期を行った。震災後各被災地拠点病院は入院患者の診療は少なくなったものの急患の搬送等負担はまだ続いており、業務になれた医師が交代しては困るという各病院からの要望に加え、4月では官舎もめどが立たず、また引っ越し業者も再開しておらず、主に被災した病院のご意見を基に教室として延期することを決定した。緊急時の対応という事でこの決定に至ったが、被災地以外の関連病院は比較的早期に通常業務を再開しておりその調整に難航した。

〈被災地関連病院への応援〉

沿岸の各拠点病院には震災前からいろいろな形での応援を行っていたが、震災後には従来の応援に加え、県立釜石病院への当直応援など追加の臨時医師派遣を行った。各被災地拠点病院においては同門の外科医師が震災の対応に中心的な役割を果たしており、心強く感じる一方で少しでもお役にたてるように継続している。

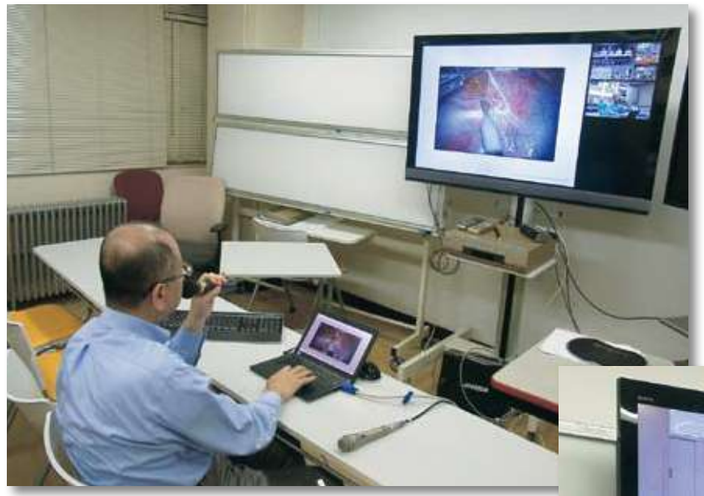
以上、当科で行った震災に対する活動を報告した。今後は医療の復興を含めた長期的な連携、支援が必要と考える。教室としては沿岸の拠点病院の核となる外科医の派遣を含め継続的な支援を行っていく予定である。

遠隔医療会議の現状と今後の展望

佐々木 章

岩手県内の外科医療の標準化、施設間の治療較差の是正と臨床研修医の教育を目的に、2006年5月から岩手県の「いわて医療情報ネットワーク」を利用して岩手医科大学外科と県立病院外科間（二戸病院、久慈病院、宮古病院、釜石病院、大船渡病院、千厩病院）とで月1回程度のテレビ会議「いわて遠隔外科医療カンファランス」（研究責任者：佐々木章）を行ってきました。「いわて医療情報ネットワーク」が配備されていない関連施設（秋田県かづの厚生病院、秋田県山本組合総合病院、北上済生会病院、花巻温泉病院、盛岡市立病院）とのテレビ会議の普及を目指して、webカンファランスシステムである3eConferenceを導入し、簡便・安価にテレビ会議を実施することが可能となりました。今年も平成23年度地域医療研究事業に「遠隔医療会議を利用した岩手県内医師と医療従事者の教育」が採択されましたが、東日本大震災の影響で実施が困難でした。

岩手医科大学では、震災前から岩手県が整備した「いわて医療情報ネットワーク」を利用した遠隔医療会議・相談を実施してきましたが、東日本大震災時には被災地関連病院との連絡網が全て遮断され、復旧に時間がかかりました。岩手医科大学そして岩手県では、東日本大震災を契機に震災時地域医療支援システムの構築を検討しています。平成23～27年度大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業（文部科学省関係、数億規模）はすでに確定しています。その他に、平成24年度いわて地域医療情報連携基盤構築事業（総務省関係、数億円規模）、平成24～27年度地域医療提供体制の再構築（厚生労働省関係、数百億規模）が検討されています。当教室では、被災地関連病院との遠隔手術支援システムを構築していきたいと考えています。



この日は単孔式手術のレクチャー

県立病院との熱いディスカッション

留学先から

岩谷 岳

九州大学病院別府病院　外科（大分県別府市）

九州別府での2年の研修も残すところ1月を切り、現在は研究のまとめや盛岡へ戻る準備に追われているところであります。この1年間のニュースといたしましては、昨年5月から大学院生の石橋正久先生が別府に合流いたしまして一緒に勉強しております。消化管の癌について研究する先生が多かった中、石橋先生は専門の肝臓分野で興味深いさまざまなテーマで研究を進めております。こちらで勉強したことを岩手で生かしていくうえで、後輩がきてくれたことは非常に心強く感じております。夏には、岩手医大の4年生（1年目は大方君、昨年は加藤君）が実習ではるばる別府を訪れてくれました。二人ともはじめ実験の仕方や情報検索の仕方を指導した程度で、なかば放置状態でもどんどん研究をすすめ短い期間で成果をまとめあげていったのには感心いたしました。そして最も大きな変化が当教室の三森功士先生が今年2月に教授に就任されました。三森教授の外科臨床・研究に対する情熱にうたれ、今年4月からは全国各地から7人の新しい先生が来ることが決まりさらに大きな教室となります。

さて、2年間の私の研究生活を振り返りますと食道癌・胃癌・大腸癌などの消化器癌を対象に多くのテーマについて検討してきました。うち半分程は途中の段階で報告に持ち込むには難しそうなことが判明し断念し、5個のテーマにしぼり平行して進め、1編投稿中、3つが論文作成段階、1つが実験継続中といったところであります。さまざまなテーマに手を出したせいか、いただいた2年間の研修期間で論文acceptがまだ1つも得られていない状態は、自分でも反省すべきことと思っております。しかし、研修に出る以前は、10年前の大学院生時代と同じような、あるいはそれ以下の知識レベルで臨床の片手間の短い時間で研究をすすめていた状況を考えると、現在の癌研究の最先端に触れることができたことや研究への取り組み方などを学べたことで、実は5年分・10年分ほどの進歩が得られたものと感じております。こちらで学んだことを持ち帰り、岩手医大のリサーチグループや各臨床グループと相談しながらよい研究体制を作っていければと思います。また、さまざまな施設から留学にきている先生や過去に当施設で勉強された先生方、多くの共同研究機関の先生方との深い交流ができたことも大きな財産です。最近では臨床・基礎研究とも論文に求められる内容も規模の大きさや多分野にわたる実験など厳しさを増し、1施設ではなかなか難しくなってきているかもしれません。九州大学の三森教授より「今後も共同研究を進めていきましょう」との温かい言葉を頂いており、私が岩手医大のパイプ役になれればと思っております。

昨年米国サンアントニオで開かれました米国腫瘍外科学会（Society of Surgical Oncology）に出席してきました。アラモ砦の前で。向かって左から、三森教授、大学院生の古後先生、岩谷。

天気のいい日に病院玄関の写真をとりました。敷地は大変広く、緑豊かです。

私は15年目を過ぎて初めて岩手医大から出て他施設への留学を経験いたしました。ここまであまり動かなかったのは、おそらく「今の状況から大きく環境を変えるのは面倒だ」、「外に出なくても勉強はできる」、「自分が抜けると医局やチームに迷惑がかかるだろう」、「いまさら留学に出る年齢でもないか」、「留学に出ても果たして期間内に業績をあげられるだろうか」、「どこに留学するのがベストなのかわからない」など、いろんな不安や言い訳を持ち迷ったまま過ぎてきたのだと思います。今回いざ留学に出てみると、どれもさして悩むほどのことでもなかったかのような気がしています。新しい職場や土地、臨床・研究も日ごとに慣れ、1～2ヵ月くらいでだ

いぶペースがつかめます。勉強はどこでもできますが、経験のある施設で学ばないと習得しづらいことも多く、1年悩んでいたものが数日で解決することも多々ありました。新しい環境に出た場合、それまでの環境との比較ができ、それぞれの長所・短所の客観的な評価が可能となります。業績は多く出せればもちろんベストですが、運もありますので1~2年ですと厳しい場合もあるかもしれません、しかしゴールへ向かう気持ちを持ち続けていれば必ず達成できるものと思います。私の場合は外科分子腫瘍学に関する国内留学でしたが、手術手技や集学的治療の臨床診療・研究はもちろん基礎系でも細胞や生体材料をあつかうウェットな研究のみでなく、近年メジャーなものとなってきているバイオインフォマティクス、コンピューターを用いてドライな解析を行う研究などの分野でも、また海外留学の場合でも同様なものと思われます。みなさんも機会があればぜひ迷うことなく研修・留学に行き、多くのことを学び、また医局にもどり指導・発展させていただければと思います。

最後になりましたが、この研修の機会を与えてくださいました若林剛教授、大阪大学森正樹教授、九州大学三森功士教授、そして医局の先生方みなさまに厚く御礼申し上げます。

大渕 徹

国際親善総合病院　外科（神奈川県横浜市）

月日の流れははやく横浜生活も18ヶ月を過ぎようとしております。横浜での寒さは岩手にくらべれば微々たるものですがその寒さも徐々に緩み春の訪れを感じております。

当院では現時点（3月11日現在）で消化器内科の常勤不在の状態が続いておりすべての入院を要する消化器疾患は外科で一括し担当しております。下痢・嘔吐症を呈する感染性胃腸炎はもちろん閉塞性黄疸まで当科の守備範囲内となっており、吐血や下血に至るまで当科CALLとなります。最近では緊急GF/CFも経験し、緊急ならではの緊張感を併せ持ちながら日々貴重な症例を積み重ねております。

一方当院で積極的に行っている単孔式手術は400例に迫ろうとしております。内訳としては、胆嚢摘出術や鼠径ヘルニア・虫垂切除術で全症例の8割占めております。大腸癌や胃癌に対するTANKO症例は現時点で限定的ではありますが、今後も良性疾患に対するTANKOの適応は拡大されていくものと考えております。

さて、臨床以外でのTOPIXとしては当院において「第3回キッズセミナー」が昨夏開催されました。対象は小学生とし、病院内で実際に使用する機器・器具などを使用した職業体験をする催しです。10項目のセッション【1）電気メス体験・2）手術器具体験・腹腔鏡手術シュミレーター体験・3）腹腔鏡手術体験（ドライラボ）・4）救命救急体験（心臓マッサージ・AEDなど）・5）聴診器・包帯体験・6）赤ちゃんお世話体験・7）レントゲン体験・8）心エコー体験・顕微鏡（血液像）体験・9）車椅子体験・10）バランスボード体験】を体験してもらいました。低学年から高学年まで総勢80名が参加し、約4時間の間、目を輝かせて真剣に取り組み、参加児童および見学されていたご父兄方に非常に好評でした。このキッズセミナーでの体験が将来への夢につながり、一人でも多くの子どもたちが医療や福祉に携わることへのきっかけになればと願っております。

本日（3月11日）で東日本大震災から1年が経過しました。今日という一日を家族とともに過ごせる幸せを感じながら、今後も日常診療にあたりたいと考えております。

石田 和茂

National Cancer Institute（アメリカ　メリーランド州）

帰国すれば1度は聞かれるだろう、『海外留学で学んだ事は？』という質問。過去に帰朝講演をされた先生が同様の質問を受けた際、答えに間があった事が印象に残っている。当時は不思議だった。何も無いはずがないと思っていたからだ。どういう答え方をされたのか思い出せないが、それは漠然としていた気がする。『日本に居ては学べないような最先端の研究に触れてきました』といった類の内容でもなかった様に思われる。おそらく会場にいた先生方の期待した答えがこれだったのではないだろうか。故に、何とも釈然としない雰囲気であったと記憶している。しかし、今はその心情を察すると同時に、その質問は愚問だったかと思われる。

では、私の場合はどうだろう。『基礎研究を勉強しに行ったのではないのですか？』と聞かれれば、勿論、知識、技術、思考などといった研究活動を支えるスキルは向上した。しかし、それは日本に居ても出来たこと。つまり・・・なるほど。やはり、そういうことか。と、一人で納得してみる。渡米を目前に控えていた私は西塚先生からこんな言葉を頂いた。『個人が強くならなくてはいけない』。これだけでは聞く人によって様々な解釈があるだろう。私も真に意味することが何なのか、最近まで分らなかった。もしかすると、西塚先生が意図していた意味とは異なる解釈に至っているかもしれない。が、今なら自分の言葉にして飲み込むことが出来る。

渡米後間も無い私にとって研究室のミーティングは一番のストレスであった。英語も出来なければ、専門用語にもついていけなかった。発言しなければ居ないも同然の扱いであったが、発言すればそれはその都度容赦なく論破された。当然、そんな私には何の仕事も回ってこなかった。そもそも仕事があると思う感覚自体が間違っていたのだが、仕事が無いのに職場に行き、周囲からは相手にされていないという状況はなかなか辛いものだった。しかし、私はこうした経験を本当に幸せだったと思っている。とにかく早い段階で自分を粉々に砕いてもらった気分だった。当時を振り返れば、まさか日本に居ればこんな絶望感は味わえなかっただろうと思う。『結局、今までの自分が甘かったんだろ？』と自問自答する頃には、1から自分を作り直そうとしていた。とにかく勉強して戦うしかなかった。研究者としてディスカッションが出来ることを、仕事をデザイン出来ることを、結果が出せるということを周囲に認めさせたいと強く思うようになった。それは、『石田和茂』個人を認めさせることだったと思う。だから私は、自分が強くなることにこだわり続けることが出来た。それは日本で医師として働くうえでのプロフェッショナリズムにも結びつく事だったと思っている。今では個人のプロジェクトを立ち上げ、その他の共同研究にも参加するようになった。ボスから契約延長の打診を受けた事は1つの結果だと思っている。しかし、決定的に足りない事もある。それは論文が出せていないことだ。だから私は『結果が出せること』をまだ証明できていない。この状況を打開できなければ失格だという恐怖感もある。

『海外留学で学んだこと』を知りたければ、自分の目と体で確認しなければいけない。聞いたところで何の意味もないと思う。それをバックアップできる講座にいることを最大限に利用するべきである。そして、自ら仕事を設計し、問題点を明確にし、解決法を模索して、最終的に結果を出す人材が評価され生き残る環境で働くことができた私にとって、『海外留学で学んだことは？』という質問の答えは、どうしたって1つしかない。

『Laboratory of Cell Biology』セクションで働くスタッフ

有末 篤弘

慶應義塾大学病院　小児外科（東京都新宿区）

私の留学先は、2010年4月から、2年間の国内留学という形式で若林教授、森川教授の御厚意により、東京都新宿区にある慶應義塾大学病院小児外科に留学させて頂きました。肝移植、小腸移植を実施している施設であることや、特にHirschsprung病の治療に歴史があり、小腸不全の患児を多く管理している施設です。留学当初は、森川教授以下、スタッフ3名、レジデント3名のところに加わり、2年目は森川教授から黒田教授へと引き継がれた時期でもありました。年間全

麻手術件数は約200例（上部消化管内視鏡、肝生検含む）の施設です。毎日朝夕の回診に加えて、月曜夕方はカルテ回診、水曜朝は教授回診、夕方は病棟カンファレンスで症例の確認、方針の検討、手術症例の振り返りを行い、木曜朝はリサーチカンファ、その後に一般外科との合同カンファ、夕は移植班カンファを行っております。この2年間で、肝移植が12例と、慶應での3例目にあたる小腸移植を経験することが出来ました。合併症もありますが、肝硬変となっている患児がみるみる元気になっていく様子をみるのがとてもうれしく、移植医療のすばらしさとともに、その裏での難しさということも経験出来ました。岩手と異なり、小児消化器チームがないので、消化器系の疾患はすべて外科に来ることで、消化管造影や上部下部内視鏡といった経験を多く積むことができ、症例の非常に少ないHirschsprung病類縁疾患の経験も出来ました。その中で、今まで興味がありましたが、なかなかしっかりと勉強出来ていなかった栄養管理にも深く関わることができ、研究については、ω-3系脂肪乳剤を使用した小腸虚血再灌流障害の効果についてより深く学ぶことが出来ました。このような機会を与えて下さった若林教授、森川教授、水野准教授に心より御礼を申し上げます。2年間の経験を生かして、今後は岩手での医療に貢献していきたいです。

千葉 丈広

癌研有明病院　消化器センター（胃外科）（東京都江東区）

2011年3月11日に起きた東日本大震災から早一年が過ぎましたが、地元岩手では未だに震災の影響が続いていることと思います。

私は、2010年10月から12月までの3か月間、若林教授のご推薦により、日本対ガン協会の奨学医としてがん研有明病院（胃外科）で研修させていただきました。さらにその後、震災後の忙しく医局員も少ない状況下で、若林教授をはじめ、医局長 肥田先生には無理を承知で2011年度からのがん研有明病院での長期研修をお願いしまして、来させていただきました。心から感謝申し上げます。今年度より2年目の研修がスタートしたところですが、このがん研での1年間の研修を振り返りたいと思います。

がん研は日本で最も多くの胃癌手術が行われておりますが、近年は年間600件前後の手術件数に落ち着いてきております。昨年度は他ではできないようないろいろな経験をさせていただきました。すべての手術症例が経過良く進めば良いのですが、このハイボリュームセンターでもなかなか一筋縄ではいかない症例もあり、重篤な合併症が起きてしまうことも当然あります。自分の受け持ち患者さんも重症管理が必要となり、大変な時期もありました。大学のICU管理を思い出して、それが大いに役立ったことやスタッフの先生にICU管理を教わったことなど、自分にとって本当に有意義で為になった1年間だったと思います。

昨年度は山口俊晴先生をはじめ、佐野武先生、谷村慎哉先生、比企直樹先生、布部創也先生の5名のスタッフに加えて、窪田健先生、愛甲丞先生、熊谷厚志先生、渡邉良平先生、小菅敏幸先生、橋本佳和先生、佐藤崇文先生（1年）、関川小百合先生（1年）、松村優先生（6ヶ月）、と自分を含めて10名のレジデントがおりました。これだけのドクターの数がいると、手術に入る機会も流石に減ってきますが、今年度は古株のレジデントの先生方4名全員が研修を終えて、新しいレジデントの先生が4名増え、合計7名の新体制となりました。それに伴い、手術に入る機会は逆に増えてくるものと思います。

私が昨年5月にがん研に来た当初は、開腹手術の前立ちや腹腔鏡手術のカメラ持ちをさせていただいておりました。今現在もまだまだ未熟ですが、少しずつ開腹手術の執刀や腹腔鏡手術の助手や執刀もさせていただけるようになってきました。しかし、レジデントが術中に怒られたり、地団駄を踏まれたりすることはよくあること（？）で、怒られているうちが華だと思って頑張ろうと思いますが…。そこまでして教えてくださるところもまた素晴らしいことと思います。チャンスはいつ来るかわからないので、常に準備しておかなければいけないと思っています。

この1年間で最も学んだことと言えば、手術はチームで行うものだと言うことです。逆に言えば、一人で手術はできないということです。一人ひとりそれぞれの役割があり、その役割を理解しておかなければ、手術は進まずに完結できません。これは開腹手術でも腹腔鏡手術でも同じことで、あらゆる場面において、各々が手順をしっかりと熟すことでスムーズに手術が進むわけです。したがって、どんな手術であっても手順を覚えて次々に自分のすべきことを考えながら行うことが、手術における上達の近道なのだろうと思いました。

今年度の前半は、胃外科のチーフレジデントを務めることになり、自分にできるのか不安な気持ちでしたが、今は何とか喰らいついています。チーフの仕事はやってみないと本当にわからないと思うのですが、すべてのマネージメントを任されていると言っても過言ではありません。手術の日程調整や術前検査のチェック、他のレジデントの担当医決め、外科カンファに加えて内科や化学療法科、病理部とのカンファレンスの症例準備などが主な仕事になっています。すべてを完璧に熟すのは至難の業ですが、それでも今までのチーフの先生方がしっかりやってきているので、チーフの質を落としてはいけないというプレッシャーもありますので、頑張っていきたいと思います。

この1年間で手術だけではなく、他にも多くの経験をさせていただいておりますが、残された時間を有効に使い、岩手に戻ったときには、がん研で吸収して学んだことを十分発揮できるように準備し、恩返しをしていきたいと思っております。医局の先生方には大変ご迷惑をおかけしておりますが、今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

石橋 正久

九州大学病院別府病院　外科（大分県別府市）

皆様いかがお過ごしでしょうか。私は当講座の若林剛教授をはじめ大阪大学の森正樹教授、九州大学の三森功士教授の御厚意により、2011年5月から大学院国内留学という形で別府にて分子生物学の基礎研究をさせていただいております。貴重な機会を与えて下さった先生方に心より御礼申し上げます。

別府病院外科は臨床と研究で独立しており、大学院生を中心とする研究部門は自分達の仕事に専念できる環境です。研究内容は多岐に渡り、最近はスーパーコンピュータを用いた大規模遺伝子データ解析が大きな位置を占めています。原理は高度かつ難解で、さらに私の得意なコンピュータ分野と大きく異なるため理解は困難ですが、これからの発展が期待される分野なので、機会を見て解析技術を習得したいと考えています。また、さまざまな機会を通して臨床検体を使って実験できるという外科系研究室の強みを再認識しました。成果が出るにはまだ時間がかかりそうですが、習得したノウハウを岩手へ持ち帰り、岩手医大の研究の一助となれるよう精一杯頑張ります。そして岩手へ戻った際は、学生へ向けて外科系研究室の魅力をアピールしていきたいと思います。

別府はイベントも豊富です。歓送迎会・忘新年会以外に、夏に九州大学生体防御医学研究所との合同研究発表会があります。普段触れる事のない基礎系研究の最先端の話題を聞ける他、研究講座対抗レクリエーション大会が開催されます。昨年はソフトボールでしたが、私のバットがボールに触れることはありませんでした。今年は頑張ります。他に運動不足解消として週1回程度のテニスを始めたことも御報告致します。最近やっと相手コートにボールが戻るようになりました。

食べ物が美味しく景色もよく温泉も近い別府の町は研究生活に適した良いところです。皆様ぜひとも別府へ遊びにいらして下さい。岩谷先生から始まった岩手医大－九州大の交流が今後も続くよう願っております。

岩手医科大学での研修を終えて

今井 寿

岐阜大学　腫瘍外科

2011年1月より3月まで、若林教授の御好意により、岩手医科大学で腹腔鏡下肝切除術の研修をさせて頂きました。私は6年間の医学生時代を福島で過ごしており、冬の盛岡も問題ないと思っておりましたが、昼も暖かくならないその寒さには参りました。寒い夜道のコインランドリー通い、大陸飯店での夕食には、少し孤独を感じたこともありましたが、温かく気さくな先生方に、本当に親切にして頂き、心より感謝申し上げます。

研修期間中は、肝移植やその他の臓器の腹腔鏡手術も多く

見学させて頂き、腹腔鏡下肝切除術も3ヵ月で10例の経験をさせて頂きました。おかげさまで、2011年6月より岐阜大学でも腹腔鏡下肝切除術が保険診療内で施行可能となり、これまでに4例の手術を行いました。我々の肝胆膵グループは4名で構成されており、岩手医大の半分の規模ですが、今後も若林先生、新田先生をはじめ、先生方の御指導を仰ぎつつ、症例数を増やしていこうと思っております。

研修期間中の3月11日に東日本大震災が発生しました。私は医局におりましたが、棚の本やフィルムが崩れ落ちました。鴻巣先生のパソコン機材が崩れ落ちるのは私が守りました。数日間は何度も起こる強い余震の恐怖で、寝られませんでした。そんな中、外科学講座が病院の先頭に立って、沿岸地域の病院の視察、支援に一丸となっている姿に感銘を受けました。こういった姿が、岩手医大の外科が発展し続けている源なのではないかと感じました。

本当に書ききれないほどの事件があった中身の濃い3ヵ月間でしたが、岩手の地で多くの先生方と一緒に仕事をさせて頂き、多くの出会いを経験させて頂いたことに感謝致します。また、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

坂口 孝宣

浜松医科大学　第2外科

平成23年10月～12月の3カ月間、貴医局で研修させていただきました。平成元年卒中年オヤジの私に、みなさん本当に良くしてくださり、感謝申し上げます。大船渡出身である当教室今野教授からの「腹腔鏡肝膵手術を導入せよ」との命を発端に、若林教授、新田先生、秘書の方々に御無理をお願いし、日曜午後浜松発、月～水曜岩手医大研修、木曜早朝盛岡発で午後浜松着即手術、金曜外来後に手術、土曜丸一日外勤、というスケジュールを3カ月過ごしました。研修中約20件の腹腔鏡（補助）下肝切除に参加させていただき、おかげさまで浜松医大は腹腔鏡下肝切除保険認定施設となることができ、現在までに各3件の鏡視下肝部分切除、膵体尾部切除

を施行いたしました。皆さまのご指導のおかげであり、今後も精進していきます。

今回の研修、浜松医大・関連病院以外の勤務としては、名古屋市立大学分子遺伝学教室大学院1年留学、ボストンMGH2年半留学、京都大学移植外科半年留学、国立がんセンター肝胆膵外科3カ月見学実習、に次ぐ5回目です。3歳から大学卒業まで21年浜松在住の田舎者、今回の研修を加えても外科医生活23年の4年半しか浜松近辺を離れておらず、大学在住は15年半になりますので、とんでもない“井の中の蛙”状態でした。肝胆膵外科班長就任後、中村達（現浜松医大学長）直伝の肝胆膵手術を京大やがんセンターの方法を取り入れて変革してきた、という自負がありましたが、そんなちっぽけな自尊心、一体何だったのでしょう。初めて腹腔鏡下肝切除を目の当たりにした時の衝撃は今でも残っています。今更ながら、外科医としての姿勢を変える機会をいただけた、と痛感しております。あの研修がなければ、鏡視下肝膵手術施設限定が解除された現在、鏡視下肝膵手術をやらない遅れた施設になりさがるところでした。器具の未熟な10年以上前から同手術に取り組んでいらした岩手医大先見の目。反面、「肝切除は大開腹下の安全な視野の下、CUSAでちまちまと」なる保守的な考えに凝り固まっていた自分、情けないです。

一番刺激を受けたのは若林教授の手術に取り組む姿勢。外側区域切除のように術式が確立されればその方法で推し進め、普及を目指しておしげもなくキモを教授される。一方、納得いかなければ何回でも種々の方法を模索されていましたね。研修中4件の鏡視下葉切除、全て肝門部アプローチ、脱転、離断が違っていました。術後の若林教授、「まだ手の内に入ってないんだよ、坂口さん」、驚きの言葉でした。あれだけの手術が出来てもまだ納得されていなかったんですね。しかし、IVC前面の短肝静脈処理～ Hanging ～肝離断を行うビデオ、外科学会で拝見、驚きの方法でした。もう、「手の内に入れたよ」ですね。離断オリエンテーション、腫瘍散布防止、出血量軽減、どの面でも理に適った、かつ日本ではまだ誰も導入できない方法でしょう。しかし、まだ改良を重ねられるのでしょうね。「自分にリミットを設けるな」、いつも若林教授が学生に仰っていました言葉、私も頂いて肝に銘じました。

腹腔鏡肝切除のみならず、多くのことを学び、習得させていただきました。岩手医大のHanging、Glisson一括処理、Tissue Linkを取り入れた肝切除法、開腹でも非常に重宝しています。新田先生、本当に良い方法をご教授いただきました。今は新田鉗子なしでは肝切除が成り立たない位で、手術時間と出血量は激減して手術部スタッフから驚かれています。肝胆膵班の若い先生方、エネルギー頂きました。佐々木先生、肥田先生、大塚先生、何とクオリティーの高い鏡視下手術でしょう。木村先生、イケメンなのに（関係ないか）食道疾患、緩和に取り組む実直な姿勢。当教室は小児外科、甲状腺、乳腺の専門がないので、他班の先生方から教えていただいたこと、逐一新鮮でした。また、関連病院の先生方にも非常にお世話になりました。盛岡市立病院の先生方、手術終了後の岩手山を眺めながらの休憩は印象深かったです。二戸の先生方、そば、梅から醸造した梅酒、美味しかったです。久慈の先生方、本当に遠いところ御苦労さまです、あのPD症例元気でしょうか？　新田先生に久慈に連れていっていただいた際、11月上旬なのに帰りは雪、驚きでした。他、若手医師の方々の臨床や研究に取り組む姿勢、我が若手医局員も見習ってほしいです。浜松医大、まだまだ未熟です。

さて、大塚先生からは「楽しかった思い出の写真を」、と依頼されましたが、何と、撮りまくった写真は全て鏡視下肝膵手術のもの。毘沙門橋から撮った溯上鮭のピンボケ写真やら岩手山の写真がある程度。唯一、記念になる写真といえば、大阪の内視鏡外科学会で新田先生に誘われて参加した鏡視下肝手術若手の会、飛田新地という遊郭街中にある飲み屋の写真。このまわりには「綺麗なおねいさん」のお店（ここは撮影禁止）だらけで、岩手医大研修に次ぐカルチャーショックでした。しかし、これはあまりに岩手と関係ないですし、下品になりますので遠慮させてください（大塚先生、それでよろしければ、写真送ります）。

何やらとりとめのない話ですね。しかし、このような良い研修ができたのも皆さまのおかげ、何かのご縁です。今後、当教室若手に貴大学での鏡視下手術研修の機会を頂き、良好な関係を維持できれば幸いです。さて、近々浜松で学会を主催すると思います（まだおおっぴらにはできません）が、その際は浜松を堪能してください。お食事、酒、良いお店手配します（「おねいさん」のお店は期待薄です）。浜松近辺には一流ゴルフコースたくさんあります。浜名湖でのたきや漁（夜、小船にのり、お酒ガンガン飲みながら、行燈に照らされた魚、エビ、カニを獲ります。漁後、筏に集合して漁師手作りのカニ味噌汁、エビ天ぷらなど絶品料理堪能）、楽しいですよ。是非ご一報ください。最後になりましたが、本当に3カ月間ありがとうございました。岩手医科大学外科学教室の発展を願っております。

白井 量久

医療法人山下病院　消化器外科

早くも1年以上がたち､時の流れの速さを痛感する毎日です。その節は、皆様方に多大なるご厚情賜り御礼申し上げます。

2011年2月1日から3月1日までの4週間にわたり、肝胆膵領域の腹腔鏡手術中心に学ばせていただいた者です。わずか一月､影の薄い存在でしたが､皆様方の症例に対する熱意､技､私にとっては濃い一月でありました。

私は、自治医科大学医学部を平成5年に卒業し、名古屋大学第一外科（現在は腫瘍外科）に入局、研鑽を積み、現在は愛知県一宮市にあります山下病院消化器外科に勤務しております。消化器単科の病院で若干珍しい存在の病院です。当院ではより低侵襲な外科手術手技である内視鏡手術を積極的に導入し、大腸癌、胃癌などに対して多くの症例を蓄積しております。しかしながら肝臓に関してはその解剖学的特異性、技術的な問題、道具の特殊性などもあり、導入は検討段階です。この度、岩手医科大学の実施する「がんプロ」の「低侵襲治療専門医養成コース」を受講させていただきました。

私の前任地は名古屋大学附属病院でしたが、岩手医大に来て驚いたことはスタッフ全体が若さで漲っていることでした。自分は若いつもりでいましたがもはや、おっさん世代になっていることをまず、痛感しました。前任地でも多くの海外、国内留学の方々の過ごし方を見てますが、短期間での己の1ヶ月の過ごし方を如何に行うかを考えますと、せっかく流派の違う遠方の地に来るのですから、できるだけ多くの手術見学をしよう、そして空いた時間はせっかくの盛岡ですからその土地の景色、味覚をと考えておりました。

実際､低侵襲肝切除を実施するための､術前体位のとり方、手術器具の使用法、術者、助手のコンビネーションなど、手術書、ビデオなどでは得られにくい技術を目にする機会を得ることができました。空いた時間はその他の腹腔鏡手術も見学させていただきました。当院とは微妙に異なる手技、道具の使い方など勉強させていただくことができました。

上記の他、豊富な手術ライブラリ未編集VTRを見せていただき、道具の使い方など勉強する機会を得させていただきさらに白熱したカンファレンスに参加させていただき岩手医大外科のスタッフのレベルの高さ、献身的な働きぶりを目の当たりにし、感銘をうけた次第です。

今後ともご指導賜りますようよろしくお願い致します。

大宜見 由奈

沖縄県　豊見城中央病院　外科後期研修医

岩手医科大学外科学講座の諸先生方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

沖縄県より半年間（H23年7月～12月）研修させていただきました大宜見由奈と申します。今回は突然の研修依頼にも関わらず、若林教授を始め、佐々木準教授、水野準教授、そして多くの先生方に温かく迎えていただき、とても楽しくて有意義な半年を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

私は今回の岩手での生活が県外生活初だったのですが、加えて東北の大震災の直後に岩手に研修に向かうことに関して､周囲からは｢どうして今の時期に｣とよく聞かれました。私の上司が、佐々木準教授・水野準教授と友人であった経緯もありますが、このお話をいただいた時に、今しか経験できない、そして感じることのできない何かがあるのではないかと私自身も考え、今回の研修にいたりました。

今回は小児外科グループ、laparo・甲状腺グループで研修させていただきましたが、先生方の日常診療・研究に向かう真摯な態度にはいつも勉強させられました。特に、先生方が行っていた大学病院であるが故の研究は、能天気に過ごしてきた私にとっては新しい世界でした。沖縄の勤務している病院でも、今後研究テーマを決めていこうという話が出ており、先生方をお手本に頑張ろうと思っています。また、仕事で釜石へ一度連れて行っていただきましたが、一度しか沿岸へ行く機会がなく、今度は仕事以外の機会で訪れることができたらと思っています。

今回、盛岡へ来て感じたことは、岩手の方はお互いを思いやって助け合う気持ちが大きく、人の温かさが沖縄と似ているなということでした。特に、岩手医科大学の外科学講座の先生方には、仕事の面でも私生活でも、いつも気にかけていただいて、とても楽しい毎日を過ごすことができました。そして、いろんなイベントで外科学講座の団結力・力強さを感じました。

半年という短い期間でしたが、先生方の病院で研修できたことをとても誇りに思います。沖縄でもこの研修を活かして診療に臨みたいと思います。沖縄にいらっしゃる際にはぜひ声をおかけください。また先生方とお会いできる日を楽しみにしております。半年間本当にありがとうございました。

1 January

関連病院懇話会（2011.1.8）

若林　剛教授による年頭所感

関連病院の多くの先生方にお集まり頂き、
貴重なご意見を頂きました。

新年会

引き続き行われた新年会では、小川　彰学長から新年のご挨拶を頂戴しました。

斎藤和好名誉教授による
乾杯の御発声

みちのくウィンターセミナー・懇親会（2011.1.29）

今年も、全国からご高名な先生方をお招きして、貴重なご講演を頂きました。

セミナーの様子

ゴンドラでいざ出発!!!

和やかな雰囲気の懇親会

5 May

第14回岩手内視鏡外科研究会（2011.5.21）

震災後初めて、当科主催の研究会でした。多くの方にお集まり頂きました。

若林教授による開会の挨拶

「下部消化管疾患に対する低侵襲手術：
advanced reduced port surgery」
大阪大学大学院医学系研究科外科学
講座消化器外科学　竹政　伊知郎先
生よりご講演を頂きました。

「腹腔鏡下胃癌手術の現況--より安全
な手技の普及に向けて--」
大分大学医学部第一外科
衛藤　剛先生よりご講演を頂きました。

盛岡市立病院
須藤隆之先生

雫石大森クリニック
大森浩明先生

盛岡赤十字病院
川村英伸先生

岩手県立中央病院
井上　宰先生

盛岡赤十字病院
杉村好彦先生

6 June

巌刀会総会（外科学講座同門会）（2011.6.4）

例年、テーマとなる疾患を選択し、関連病院の先生方と意見交換をしてきましたが、今年は、大学の各グループチーフから、診療･研究･教育の状況および、今後の方向性についてお話しをさせて頂きました。

若林　剛教授の挨拶

座長をお願いした
日下純男先生

小児外科グループチーフ
水野　大准教授

内視鏡外科グルーチーフ
佐々木　章准教授

胃グループチーフ
肥田圭介講師

大腸グループチーフ
大塚幸喜講師

肝胆膵グループチーフ
新田浩幸講師

食道グループチーフ
木村祐輔講師

リサーチグループチーフ
西塚　哲講師

乳腺グループ
稲葉　亨助教

甲状腺グループ
冨澤勇貴助教

佐々木　純先生

池田健一郎先生

7 July

第191回日本消化器病学会東北支部例会（2011.7.8）

みなさんディスカッションにも積極的に参加して頂きました。

直腸癌に対するHigh vision systemを用いた腹腔鏡手術の有用性について報告する大塚幸喜講師

多くの方にご参加頂き、大変盛会でした。

無事終了！お疲れ様でした。

8 August

盛岡さんさ踊り（2011.8.1−4）

開催が危ぶまれた今年の『盛岡さんさ踊り』でしたが、祭り開催を経済復興の一助として、また市民の元気回復や復興に向けて開催されました。当院も例年通りチームを編成し参加しました。

外科学講座ラボさん+ポスドクク米君
外来受付前にてポーズ!

皆さんばっちり決まっています！
久米君は笛の名手！いってらっしゃーい！

出発前には病棟で踊りましたよ！
患者さん達にとても喜ばれました。

外科病棟スタッフチーム。みんなとっても綺麗です。
お子さん達もピース!

9 September

第38回東北大腸癌研究会（2011.9.16）

左から東北大学佐々木巌教授、青森県立中央病院森田隆幸先生、北里大学渡邊昌彦教授、我らが若林教授、後ろは下部消化管チームの面々

岩手のきれいどころWOCナースと特別講演をいただいた北里大学外科渡邊昌彦教授

事務局みんなで。ごくろうさんでした。

第162回東北外科集談会（2011.9.17）

がんばろう東北、がんばろう岩手のメッセージを込めて、9月17日に開催致しました。

『食道がん・胃がんの Up to Date』と題しまして、佐賀大学医学部附属病院一般・消化器外科　教授能城浩和先生よりご講演を頂戴しました。

『ハイリスク外科症例の周術期輸液戦略』と題しまして、慶應義塾大学　心臓血管外科　志水秀行 先生、函館五稜郭病院　外科小林　慎 先生よりご講演を頂戴しました。

準備から受け付けまで、ご苦労さまです。

10 October

第30回Microwave Surgery 研究会（2011.10.7−8）

本研究会に付随して開催しました、『市民公開講座ー最新の肝細胞がん治療』において、外科、内科、放射線科の各領域から肝癌治療に おける著明な先生を講師としてお招きしてご発表頂くきました。

『肝がんはどこまで切れますか? 』
日本大学医学部 消化器外科
教授　高山 忠利先生

『ラジオ波治療：10年間の治療成績と今後の展望』
東京大学 消化器内科　椎名秀一朗先生

『肝細胞がんに対するカテーテル治療の最前線』
慶應義塾大学医学部 放射線診断科
橋本　統先生

『体にやさしい肝臓の手術 ～小さな肝切除から肝移植まで～』
岩手医科大学 外科学講座　新田 浩幸先生

『進行肝細胞がんに対する最新治療』
岩手医科大学 内科学消化器肝臓分野
葛西 和博先生

座長を務めた若林教授

11 November

第５回岩手県『手術手技セミナー』(2011.11.24)

ご講演頂いた、がん研有明病院　佐野　武先生と会食。
素晴らしいお話し誠にありがとうございました。

12 December

巌刀会忘年会 (2011.12.3)

若林　剛教授挨拶

斎藤和好名誉教授から乾杯の
御発声を頂きました。

同門の中村隆二先生が、新設されたPET・リニアック先端医療センターのセンター長に就任されました。

平成23年度に新たに入局した、吉田宗平先生これから一緒にガンバロー！

沖縄から、当科に半年間研修に来られた大宜見先生。お別れのご挨拶。

全員集合！今年も一年大変お世話になりました。

同じく、新入医局員の、小沼浩人先生
宜しくお願いします！

医局大忘年会 (2011.12.28)

若林　剛教授挨拶
「大変な一年でしたが、みんなよく頑張ってくれました・・・・」

恒例のかくし芸大会！！
外科病棟チーム！（優勝しました！）

手術室チーム！

おおっと！浜松医科大学からいらしていた坂口孝宣先生！

集中治療室チーム！
ミニスカサンタにドキドキ！

小児外科・内視鏡外科
合同チーム！

最優秀女優賞は、手術室師長。
おめでとうございます！！

美女＆オネェ＆グンソク!!
リサーチ・秘書チーム

気合いの入った、肝胆膵・
外来合同チーム！

岩手県立二戸病院
Iwate Prefectural Ninohe Hospital

平成23年3月11日金曜日14時46分に発生した東日本大震災の当日、当院では8件の手術が組まれていました。その内、外科は午後から2件の脊椎麻酔下成人鼠径ヘルニアを施行する予定になっていました。1件目は午後12時30分手術室に入室しました。脊椎麻酔後、13時6分執刀医野田宏伸、助手川崎雄一郎で手術が開始されました。問題なく手術は終了し、13時58分手術室退室となりました（手術時間48分、出血量5g）。2件目の手術は14時20分手術室に入室となり、14時35分脊椎麻酔終了、1件目と同じメンバーで14時43分手術開始、術式はKugel法で、皮膚切開から筋膜切開に進んだところで揺れが始まりました。当院は免震構造となっているため、ゆっくりとした横揺れを感じたものの、手術を中断するほどではありませんでした。手術室内が停電のため一時的に暗くなったものの、すぐ自家発電に切り替わり大きな影響はありませんでした。揺れ・停電に動じることなく手術は進行し、手術時時間50分、出血量2gと、1件目の手術と変わりがありませんでした。患者は寝ていたため揺れに気付かなかったとのことでした。病院全体としても被害はほとんどなく、免震構造の威力を再認識した次第です。

しかし、その後は筋弛緩剤等の物資の供給が途絶えたため、次週からの予定手術は延期とし、緊急手術のみに対応する態勢としました。久慈地区を中心とした沿岸から、手術を要する患者の受け入れにも対応すべく準備を整えていましたが、結果的には震災による患者の手術はありませんでした。

想定外の出来事にいかに対応するか思案しているところですが、巌刀会の諸先生におかれましては大災害時の対応についてさらなるご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

岩手県立軽米病院
Iwate Prefectural Karumai Hospital

3月11日14時46分、大きな揺れに襲われ立っているのがやっとでした。ベッドサイドでは看護師が人工呼吸器を必死で押さえています。気づくと電気は止まり、非常灯が点灯、あちこちで物品が散乱していました。直ちに病院内の被害状況を確認したが、建物等に直接的な被害はありませんでした。緊急対策会議を開いて各部署からの報告を挙げ、今後の方針について話し合いました。しかし局とも連絡がつかず、自家発電の赤コンセントは医療機器に使用しているためテレビも点かないので圧倒的に情報がありませんでした。ラジオから「沿岸は津波」ということは聞こえてきましたが、まさかこのような被害を被っているとは知りませんでした。

ライフラインでは電気以外は大丈夫でしたが、患者食を病棟に運ぶエレベーターが止まったため職員が各病棟まで運びました。暖房も止まって、医局や事務室に泊まり込みました。

救急隊から「受け入れ可能か？」の問い合わせあり、了解したものの実際には来ませんでした。翌日は、自家発電の電気配分を見直して、生命維持装置はもちろんだがエレベーターにも電源が行くようにし、エアマットなどの電源は落とし、レントゲンはストップ、検査は一般検査程度、テレビ2台というように分配し直した結果、業務の支障は少なくなり、周囲の状態もわかりました。職員からは「沿岸支援を！」と意見も出ましたが、どこにも連絡が取れず、どう動いて良いのかもわからず苛立ちだけが募りました。

週が明けると、物流が途絶えている影響が出始め、遠方の職員がガソリン不足のために病院に来られなくなりました。また当院は岩手医大や東北大学等から多数の応援医師派遣を受けていますが、それが全てストップして自前になりました。そのため沿岸への応援は更に困難になり、忸怩たる思いでした。ただ、支援物資は沿岸出身職員が届けることができました。

今回の震災で思ったことは、DMATなり完結型ボランティアの体制を組んでいないと応援はなかなか難しいこと。そして何よりも情報伝達です。自分達からも周囲からの連絡もできない状況では身動きがとれませんでした。他にも薬剤・食品・重油など様々な備蓄・整備が重要であることを思い知らされました。

最後に、この度の大震災により亡くなられた方々に対し、心より哀悼の意を表します。

岩手県立久慈病院
Iwate Prefectural Kuji Hospital

『2011年3月11日・国内史上最大巨大地震発生。』外科スタッフは2件の緊急手術のため手術場でこの時を迎えました。1件は麻酔施行直前で中止、もう1件は腹腔鏡下手術中。麻酔器・手術台・モニターは強く揺さぶられた。長い揺れの後は手術を迅速に遂行することに神経を集中させました。院内PHSが鳴り、今まで言われたことのない「急げ」という言葉。「？」状況が普通じゃない…気がしました。手術を終わらせ半覚醒の術患を緊急搬出。手術室の自動ドアが開くと予想外の空間。薄暗い中で非常灯が点灯し、ベッドが運べない程の人々が殺到。大津波の出現でした。目の前の視界で何度も巨大な白い波頭が押し寄せ、その何倍にも水しぶきが激しく上がっていたとのこと。久慈港・石油備蓄基地・水族館等が壊滅状態の中、幸運にも久慈病院はその猛威を直接受けませんでした。当然、停電・断水・通信障害は発生しました。そんな中、沿岸寄りの地域や周囲の集落からの救急搬送の対応に追われることに。当面、予定手術・予約診は中止で必要な対応や外来を行い、通院できない被災集落にも訪問診療という形で医療を行いました。災害対策本部も直後から立ち上がり、阿部院長・下沖副院長は院内診察能力維持のコントロールやスタッフ・医師会・行政との情報共有、問題を迅速に解決し、心臓血管外科の皆川救命救急科長も主に救急対応に力を注ぎました。そして、遠野外科長・高橋医長も連日院内にとどまり復旧に向け対応しました。馬場医師・川岸医師・八重樫医師・真壁医師は春の人事異動予定でありましたが、5月までの延期となり混乱の中で外科医としての能力を発揮しました。その4人と入れ替わり藤社第二外科長、松井研修医が赴任となりました。2氏は震災後の状態でしたがスタッフを献身的にサポートしました。この様な状況下でも2011年の手術件数集計は総計525件、全麻336件、腹腔鏡下手術137件（40%）と去年よりも増加になりました。これも震災前・後も医局から多くの先生方に技術御指導や御助言頂いた結果と思い感謝いたしております。今後も御助力を賜りながら更に努力を重ねて参りたいと思います。

盛岡友愛病院

Morioka Yuuai Hospital

盛岡友愛病院外科は、長澤　茂（院長）、吉田 弘之、西成 尚人、中島 隆之、藤井 祐次、松谷 英樹の計6名で診療を行っております。

昨年は東日本大震災の話題で過ぎた1年でした。沿岸地域の被害に比べれば本当に軽微でしたが、当院でも様々な障害・被害がありました。3月11日14時46分の地震発生直後に全館停電となり非常用発電機2機が起動しました。人工呼吸器のコンプレッサーや揚水ポンプの起動不具合などを生じましたが、時々停電訓練も行っておりましたので、早期のチェックと冷静な対処が出来ました。その後、事態が深刻であると分かってすぐに病院1階の保安室に指揮所を設置して情報を収集、被害状況や患者さんの安全確保のために不足しているもの、備蓄量の確認を行いました。手術室では全麻手術が3件平行して行われていましたが、無影灯や必要機器の電源が確保できたため実施中の手術は無事に終了し、その後の手術は中止としました。

12日の朝には沿岸部から大勢の患者さんが搬送されてくるという連絡があり、外来待合に35人分、余裕のある病室に15人分、合計50人分のベッドを作って、可能な限りの職員を動員して待機しましたが、今回の震災の特殊な被災状況のためか当院への搬送入院はありませんでした。沿岸出身の職員も少なくはなく、不安を抱えながら精一杯仕事をする姿に切なさを感じました。

12日の午後4時5分に当院は復電しましたが、未だ病院周辺は停電しており余震も続いたことから、再停電を危惧してオーダーリングシステムやCT・MRI等を通常稼働するべきかどうか、食料、医療材料や燃料の確保状況、沿岸部への医療チーム派遣などが連日検討されました。その後数日でほぼ通常診療が行えるようになり、当たり前の日常がいかに大切であるかを改めて実感することになります。

2011年の総手術件数は1483件と、この12年間で初めて減少、うち外科は532件（全麻491件）でした。月別では3月と4月の手術数減少が目立ち、ここにも震災の影響が現れています。今回の震災における病院組織の対応を分析し、災害マニュアルや外来、急患室、手術室、透析室、病棟の対応も見直しました。加えて、昨年秋には病院機能評価の更新審査があり、職員が一丸となって取り組んだことから、これまで以上に職場での協調性が増し、和が深まった一年でした。

友愛病院では例年通り、駐車場を利用した「友愛さんさ祭り」「星をみる会」「チャグチャグ馬コ」、ホールを開放した「映画上映会」や「友愛寄席」「N響メンバーによるコンサート」「盛岡吹奏楽団コンサート」「食と健康祭り」「クリスマス会」などを開催しましたが、被災地から転院、入院中の患者さん達が『ここで さんさ踊りが観られるとは思わなかった』と喜んでくれたのがとても嬉しく印象的でした。

震災で傷ついた心が未だ癒えない患者さん、職員も少なくありません。一刻も早く、足踏みしている復興が進み、良い年度となることを期待したいと思います。

盛岡赤十字病院

Morioka Japanese Red Cross Hospital

2011年盛岡赤十字病院外科チームの紹介です。

常勤4名（杉村、川村、畠山、藤澤（～5月）、中屋（5月～））、非常勤1名（中島、秋山、梅邑）、初期研修医0～2名の計5～7名で診療にあたっております。

手術件数は、震災の影響もあり昨年より30件の減少でしたが、約2週間の手術制限を考えると、昨年とほぼ同数で推移しました。総手術件数697例、全麻手術631例、鏡視下手術209例（33％）、急患手術138例（22％）でした。手術室で行う手術以外に、PEG 71件、PTEG 6件、V-Port 66件あり、他に外来化学療法にも時間を取られ、ほぼ休む暇なく動き回っております。

東日本大震災の活動を簡単に紹介します。

災害医療は赤十字の使命でもあり、発災直後から病院を休診とし、starting care unitを立ち上げ、ヘリ搬送に対応、被災者の受け入れに追われました。畠山先生がSCUの指揮を執りました。しかし、思ったほどの救急搬送はなく、三日後の14日にはSCUは撤収しました。その間、川村先生は12日の早朝、DMATの一員として自衛隊のヘリで大船渡に向かいました。しかし活動が一段落して盛岡に帰ろうとしましたが、帰る足がありません。大船渡で足止めです。たまたま大船渡病院で生まれた新生児を当院で受け入れるため、小児科Drが救急車で大船渡に向かいました。川村先生が新生児とともに救急車で盛岡に帰ってきたのは13日の夜でした。15日からは陸前高田市を中心に救護班を派遣しました。藤澤先生が第一陣の救護班に参加しました。しかし、全国から来る赤十字救護班をまとめる人がいなく、急遽杉村が高田地区の救護班を統括するため16日の深夜高田に入りました。今回の災害は、地震によるものは軽微で、ほとんどが津波災害です。被災者は家、物がなくても割と元気です。しかし、陸前高田市は街がない、病院がない、薬局がない、薬がない状態でいかにして慢性疾患薬剤を被災者に届けようかと考え、盛岡薬剤師会の協力をもらって、現地で処方した処方箋を盛岡に運び、調剤、それを被災者に運ぶシステムを4日かけて構築いたしました。県立高田病院チームとの高田地区の医療のすみわけ、検診車、CT車、採血機器の導入、小児救急学会の診療応援、超音波学会によるDVT検診、県災害本部との調整などに奔走しました。救護所は高田第一中学校内にあったため、学校を解放する検討、プレハブの設計を始め、校舎外にプレハブの救護所ができたのは6月24日でした。今度は撤収の時期を模索しました。県立高田病院の開業を待って、7月30日救護所撤収となり、その間何十回と盛岡高田間を往復することになるとは思ってもいませんでした。これで岩手県における赤十字医療班の約4か月半にわたる救護活動がすべて終了となりました。プレハブ救護所は現在、岩手県医師会診療所として活用していただいております。

全国赤十字施設の岩手県での活動は、28県、58施設、救護班346班、派遣救護員数2580名、診療者数約31200名でした。陸前高田市では、7県、16病院、救護班数176班、派遣救護員数1215名、診療者数約1400名を数えました。

以上が当院と陸前高田市との医療の絆の概要です。

盛岡市立病院
Morioka Municipal Hospital

当院は、常勤1名と岩手医大外科医局派遣医師2名の計3名で診療を行っております。平成22年度は、藤田倫寛先生と武田大樹先生に来て頂きましたが震災の影響で平成23年4月までと1ヶ月延長となりました。平成23年度は、5月より御供真吾先生に1年間、梅邑晃先生と石田馨先生に半年間ずつ勤務いただきました。当院は、3月11日の震災の影響は、建物の軽度破損のみで週明けの3月14日から非常電源ではありましたが、通常通り全麻手術を行うことが出来ました。また、当院の恒例行事となりました第4回キッズセミナーも7月に無事開催することが出来ました。昨年は、沿岸部の教育委員会に案内状を送付し宮古の中学生に体験頂きました。これからも続けていきたいと思っております。また、昨年は、当科で初めて全身麻酔手術が400件を超え、そのうち内視鏡下手術が半数となりました。症例増加のお陰でやっと今年5mmフレキシブルカメラも購入できました。また、症例増加に伴い臨床研究も可能となり、先日院内倫理委員会の承認を得て、2つのRCTを開始できることとなりました。学会活動では、武田先生が、日本内視鏡外科学会、梅村先生が、日本臨床外科学会、日本内視鏡外科学会、東北ヘルニア研究会、藤田先生が、日本内視鏡外科学会、日本外科系連合学会、日本消化器外科学会総会と大会、単孔研究会に当院の症例で発表頂きました。今年度は、外科学会、消化器外科学会に御供先生、石田先生、藤田先生、梅村先生に当院の症例を発表頂く予定となっております。今後も当院の症例で若い先生に学会発表頂きその後に懇親会を開催出来たらと思っております。今年のお祝いとしては、平成23年10月には、石田馨先生が、日本外科学会専門医予備試験合格、平成23年12月には、御供先生が日本消化器外科学会専門医合格しました。今後も当院で手術を数多く経験頂き、多くの先生方に専門医試験を受験して頂ければと思っております。当院は、中規模病院の機動性の良さを生かした医療、岩手医大外科の支援病院として使命を果たしていく所存でおります。紹介患者は、必ず引き受けますのでお気軽にお電話いただければ幸いです。今後もご指導よろしくお願いいたします。

岩手県立釜石病院
Iwate Prefectural Kamaishi Hospital

前列左から石黒、遠藤、吉田、伊藤　後列左から二宮、小原、斉藤
（平成24年3月現在外科メンバー）

3.11.東日本大震災津波では釜石地域におきましても多くの被害・犠牲者が出て同門の皆様には大変ご心配をおかけしましたが、当院の入院患者、職員には一人の犠牲者を出すことなく災害後の混乱した医療を乗り越えることができました。築34年の旧病棟は震災前の耐震診断で震度6以上の地震で崩壊の危険ありと診断されていたことと、地震による揺れで壁や暖房器が破損したことから、まずは旧棟に入院中の患者さんをいったん病院外へ避難させたあと、廊下・待合室等の安全な場所に寝床を作り屋内へ収容させました。その後、大量に訪れた救急患者の受け入れと並行して数日かけて入院患者の約6割と重症救急患者をヘリ・救急車・バス等を利用して内陸の医療機関へ転院搬送しました。通信手段・インフラが途絶えた中での災害時医療は困難を極めましたが、岩手医科大学はじめ多方面から支援をいただいたお蔭で大過なく乗り切れました。旧病棟は平成23年4月から1年間で耐震補強工事が行われる予定でしたが、入院患者がいない状況での工事となるため、工期を短縮していただき（かなり無理をしていただきました）お盆過ぎには入院を受け入れることができました。10月には病院機能は震災前の状態に戻り外科の手術も震災前のペースに戻っています。外科学教室からはいち早く大槌町の避難所の設置された救護所の支援をいただき、また疲弊した当院の医師の当直回数を少しでも減らすために当直応援を出していただき大変助かりました。ただ、残念だったのは4月から医局からの派遣予定だった3年次の先生には、入院機能が縮小され手術もないところでの外科研修は避けた方がいいという理由から、受け入れを当面の間辞退することになり前年度比1名減の状況（吉田徹、小原眞、石黒保直、伊藤千絵）で急場を乗り切りました。また、10月からは日本医大卒9年目の外科医が震災支援の形で応援に入り非常に助かっていましたが諸事情により平成24年3月で終了ということになっています。当院は震災前から行っていた県立大槌病院の診療応援を現在も仮設診療所で継続しており、震災後は釜石市鵜住居仮設診療所の診療応援も加わったため外科全体としての業務量は震災前よりも増加しています。平成22年自治医大卒の当院臨床研修医の斉藤匠先生が外科を目指すと意思表明し3年目も釜石で外科研修をすることになりました。藤井大和先生依頼8年ぶりの自治医大卒業外科医ということで大いに期待をしているところです。

釜石病院は釜石医療圏の地域医療復興再生に向けて中心的な役割を担わなければならない立場にあります。教室からのバックアップなしには復興再生も難しいと思いますので、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

平成23年3月16日夜医局ミーティング

当日夜、待合廊下を臨時病床に（野戦病院さながらの状況）

岩手県立宮古病院
Iwate Prefectural Miyako Hospital

こんにちは。いつも大変お世話になっております。岩手県立宮古病院です。もうあの信じられないような無慈悲な災害からおよそ一年が経過しました。宮古病院自体はほとんど被害を受けなかったものの、隣の田老地区や山田町の惨状は正視できないものがあります。宮古の街もまだまだ復旧には程遠い状態です。

今年度は激動の年度でありました。災害支援の診療応援として近畿ブロックの大学病院からの救急外来応援（1週間交代）や、東海北陸臨床研修の地域医療実習の受け入れ（1か月）など、病院の人の出入りが激しく、気の休まる暇のない毎日でしたが、その皆様のおかげで何とか一年を乗り切ったと思っています。地震直後の岩手医大をはじめ宮古医師会、DMAT、JMATなどの応援も非常に心強くありがたかったことを思い出します。皆様本当にありがとうございました。

宮古病院外科はというと、院長先生の交代で1名減の4名で今年度の診療を始めたわけですが、1名が震災後の体調不良で転勤したため、たまたま災害支援で来た救急専門の先生（星野あつみ先生:聖隷三方ヶ原病院救急部）に手伝ってもらい、更に7月からは星野先生と入れ替わりにこれまた災害支援の3年目の先生（永田翔先生：順天堂大学小児外科）に手伝ってもらってようやく急場をしのいできました。現在はその永田先生と石川徹、菅原俊道、亀井真理の4人で診療しております。診療応援は、火曜日は野田芳範先生、水曜日は遠藤史隆先生、木曜日は細井信之先生に来ていただき本当に助かっております。今後ともよろしくお願い申し上げます。年間手術件数は地震後1～2か月はまともにできなかったこともありますし対象人口も減ったせいか？いくぶん減っておりますが、とりあえず毎日の仕事が無事終わるように粛々と日々悪戦苦闘しております。

とりとめのない文章になってしまいましたが、今後とも医局、各関連病院からのご指導ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

北上済生会病院
Kitakami Saiseikai Hospital

「災害時非常通信手段としてのアマチュア無線の効用」

第73回日本臨床外科学会総会〔20011年11月〕のもとで「大災害における被災地での外科医療の継続と再開―東北大震災の経験を踏まえて―」と題する特別企画が催されました。　私は特別発言を仰せつかったので、少し切口を変えてアマチュア無線家の立場から、非常時通信手段の確保としてのアマ無線とその連絡網の整備の有用性について発言しましたので、その一部を述べます。

津波による大災害を受けた最前線施設は壊滅的状況であり発災直後から通信手段が大きなダメージを受け、外部との連絡がとれず被害状況を知らせることすらできず、孤立化してしまったことが大問題でありました。

歴史的には県内での「非常時のアマ無線の活用」は、1971年全日空機雫石墜落事故の際、岩動隆一医師（JA7DF）が、現場と盛岡間の連絡に活用し、その有効性が実証されたことに源流があります。

今回の震災に際して、県内外被災地のアマ無線愛好家たちが、連絡・情報交換等を円滑に行うために一関・室根山（895m）山頂にアンテナと基地レピーター局を設置しました。これにより北は久慈市から南は福島県北部までのエリアをカバーし、支援内容や物資の需給状況の確認に役立ちました。アマチュア無線盛岡クラブ（JA7YCE）の会長・野田氏は「米国ではアマチュア無線の災害時の役目を法的に明確化している。日本でも位置づけるべきだ」との貴重な意見を述べております。

災害緊急時の連絡方法として、常識的には携帯電話、固定電話の利用、防災行政無線から情報を得る等が考えられますが、今回も電話は通信が集中してパニック状態になり、行政無線は基地局の破壊により通信が不可能となり大問題となりました。

アマチュア無線の運用には、試験を受けて免許を取得する必要がありますが、「災害時のモデル」として役立つことを愛好家達は期待し、定期的通信訓練を続けております。

被災者の方々の一日も早い復興をお祈り致します。

（きたかみ医報2012-2から引用）

岩手県立大船渡病院
Iwate Prefectural Ofunato Hospital

地震が起きて3分後には、災害時救急体制を全館放送で発動し、災害対策本部を立ち上げました。病院が被害を免れたのと、ライフラインがなんとか維持されていたのが幸運でした。三陸道も被災を免れたため、救急車は大船渡病院への退出路を経由するなどして、大船渡市・陸前高田市からのほとんどの救急患者が大船渡病院に運ばれました。日頃の災害訓練が功を奏し、混乱なく整然と災害対応にあたれたと思っています。しかしその一方で職員たちも20数人が家族を失い、120人ほどが家を失い、悲しみと苦痛に耐えながらの災害対応でした。

震災直後は家を流された職員や、ガソリンが手に入らず家に帰れない職員など、たくさんの職員が病院に寝泊りしておりました。患者食は3日分の備蓄がありましたが、職員のための食糧備蓄はなく心配しておりました。そのようななかの3月14日に、医療局よりも何処よりも早く、大船渡病院入りしたのは若林教授でした。途中で買ってきたと、バナナ、おにぎり、パン、お菓子らの支援物資をいただき、医療支援のお話しもいただきました。お話しを聞いて、盛岡から陸路が確保されているのだということや、内陸では食べ物が手に入るのだということがわかり、今後なんとかなるだろうと安心したことをおぼえております。

もうすぐ、あの東日本大震災・津波から1年になろうとしています。最近は震災の話題は少なくなりました。もう話したくないという人も多いようです。心に大きな傷を持ったまま、封印しているかのようです。病院もいまは、何ごともなかったかのごとく、日常をとりもどしています。真っ暗でなにも無くなった旧大船渡駅周辺には、派手なネオンや赤ちょうちんの屋台村ができています。津波被災を受けた盛町では瓦礫が取り除かれ、つぎつぎと大型食糧店やラーメン屋などが出店し始めています。すこしずつ賑わいが戻ってきておりますが、本格的な町の復興はこれからだと思われます。

発災後患者来院状況

	トリアージ				救急患者数計	入院患者数
	赤	黄	緑	黒		
3月11日	21	36	40	9	97	38
3月12日	8	20	52	0	80	43
3月13日	5	27	79	0	111	33
3月14日	トリアージ終了				143	23
3月15日	一般の救急対応				60	16
3月16日					61	14

救急車来院状況

	救急車		
	救急車搬入者数	内訳　（ ）は震災の被災者	
		大船渡消防署	高田消防署
3月11日	23	12(6)	11(10)
3月12日	28	11(3)	17(9)
3月13日	25	15(0)	20(5)
3月14日	35	21(0)	25(0)
3月15日	39	27(0)	12(1)
3月16日	32	19(0)	13(0)

岩手県立江刺病院

Iwate Prefectual Esashi Hospital

一年間の御無沙汰でございました。皆様お変わりございませんでしょうか。

今年度の診療体制は毎週月曜日の肥田先生、毎週水曜日（含当直）の第2病理から西成先生、手術応援として美山病院（まごころ病院から転勤）の菊池先生と、紫波診療所センターから松尾先生が月2回（火曜日）の診療応援をいただいております。遠いところお忙しい中、感謝に耐えません。

さて、今年の最大の出来事は何と言いましても東日本大震災とそれによって引き起こされた福島原発の問題でありましょう。決して忘れることのない3月11日午後2時46分、突然の大地震。その時間は丁度手術中で、ただ横たわる患者を必死に押さえながら揺れがおさまるのを待つしかありませんでした。直後に真っ暗になり、もしかして・・・と、一瞬覚悟も抱きましたが、外回りのスタッフの迅速な対応で事なきを得、手術を続行することができ改めて頼もしく思った次第です。この時点では、死者および行方不明者が2万人を越える未曾有の大災害が起きているとは思いもつきませんでした。寒い中での大規模停電、断水などライフラインが途絶した状態での人間の無力感を感じ、そこに追い討ちをかけるように降る雪。壊滅的な被害をうけた沿岸部の人達や、かつて勤務した沿岸部の病院でお世話になった職員、患者やその家族の安否を思い、先の見えぬ不安を抱きながら日々早急の復興を願うしかありませんでした。今回の震災で失った尊い命や多大な財産、それらは言葉では表せないほどの思いと思い出が詰まっており、被災した方の喪失感・悔しさ・無念さは図り知れません。とはいえ、悲惨な震災は我々に負の要素をもたらしただけではないと感じております。昨今何気ない“普通の生活”の大切さや、自己中心的な社会、殺傷事件 等、人との触れ合いに希薄さを感じていた現代に、人と人の繋がりやコミュニケーションの大切さを気付かせてくれました。

そして今年3月11日、甚大な震災後早1年が経ちました。追悼式を考えて手術に望んだ天皇陛下の国民に対する心遣

い・気配りや式での心温まるお言葉は国民に強い印象を与えました。全国民さぞ勇気付けられたことでしょう。感無量でありました。場所によって量の差はあるものの沿岸部の瓦礫はだいぶ撤去され日々着々と僅かながらでも復旧・復興が進められております。報道によりこの期間、過酷な状況下での助け合い、避難所生活する中での思いやりや人の痛みをわかり合える心が育まれ支援の手も広がっている場面をみると希望が湧きます。

福島の原発、放射能問題などまだまだ復旧・復興に向けての問題が山積みなのは承知であります。国のトップの発言･行動､足の引っ張り合いにしかみえない国会中継や様々な報道には、被災者の立場になれない人たちに国を任せていいものかと怒りと不安で一杯になるのは我々だけではないでしょう。しかし、批判ばかりでは前に進みません。それぞれが出来る範囲での支援、継続をすることで今後の復興と、今まで以上により良い環境・国に戻って欲しいと願いつつ今回の経験を教訓に日々一日一日を人との繋がりを大切に思いやり・気配りをもって過ごして生きたいと思っております。

明るい話題としては9月、塩井先生が遂に独身生活にピリオドを打ったことです。仕事面もさることながら、私生活も充実させて欲しいところです。末永くお幸せに･･･。最期に、毎度繰り返して申し上げますが、この場をお借りしまして診療応援・当直応援等の多大なる御協力をいただいていることに心から有り難く、厚く御礼申し上げる次第であります。

写真は外科病棟での忘年会です。

岩手県立千厩病院

Iwate Prefectural Senmaya Hospital

平成24年3月現在、常勤医が伊藤、坂下、藤井の3人と非常勤医として木村祐輔先生、武田大樹先生、吉田雅一先生の計6名で外科を運営しています。東日本大震災・津波後の1か月間はほとんど手術ができない状態でしたが、現在は震災前までの状態に復帰しています。当院特徴は医療圏の高齢化率が30％を優に超えており、したがって生活習慣病を基礎疾患にもつ80 ～ 70歳代の手術が中心となっていること、また、そのため、肺炎、心不全、脳血管疾患など術後管理に難渋する症例がたびたび見られることです。

東日本大震災・津波における後方支援病院としての当院の状況を報告します。3/11、当院は常勤医師6人と非常勤医師3人（含木村医師）が勤務していました。地震発生時、坂下､藤井､木村でそけいヘルニア手術を施行中でしたが、無影灯や手術台を押さえ、可及的に手術を終了しました。伊藤は、即刻事務局に災害対策本部を設け、救急処置エリアとトリアージポストを設営し、災害医療体制を整えました。被災地からの入院患者の受け入れは当日から3月末までに計136人にのぼり、医療施設から107人（79％）その他は仮設診療所や災害医療支援チームからの紹介でした。発災直後に大東病院から入院患者41人全員の転院要請があり、医師9人とスタッフ全員の協力により、約2時間で全員

平成24年1月31日右結腸半切除術、若林教授、坂下副院長、藤井外科長（執刀）、撮影伊藤

の受け入れを完了しました。エレベーター停止のため5階病棟までの患者搬送は坂下や木村、藤井が中心となり、すべて人手で行いました。3/17には大船渡病院より29人、気仙沼市立本吉病院より19人、3/22に気仙沼市の猪苗代病院（同門：猪苗代盛貞先生）より16人を受け入れました。以上のように当院が後方支援病院として機能した要因には坂下、藤井が総合診療能力を十分発揮し、大勢の入院患者の対応にあたったこと、そして医局からの派遣医師そして災害支援目的で4月より勤務した吉野内聡医師の活躍があったことです。ただ、心残りとしては猪苗代先生に対する支援が遅れたことです。そして、同じような大災害が起こった時に同門の先生を支援するシステムが必要であることを強く感じました。

平成23年3月17日大船渡病院から29人の患者搬送
リーダー坂下副院長

平成23年3月22日猪苗代盛貞先生自ら当院に16人患者搬送

函館五稜郭病院

Hakodate Goryoukaku Hospital

当院に赴任して3年が経過した。平成7年卒の舩渡治です。3.11の震災で大船渡の実家が被災し一人暮らしの母親を亡くした・・・。震災時、私はTANKO（胆摘）執刀中。函館にも震度4の長い揺れが生じたが、津波は2m程、函館朝市の一部が浸水した被害にとどまる。手術後、医局のTVモニターにみた岩手県沿岸の惨状に声を失った。その後、母とは連絡が取れず実家へ帰る手筈を模索していた中、13日の夕方、携帯に母の悲報を受けた。知人が非常用電話で連絡をくれたのだ。すぐにフェリーのキャンセル待ちに並び、事情を話すと優先して乗せてくれた。青森に一泊し、翌朝、10L給油し大船渡へと向かった。ガソリンの確保には困難を極め、道中の下り坂ではニュートラルで走行し何とか大船渡にたどりついた。生まれ育った故郷の街は空襲を受けたかのごとく破壊されていた。お寺に母の遺体を確認に行き、別れを告げた。人はあまりにも悲しいときは涙も出ないことに気づいた。実家は鉄筋コンクリートの3階建だが、2階の天井付近まで浸水の跡があり、母は2階へ向かう階段の途中で波にのまれた。数m、数秒の差で生死を分けるのが津波なのだろう。その後12日間、夜間のみ大船渡病院の一室のソファーをお借りした。矢島院長、村上先生、小山田先生には大変お世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。3月22日に無事に母の火葬を終えた。火葬までに時間がかかったのは死亡診断書の入手に時間を要したためであり、これは後に大きな社会問題となった。

みなさん、震災時には体力が必要です。給油は緊急車両のみに限られ、移動はもっぱら自力歩行か走り、借りた自転車のみ。瓦礫の処理、遺品や家財の運搬、食料の確保等、体がいくらあっても足りません。数年前から始めたジム通いが役に立った。震災も体力！　PDも肝切も体力！です。

今もジム通いは継続しております。また海にのまれた母の供養のためと称し、週末は“波乗り”の修行に励んでおります。

私事をだらだらと羅列してしまいましたが、当院の昨年の実績について触れます。総手術件数1267件、全麻991件でした。高金診療部長、小林科長、早川主任医長、以下、小川、舩渡、中嶋、板橋、菅野の計8名の体制で診療を行っている。常勤外科医が臓器別で担当し、若い外科医の指導を行っている。当院は手術症例数も多く指導体制も整っているので、“やる気”のある若手外科医を望む。手術も体力作りも“なまらやるべ”。来たれ若手外科医！“手術”“波乗り”塾へ！（ゴルフ、スキー、フライ・フィッシング塾も追加！）。

八戸赤十字病院

Hachinohe Japanese Red Cross Hospital

平成23年度（震災後～）当院外科スタッフは、佐瀬正博、玉沢佳之、藤沢健太郎、木村聡元、松尾鉄平の5人体制で診療して参りました。さらに毎週水曜日に種市病院から荒谷宗充先生、木曜日に名川町開業の川守田究先生による手術応援、月に一度の稲葉享先生の乳腺外来診療をいただいて頑張っております。

尚、当院に十数年にわたり長く勤務いただいた細井信之先生が23年5月大学付属花巻温泉病院に転勤されております。移動時期に重なり一時体調をくずされましたが、元気に診療、手術にも復帰されていると聞き大変安堵しております。

当科週間スケジュールとしては下記を行いより良い診療に勤めております。

月曜日朝　入院患者の経過サマリー報告
火曜日夕　内科との手術症例の紹介と手術の所見、経過のカンファランス
水曜日朝　死亡症例報告
金曜日朝　外来患者の診療経過、治療方針等の検討

手術件数は平成22年に減少があり心配しておりましたが23年は全手術数526例うち全麻447例と大きく増加し挽回いたしました。特に大腸癌は切除81例と10例程増加しました。大腸癌手術に対する手術は平成17年から細井先生を中心に腹腔鏡下手術を立ち上げてきましたが、藤沢に引き継がれ近年では6割に鏡下手術が施行されています。鏡下手術はさらに胃癌（stageIA distal）、虫垂炎もルーチンとなり全腹腔鏡下手術件数は137例となっています。

3.11の震災では八戸市は震度5強で約1時間後に津波が押し寄せました。発災時、私玉沢は手術中でしたが、ゆっくりとした大きな横ゆれが長くつづきパントホースが消えました。自家発電により復旧するものの引き続くゆれでパントホースはついたり消えたりを繰り返しました。幸いにも手術は終盤にさしかかっていたため無事終了可能で難を逃れました。当院脇を流れる馬淵川にも津波による逆流増水があり、氾濫はしなかったものの一時は駐車場の車が流されるのではとの心配もありました。その後対策本部におかれたテレビを見て三陸沿岸の甚大な津波の被害が少しずつ目に入るに至り、徐々に事の重大さが身にしみてきたのを思い出します。

混沌とした状況の中、赤十字災害対策として救護班第1班が編成され当時勤務の片桐先生を隊長に当日夕方には石巻赤十字病院へと出動してもらいました。その後も石巻赤十字病院、陸前高田病院への支援、福島市周辺の避難所の巡回診療、放射線警戒区域への住民一時立ち入り時の救護等、任務があり外科チームは積極的参加させていただきました。

さて最後になりますが、4月からは木村から御供真吾、松尾から加藤久仁之への交代が決まっており、新メンバーで、診療にあたって参ります。

変わらず<明るく、楽しく、元気よく>で、やってます。

PS　テニスの会が途切れています。

山本組合総合病院

Yamamoto Associted General Hospital

2011年度は大山、飯島、武田の3名で診療を行いました。当院は震災時の状況を述べるのが憚られるほど実質的な被害はなく、火力発電所からの別電源があるため停電にもなりませんでした。岩手県内の関連病院の先生方は大変なご苦労をされたことと思います。何か我々に出来ることをお手伝いしたいと考えておりましたが、何もできずに終わってしまい誠に申し訳ございませんでした。

それでは、例年通り当院のトピックスをお伝えしたいと思います。

2011年度一番の変化は電子カルテが導入されたことです。当院のNrs.の平均年齢は40歳を超えているため対応できるかどうかが懸念されていましたが、全般的にうまく稼

毎日新聞　2012年（平成24年）4月12日（木曜日）

「単孔式」で国内発の成功例も

高難度の腹腔鏡下手術

能代市の山本組合総合病院

腹腔鏡下手術は腹部に開けた数カ所の小さな穴から専用カメラと手術器具を挿入し、モニター画面で患者の状態を見ながら、器具を操作して患部の切除や縫合等を行う。切開部分が小さいため、術後の痛みが少ないと上、回復が早く、大きな傷も残らない。こうした利点から現在、外科、婦人科、泌尿器科などあらゆる病気の治療に用いられている。

同病院で国内最初の試みとなる腹腔鏡下手術への挑戦に乗り出したのは、二人の専門医。その動きは、医学専門誌や米国立医学図書館の生殖生物学情報センターなどに掲載される医学論文ジャーナルにも登録されている。また、この手術法を国内で初めて成功させた。

また、胆石は腹腔鏡手術の切開穴をより小さくするため、担当医師は、胆嚢を摘出する際、穴を一カ所にとどめる「単孔式」が難易度が高いとされる。胆石は、胆嚢の負担を軽減させる効果が期待されるが、胆嚢の負担が少ない腹腔鏡下手術。能代市路合の能代山本組合総合病院（近田龍一郎院長）では県内で唯一、肝がん治療の肝切除といった高難度手術ができるほか、切開を一カ所にとどめる「単孔式」も導入し、適用例を増やしている。中でも単孔式による脾臓摘出を国内で初めて成功、この手術ができるのは全国でも限られた医療機関となっており、先進医療を支える基盤づくりとしても取り組みが注目されている。

岩手医科大と連携、実績上げる

同病院は、岩手医科大と連携し、腹腔鏡下手術を受けられるのは県内では同病院のみ。国内でも指折りの専門医を擁する岩手医科大との連携が効果の鍵を握り、この二年で、十分にその成果を発揮しているようだ。

切開部分小さく、患者の負担軽減

今月6日に胆石摘出の20代の女性が、この術式で摘出に乗り出んだ。手術前、担当の医師から「胆嚢摘出手術について説明するから、一緒に聞いてほしい」と呼ばれ、「ここに病気が見つかった10代のこどもが居ています。医師の手術法選択になぜ、医師の手術法選択になぜ、医師の手術法選択になぜ、

外科紹介医療機関

2011年もたくさんの患者様をご紹介いただきありがとうございました。今後も最善をつくし治療させていただきます。また、地域連携パスが稼働した際には、ぜひとも先生方のご協力をお願いいたします。

	医療機関名	院長	郵便番号	住所		
あ	青森労災病院	須田 俊宏	031-0822	青森県	八戸市	白銀町字南ヶ丘1番地
	秋田組合総合病院	阿部 栄二	011-0911	秋田県	秋田市	飯島字西袋273-1
	あさくらクリニック	朝倉 慎一	020-0822	岩手県	盛岡市	茶畑1-8-2
	あすみのクリニック	斉藤 宏之	020-0173	岩手県	岩手郡滝沢村	滝沢字湯舟沢479-2
	安部医院	安部 彦満	024-0061	岩手県	北上市	大通り1-11-23
	あべ神経内科クリニック	阿部 隆志	020-0878	岩手県	盛岡市	肴町6-6 熊長ビル1F
	あべ内科消化器科クリニック	阿部 礼司	020-0146	岩手県	盛岡市	長橋町17-45
	阿部内科小児科医院	阿部 知成	020-0807	岩手県	盛岡市	加賀野3-1-2
	飯島医院	飯島 仁	020-0172	岩手県	岩手郡滝沢村	鵜飼字狐洞1-277
	池田外科・消化器内科医院	池田 健一郎	020-0041	岩手県	盛岡市	境田町5-18
	いしだ外科胃腸科クリニック	石田 茂登男	020-0834	岩手県	盛岡市	盛岡駅前通14-9 ヒラトヤビル3F
	石鳥谷医療センター	鎌田 桂	028-3163	岩手県	稗貫郡石鳥谷町	八幡5-47-2
	板倉医院	板倉 紀子	023-0862	岩手県	奥州市	水沢区福吉町6-7
	一関病院	加藤 栄一	021-0884	岩手県	一関市	大手町3-36
	猪苗代病院	猪苗代 盛貞	988-0017	宮城県	気仙沼市	南町1丁目3-7
	岩手医大 循環器センター	岡林 均	020-8505	岩手県	盛岡市	中央通1-2-1
	岩手医大 花巻温泉病院	猪又 義男	025-0305	岩手県	花巻市	台第2地割85番1
	岩手県対ガン協会	狩野 敦	020-0835	岩手県	盛岡市	永井14-46
	岩手県立 胆沢病院	松本 登	023-0864	岩手県	奥州市	水沢区龍ヶ馬場61
	岩手県立 一戸病院	高田 耕	028-5312	岩手県	二戸郡一戸町	字砂森60-1
	岩手県立 磐井病院	加藤 博孝	029-0131	岩手県	一関市	狐禅寺字大平17
	岩手県立 江刺病院	小岡 文志	023-1103	岩手県	奥州市	江刺区西大通り5-23
	岩手県立 大船渡病院	伊藤 達朗	022-0002	岩手県	大船渡市	大船渡町字山馬越10-1
	岩手県立 釜石病院	遠藤 秀彦	026-0055	岩手県	釜石市	甲子町10-483-6
	岩手県立 軽米病院	横島 孝雄	028-6302	岩手県	九戸郡軽米町	軽米2-54-5
	岩手県立 久慈病院	阿部 正	028-8040	岩手県	久慈市	旭町第10地割１番
	岩手県立 千厩病院	吉田 徹	029-0803	岩手県	一関市	千厩町千厩字草井沢32-1
	岩手県立 中央病院	望月 泉	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-4-1
	岩手県立 中部病院	北村 道彦	024-8507	岩手県	北上市	村崎野17地割10
	岩手県立 二戸病院	鈴木 彰	028-6103	岩手県	二戸市	堀野字大川原毛38-2
	岩手県立 沼宮内地域診療センター	武内 健一	028-4303	岩手県	岩手郡岩手町	大字五日市第10地割4番地7
	岩手県立 宮古病院	佐藤 元昭	027-0096	岩手県	宮古市	崎鍬ヶ崎1-11-26
	岩手晴和病院	田嶋 宣行	020-0401	岩手県	盛岡市	手代森9-70-1
	植田内科消化器科医院	植田 修	020-0173	岩手県	岩手郡滝沢村	滝沢字穴口183-3
	臼井循環器呼吸器内科	臼井 康雄	020-0107	岩手県	盛岡市	松園2-2-6

	医療機関名	院長	郵便番号	住所		
あ	内丸病院	日下 純男	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-12-7
	えいづか内科胃腸科クリニック	永塚 健	020-0117	岩手県	盛岡市	緑が丘4-1-7
	江村胃腸科内科医院	江村 洋弘	020-0044	岩手県	盛岡市	城西町7-33
	鶯宿温泉病院	久保谷 康夫	020-0573	岩手県	雫石町	南畑32-265
	おおうち消化器科内科クリニック	大内 健	027-0077	岩手県	宮古市	舘合町1-8
	大通胃腸科内科	鈴木 恒男	020-0022	岩手県	盛岡市	大通り1-3-4-4F
	おかだ外科内科クリニック	岡田 伸之	027-0025	岩手県	宮古市	実田2-5-10
	岡田消化器科内科医院	岡田 健男	020-0875	岩手県	盛岡市	清水町3-5
	荻野病院	荻野 忠良	020-0865	岩手県	盛岡市	本宮1-6-12
	小原クリニック	小原 紀彰	025-0091	岩手県	花巻市	西大通り2-22-15
	小保内医院	小保内 寿人	020-0827	岩手県	盛岡市	鉈屋町5-21
か	柏原医院	柏原 紀文	028-0304	岩手県	遠野市	宮守町字下宮守28-75
	かづの厚生病院	松谷 富美夫	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字向畑18
	かつら内科クリニック	桂 泰鴻	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮小板小瀬13-2
	加藤胃腸科内科医院	加藤 博巳	028-3303	岩手県	紫波郡紫波町	高水寺中田207
	かねこ内科クリニック	金子 能人	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘1－1－63
	川井中央診療所	藤田 敦	028-2302	岩手県	下閉伊郡川井村	川井5-101-1
	川久保病院	尾形 文智	020-0835	岩手県	盛岡市	津志田26-30-1
	川村内科医院	川村 光郎	020-0883	岩手県	盛岡市	志家町4-4
	川守田医院	川守田 安彦	028-3305	岩手県	紫波郡紫波町	北日詰八反田53-1
	菅整形外科医院	菅 義行	024-0071	岩手県	北上市	上江釣子16-51-2
	菅整形外科･皮膚科クリニック	菅 栄一	028-6103	岩手県	二戸市	石切所字川原38-1
	菅野小児科医院	菅野 恒治	020-0004	岩手県	盛岡市	山岸2-11-36
	喜田医院	喜田 恵治	761-0104	香川県	高松市	高松町2500-5
	北上済生会病院	斎藤 和好	024-8506	岩手県	北上市	花園町1-6-8
	工藤内科医院	工藤 博司	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通1-7-13
	久保田医院	久保田 公宜	020-0147	岩手県	盛岡市	大館町26-3
	熊谷内科胃腸科医院	熊谷 和久	025-0097	岩手県	花巻市	若葉町3-1-7
	栗原クリニック	栗原 英夫	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-16-4
	黒川産婦人科医院	黒川 賀重	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町2-51
	慶應義塾大学病院	武田 純三	160-8582	東京都	新宿区	信濃町35
	孝仁病院	臼木 豊	020-2252	岩手県	盛岡市	中太田泉田28
	国保 葛巻病院	山本 雅彦	028-5402	岩手県	岩手郡葛巻町	葛巻16-1-1
	国保 沢内病院	石川 清	029-5614	岩手県	和賀郡西和賀町	沢内字太田2-68
	国保 西根病院	三浦 義明	028-7112	岩手県	八幡平市	田頭22-79-1

外科紹介医療機関

	医療機関名	院長	郵便番号	住所		
か	国立がんセンター中央病院	堀田知光	104-0045	東京都	中央区	築地5-1-1
	国立病院機構盛岡病院	菊池喜博	020-0133	岩手県	盛岡市	青山1-25-1
	小坂内科消化器科クリニック	小坂陽一	020-0834	岩手県	盛岡市	永井19-258-1
	児島内科小児科医院	児島陽一	020-0122	岩手県	盛岡市	みたけ3-11-36
	後藤医院	後藤尚	028-1351	岩手県	下閉伊郡山田町	長崎4-12-10
	後藤泌尿器科皮膚科医院	後藤康文	027-0083	岩手県	宮古市	大通1-3-24
	小林脳神経外科医院	小林東洋	020-0117	岩手県	盛岡市	緑が丘4-7-34
	こんの脳神経外科神経内科クリニック	今野譲二	023-0818	岩手県	奥州市	水沢区字東町33-1
さ	西城病院	西城健	021-0871	岩手県	一関市	八幡町2-43
	済生会岩泉病院	柴野良博	027-0501	岩手県	下閉伊郡岩泉町	岩泉字中家19-1
	ささき医院	佐々木正孝	020-0816	岩手県	盛岡市	中野1丁目27-10
	坂井医院	坂井博毅	028-4307	岩手県	岩手郡岩手町	五日市10-151-1
	ささきクリニック	佐々木盛光	025-0053	岩手県	花巻市	中北万丁目836
	佐々木内科小児科医院	佐々木勉	029-5505	岩手県	和賀郡西和賀町	30地割80-8
	さとう胃腸科内科医院	佐藤冶	020-0851	岩手県	盛岡市	向中野一丁目11-25
	さとう消化器科内科クリニック	佐藤慎一郎	028-3101	岩手県	花巻市	石鳥谷町好地16-9-5
	佐藤整形外科医院	佐藤知義	023-0852	岩手県	奥州市	水沢区山崎8-1
	佐藤内科クリニック	佐藤公也	020-0022	岩手県	盛岡市	大通3-1-24 第3菱和ビル4Ｆ
	佐藤皮膚科医院	佐藤雅子	020-0133	岩手県	盛岡市	青山3-6-3
	佐藤雅夫クリニック	佐藤雅夫	027-0074	岩手県	宮古市	保久田4-7
	さわやかクリニック	田村茂	028-4303	岩手県	岩手郡岩手町	大字江刈内10-47-2
	三愛病院	山内文俊	020-0121	岩手県	盛岡市	月が丘1-31-31
	三陸病院	三浦正彦	027-0048	岩手県	宮古市	板屋1-6-36
	雫石大森クリニック	大森浩明	020-0541	岩手県	岩手郡雫石町	千刈田79-2
	篠村外科医院	篠村達雅	020-0524	岩手県	岩手郡雫石町	寺の下105-12
	小豆嶋胃腸科内科クリニック	小豆嶋正和	020-0861	岩手県	盛岡市	仙北3-13-20
	小豆嶋胃腸科内科クリニック	小豆嶋正博	024-0094	岩手県	北上市	本通り4丁目13-6
	市立田沢湖病院	佐々木英人	014-1201	秋田県	仙北市	田沢湖生保内字浮世坂17-1
	紫波地域診療センター	小野満	028-3307	岩手県	紫波郡紫波町	桜町字三本木32
	しんたろうクリニック	菊池信太郎	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮1丁目9-1
	すがさわ外科・内科クリニック	菅澤治彦	025-0312	岩手県	花巻市	二枚橋6-440-1
	鈴木こう門科クリニック	鈴木俊輔	020-0016	岩手県	盛岡市	名須川町16-14
	鈴木整形外科	鈴木正弘	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮字石仏20-1
	鈴木内科医院	鈴木知己	020-0872	岩手県	盛岡市	八幡町2-17
	せいてつ記念病院	鈴木啓之	026-0052	岩手県	釜石市	小佐野町4-3-7

	医療機関名	院長	郵便番号	住所		
さ	草加市立病院	高元俊彦	340-8560	埼玉県	草加市	草加2丁目21番１号
	総合花巻病院	後藤勝也	025-0075	岩手県	花巻市	花城町4-28
	総合水沢病院	半井潔	023-0053	岩手県	奥州市	水沢区大手町3-1
た	平館クリニック	土谷正彦	028-7405	岩手県	八幡平市	平舘第11-10-10
	高橋内科胃腸科クリニック	高橋真	020-0173	岩手県	岩手郡滝沢村	滝沢字巣子1186-14
	高松病院	田中哲夫	020-0115	岩手県	盛岡市	館向町4-8
	滝沢中央病院	伊藤浩信	020-0172	岩手県	岩手郡滝沢村	鵜飼字狐洞1-104
	たぐち脳神経外科クリニック	田口壮一	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通り1丁目4-19
	田村医院	田村健二	020-0833	岩手県	盛岡市	西見前15-112
	足澤整形外科医院	足澤國男	028-3305	岩手県	紫波郡紫波町	日詰中新田252-2
	ちだ内科・外科クリニック	千田明紀	020-0824	岩手県	盛岡市	東安庭1丁目23-60
	土川内科医院	土川伍朗	020-0145	岩手県	盛岡市	上厨川字横長根76-3
	照井内科消化器科医院	照井虎彦	025-0072	岩手県	花巻市	四日町3丁目5-8
	東海大学医学部付属病院	猪口貞樹	259-1193	神奈川県	伊勢原市	下糟屋143
	東海大学医学部付属八王子病院	北川泰久	192-0032	東京都	八王子市	石川町1838
	遠山病院	千葉知	020-0877	岩手県	盛岡市	下ノ橋町6-14
	栃内第二病院	栃内秀彦	020-0151	岩手県	岩手郡滝沢村	大釜字吉水103-1
	とちない脳神経外科クリニック	栃内秀士	020-0838	岩手県	盛岡市	津志田中央3-17-10
	栃内病院	白石秀夫	020-0878	岩手県	盛岡市	肴町2-28
	都南病院	橋本光彦	020-0832	岩手県	盛岡市	東見前6-40-1
	十和田市立中央病院	蘆野吉和	034-0093	青森県	十和田市	西十二番町14-8
	十和田東病院	和田幸子	034-0001	青森県	十和田市	大字三本木字里ノ沢1-247
な	内科クリニックすずき	鈴木康之	020-0105	岩手県	盛岡市	北松園2-15-4
	中村医院	沖恵	020-0066	岩手県	盛岡市	上田3-4-38
	成田内科胃腸科医院	成田知史	028-3614	岩手県	紫波郡矢巾町	大字又兵工新田第8地割101番地
	新里医院	新里滋	028-0516	岩手県	遠野市	穀町13-1
	西島こどもクリニック	西島浅香	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-19-11
	西島産婦人科医院	西島光茂	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-19-11
	西松園内科医院	齊藤恵子	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園3-22-1
	二戸クリニック	青木光	028-6103	岩手県	二戸市	石切所字森合32-1
	二宮内科クリニック	二宮一見	020-0013	岩手県	盛岡市	愛宕町2-47
	野田循環器・消化器内科外科クリニック	野田真由美	960-0113	福島県	福島市	北矢野目字原田59-5
は	ハートフルもりおか（老健）	立花崑	020-0384	岩手県	盛岡市	永井14地割15番地1
	はじめこどもクリニック	高橋肇	025-0097	岩手県	花巻市	若葉町1-2-33
	八戸市立市民病院	三浦一章	031-8555	青森県	八戸市	大字田向毘沙門平1

外科紹介医療機関

	医療機関名	院長	郵便番号	住所		
は	八戸赤十字病院	瀬尾 喜久雄	039-1104	青森県	八戸市	大字田面木字中明戸2
	原田内科脳神経機能クリニック	原田 達男	020-0004	岩手県	盛岡市	山岸3-2-1
	坂東内科クリニック	坂東 武志	020-0025	岩手県	盛岡市	大沢川原1-3-17
	東八幡平病院	及川 忠人	028-7303	岩手県	八幡平市	柏台2-8-2
	平井医院	平井 博夫	028-3305	岩手県	紫波郡紫波町	日詰字下丸森138-2
	ひろし外科肛門科	吉田 博	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園1-3-10
	ふるだて加藤肛門科・外科クリニック	加藤 典博	028-3303	岩手県	紫波郡紫波町	高水寺字古屋敷87-1
	プレスト齊藤外科クリニック	齊藤 純一	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮字宮沢5-1
	平和台病院	中村 周治	028-3311	岩手県	紫波郡紫波町	犬淵南谷地108-3
	細井外科医院	細井 照彦	020-0025	岩手県	盛岡市	大沢川原2-1-2
	堀江医院	堀江 寛	028-3603	岩手県	紫波郡矢巾町	大字西徳田6-143
ま	松園第一病院	河嶋 寛	020-0108	岩手県	盛岡市	東黒石野3-2-1
	松園第二病院	石川 洋子	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園3-22-3
	間山皮膚科医院	間山 岩夫	026-0034	岩手県	釜石市	中妻町1-17-20
	三島内科医院	佐藤 倫郎	020-0885	岩手県	盛岡市	紺屋町1-34
	水沼内科循環器クリニック	水沼 吉美	020-0021	岩手県	盛岡市	中央通2-11-12
	水町クリニック	水町 重範	160-0703	東京都	新宿区	西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル3階
	三田記念病院（旧・岩手保養院）	森 荘祐	020-0807	岩手県	盛岡市	加賀野3-14-1
	三井記念病院	高本 眞一	101-8643	東京都	千代田区	神田和泉町1番地
	宮古山口病院	及川 暁	027-0063	岩手県	宮古市	山口5-3-20
	村田小児科医院	村田 淳	020-0885	岩手県	盛岡市	紺屋町3-4
	もりおか胃腸科内科クリニック	佐藤 邦夫	020-0871	岩手県	盛岡市	中ノ橋通2-3-2
	もりおか往診クリニック	木村 幸博	020-0832	岩手県	盛岡市	東見前6-85-1
	もりおかこども病院	米沢 俊一	020-0102	岩手県	盛岡市	上田松屋敷11-14
	盛岡市立病院	加藤 章信	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5-15-1
	盛岡赤十字病院	沼里 進	020-0856	岩手県	盛岡市	三本柳6-1-1
	盛岡友愛病院	長澤 茂	020-0834	岩手県	盛岡市	永井12-10
	森整形外科	森 茂雄	028-7111	岩手県	八幡平市	大更第25地割117-2
	もりた整形外科	盛田 健郎	020-0004	岩手県	盛岡市	山岸1-3-8
	森谷医院	森谷 耕太郎	020-0114	岩手県	盛岡市	高松3-11-29
や	八角医院	八角 有紀	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木101-2
	山崎内科医院	山崎 一郎	022-0003	岩手県	大船渡市	盛町字内ノ目7-20
	やまだ胃腸科・内科クリニック	山田 宏之	020-0838	岩手県	盛岡市	津志田中央2-18-31
	ゆとりが丘クリニック	高橋 邦尚	020-0173	岩手県	岩手郡滝沢村	滝沢字土沢541
	ヨシザワ病院	芳沢 正幸	023-0881	岩手県	奥州市	水沢区北田14-1

	医療機関名	院長	郵便番号	住所		
や	吉田消化器科内科医院	吉田 俊巳	020-0832	岩手県	盛岡市	東見前8-20-16
	吉田整形外科・リウマチ科クリニック	吉田 昌明	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1丁目9番28号 岩井ビル2階
	吉田内科呼吸器科医院	吉田 雅美	028-7111	岩手県	八幡平市	大更第2地割79-3
	予防医学協会	高橋 牧之介	020-0834	岩手県	盛岡市	永井14-42
わ	わたなべおしりのクリニック	渡邊 正敏	020-0062	岩手県	盛岡市	本宮5-1-3

1. 学術論文

1-1 英文論文

1. Fukuzawa T, Mizuno M, Nakajima J, Nishizuka S, Otsuka K, Nitta H, Kashiwaba M, Koeda K, Sasaki A, Wakabayashi G, Laparoscopy-assisted appendectomy through an umbilical port in children. **Asian J Endosc Surg**, 2011；4：11-15.
2. Habano W, Gamo T, Terashima J, Sugai T, Otsuka K, Wakabayashi G, Ozawa S, Involvement of promoter methylation in the regulation of Pregnane X receptor in colon cancer cells. **BMC Cancer**, 2011；22(11)：81.
3. Matsuo T, Nishizuka SS, Ishida K, Iwaya T, Ikeda M, Wakabayashi G, Analysis of the anti-tumor effect of cetuximab using protein kinetics and mouse xenograft models. **BMC Res Notes**, 2011；10(4)：140-148.
4. Takahashi G, Sato N, Matsumoto N, Shozushima T, Hoshikawa K, Akitomi S, Kikkawa T, Onodera C, Kojika M, Inoue Y, Suzuki K, Wakabayashi G, Endo S, Preliminary Study on Glucose Control with an Artificial Pancreas in Postoperative Sepsis Patients. **Eur Surg Res**, 2011；47(1)：32-38.
5. Ohta M, Kitano S, Kasama K, Kawamura I, Inamine S, Wakabayashi G, Tani T, Kuwano H, Doki Y, Atomi Y, Kitajima M, Japan Research Society for Endoscopic and Laparoscopic Treatments of Obesity:Results of a national survey on laparoscopic bariatric surgery in Japan, 2000-2009. **Asian J Endosc Surg**, 2011；4(3)：138-142.
6. Wakabayashi G, Sasaki A, Nishizuka S, Furukawa T, Kitajima M, Our initial experience with robotic hepato-biliary-pancreatic surgery. **J Hepatobiliary Pancreat Sci**, 2011；18(4)：481-487.
7. Koeda K, Nishizuka S, Wakabayashi G, Minimally invasive surgery for gastric cancer: the future standard of care. **World J Surg**, 2011；35(7)：1469-1477.
8. Katagiri H, Sasaki A, Nitta H, Takahara T, Nishizuka S, Wakabayashi G, Totally laparoscopic stapled distal pancreatectomy. **Surgery Today**, in press.
9. Takahashi G, Hoshikawa K, Matsumoto N, Shozushima T, Onodera C, Kan S, Akitomi S, Kikkawa T, Tomisawa Y, Kojika M, Sato N, Inoue Y, Suzuki K, Wakabayashi G, Endo S, Changes in Serum S100A12 and sRAGE Associated with Improvement of the PaO(2)/FiO(2) Ratio following PMX-DHP Therapy for Postoperative Septic Shock. **Eur Surg Res**, 2011；47(3)：135-140.
10. Ravanan P, Sano R, Talwar P, Ogasawara S, Matsuzawa S, Cuddy M, Singh SK, Rao G.S.R.S, Kondaiah P, Reed JC, Synthetic triterpenoid cyano enone of methyl boswellate activates intrinsic, extrinsic, and endoplasmic reticulum stress cell death pathways in tumor cell lines. **Mol Cancer Ther**, 2011；10(9)：1635-1643.
11. Sasaki R, Kondo T, Oda T, Murata S, Wakabayashi G, Ohkohchi N, Impact of three-dimensional analysis of multidetector row computed tomography cholangioportography in operative planning for hilar cholangiocarcinoma. **Am J Surg**, 2011；202(4)：441-448.
12. Pandey PR, Okuda H, Watabe M, Pai SK, Liu W, Kobayashi A, Xing F, Fukuda K, Hirota S, Sugai T, Wakabayashi G, Koeda K, Kashiwaba M, Suzuki K, Chiba T, Endo M, Fujioka T, Tanji S, Mo YY, Cao D, Wilber AC, Watabe K, Resveratrol suppresses growth of cancer stem-like cells by inhibiting fatty acid synthase. **Breast Cancer Res Treat**, 2011；130(2)：387-398.
13. Takahashi G, Matsumoto N, Shozushima T, Onodera C, Kan S, Akitomi S, Hoshikawa K, Kikkawa T, Kojika M, Inoue Y, Suzuki K, Wakabayashi G, Endo S, Retrospective study on the effect of tight glucose control in postoperative sepsis patients using an artificial pancreas. **J Infect Chemother**, 2011；17(6)：812-820.
14. Takahara T, Nitta H, Hasegawa Y, Ito N, Takahashi M, Nishizuka S, Wakabayashi G, A Phase I study for adjuvant chemotherapy of Gemcitabine plus S-1 in curatively resected patients with biliary tract cancer:Adjusting the dose of adjuvant chemotherapy according to the surgical procedures. **Cancer Chemother Pharmacol**, in press.
15. Nishizuka SS, Reverse-phase protein lysate microarray (RPA) for the experimental validation of quantitative protein network models. **Methods Mol Biol**, 2011；785：65-77.
16. Matsuo T, Nishizuka S, Ishida K, Noda H, Monitoring an intracellular signal transduction pathway using reverse-phase protein lysate microarray. **J Iwate Med Assoc**, 2011；63(5)：299-306.
17. Sasaki A, Koeda K, Nakajima J, Obuchi T, Baba S, Wakabayashi G, Single-incision laparoscopic gastric resection for submucosal tumors: report of three cases. **Surgery Today**, 2011；41(1)：133-136.
18. Oyama K, Sasaki A, Chiba T, Nitta H, Otsuka K, Wakabayashi G, Single-incision laparoscopic splenectomy for idiopathic thrombocytopenic purpura: Report of a case. **Surgery Today**, 2011；41(8)：1091-1094.
19. Shimabuku M, Sasaki A, Higa M, Kakazu M, Asato M, Shiroma H, Single-incision laparoscopic adrenalectomy for primary aldosteronism: Report of a case. **Surgery Today**, 2011；41(9)：1306-1309.
20. Takahara T, Nitta H, Hasegawa Y, Ito N, Takahashi M, Wakabayashi G, Using sorafenib for recurrent hepatocellular carcinoma after liver transplantation-interactions between calcineurin inhibitor: two case reports. **Transplant Proc**, 2011；43(7)：2800-2805.
21. Nakajima J, Sasaki A, Obuchi T, Baba S, Umemura A, Wakabayashi G, Single-incision laparoscopic Heller myotomy and Dor fundoplication for achalasia: report of a case. **Surgery Today**, 2011；41(11)：1543-1547.
22. Kobayashi M, Mizuno M, Sasaki A, Arisue A, Akiyama S, Wakabayashi G, Single-port laparoscopic Heller myotomy and Dor fundoplication: initial experience with a new approach for the treatment of pediatric achalasia. **J Pediatr Surg**, 2011；46(11)：2200-2203.
23. Xing F, Okuda H, Watabe M, Kobayashi A, Pai SK, Liu W, Pandey PR, Fukuda K, Hirota S, Sugai T, Wakabayshi G, Koeda K, Kashiwaba M, Suzuki K, Chiba T, Endo M, Mo YY, Watabe K, Hypoxia-induced Jagged2 promotes breast cancer metastasis and self-renewal of cancer stem-like cells. **Oncogene**, 2011；30(39)：4075-4086.

1-2 和文論文

1. 伊藤 直子，新田 浩幸，佐々木 章，若林 剛，腹腔鏡下系統的肝切除術．**手術**，2011；65(3)：309-313.
2. 吉田 明，宮内 昭，杉野 公則，杉谷 巌，藤盛 啓成，伊藤 研一，冨澤 勇貴，田中 克浩，鳥 正幸，和田 修幸，鈴木 眞一，杉野 圭三，吉田 剛，細井 裕司，小野田 尚，長谷川 泰久，山田 弘之，岩瀬 克己，吉本 世一，今井 常夫，折田 瀬尚，宮崎 眞和，宇賀 達也，福内 敦，清水 一雄，栗原 英夫，原 尚人，小川 利久，北野 博也，藤森 実，三浦 弘規，特集２　甲状腺未分化癌研究コンソーシアム　長期生存例の生存因子解析．**内分泌外科**，2011；28(1)：27-32.
3. 田村 雄一郎，永田 博文，佐藤 美浩，新田 浩幸，若林 剛，肝切除術における心房性ナトリウム利尿ペプチドの有用性．**麻酔**，2011；60(3)：343-352.
4. 若林 剛，保険収載された腹腔鏡下肝切除術．**日本医事新報**，2011；4537：69-72.
5. 若林 剛，腹腔鏡下肝切除の適応と成績について教えて下さい．**治療 増刊号**，2011；93：886-889.
6. 若林 剛，ここまで進んだ先端医療 腹腔鏡補助下肝切除術．**臨床と研究**，2011；88(4)：33-36.
7. 新田 浩幸，若林 剛，ラジオ波焼灼システムを用いた腹腔鏡補助下肝切除術．**消化器外科 NURSING**，2011；16(4)：85.
8. 伊藤 直子，木村 祐輔，岩谷 岳，新田 浩幸，大塚 幸喜，肥田 圭介，西塚 哲，水野 大，佐々木 章，若林 剛，上縦隔洞炎を伴った魚骨による食道穿孔の１例．**岩手医学雑誌**，2011；63(1)：63-68.
9. 木村 聡元，岩谷 岳，木村 祐輔，野田 芳範，御供 真吾，高橋 正統，肥田 圭介，佐々木 章，上杉 憲幸，若林 剛，アカラシア術後に発生した食道癌の２例．**岩手医学雑誌**，2011；63(1)：57-62.
10. 木村 聡元，小林 慎，高金 明典，腹腔内迷入により発見された経肛門的異物の１例．**岩手医学雑誌**，2011；63(1)：51-55.
11. 有末 篤弘，水野 大，福澤 太一，小林 めぐみ，若林 剛，血液凝固障害を伴う新生児肝血管腫に対する肝切除術．**小児外科**，2011；43(5)：506-509.
12. 若林 剛，肝・胆・膵の手術 腹腔鏡下肝外側区域切除術．**消化器外科 臨時増刊号**，2011；34(6)：939-944.
13. 御供 真吾，大塚 幸喜，板橋 哲也，箱崎 将規，加藤 久仁之，若林 剛，横行結腸間膜裂孔ヘルニアの１例．**日本臨床外科学会雑誌**，2011；72(6)：1589-1594.
14. 水野 大，先天性心疾患合併小児外科疾患の治療戦略－小児外科医の立場から－．**日本外科学会雑誌**，2011；112(4)：240-244.
15. 赤坂 理三郎，菅井 有，大塚 幸喜，若林 剛，千葉 俊美，CD10 陽性大腸癌の分子病理学的解析．**岩手医学雑誌**，2011；63(3)：149-158.
16. 木村 祐輔，がん疼痛治療（第 49 回日本癌治療学会関連特集）．**Medicament News**，2011；2064：21-24.
17. 板橋 哲也，岩谷 岳，冨澤 勇貴，中嶋 潤，御供 真吾，伊藤 直子，佐々木 章，若林 剛，鼠径ヘルニア術後慢性疼痛の検討．**岩手医学雑誌**，2011；63(4)：249-253.
18. 木村 祐輔，岩谷 岳，野田 芳範，鴻巣 正史，西塚 哲，肥田 圭介，大塚 幸喜，新田 浩幸，柏葉 匡寛，佐々木 章，水野 大，若林 剛，食道癌に対する外科治療の適応と限界．**外科治療**，2011；105(4)：383-390.
19. 藤原 久貴，肥田 圭介，鴻巣 正史，細井 信之，玉澤 佳之，佐瀬 正博，塚原 智典，牛尾 晶，田口 雅海，若林 剛，PTX/CDDP を用いた化学放射線療法と S-1 投与により CR が認められている食道胃接合部癌の１例．**癌と化学療法**，2011；38(10)：1683-1686.
20. 杉立 彰夫，池田 みゆき，松尾 鉄平，西塚 哲，新田 浩幸，高橋 正浩，高原 武志，伊藤 直子，長谷川 康，若林 剛，ゲムシタビン剤形変更の試み．**癌と化学療法**，2011；38(12)：2445-2447.
21. 板橋 哲也，杉立 彰夫，木村 祐輔，池田 みゆき，熊谷 真奈美，松尾 鉄平，藤井 仁志，西塚 哲，大塚 幸喜，肥田 圭介，佐々木 章，若林 剛，腹水癌に対するシスプラチン新剤形の開発（第 33 回日本癌局所療法研究会 奨励賞受賞論文）．**癌と化学療法**，2011；38(12)：2081-2083.
22. 加藤 久仁之，大塚 幸喜，板橋 哲也，箱崎 将規，御供 真吾，若林 剛，乳糜腹水を伴った絞扼性イレウスの１例．**日本臨床外科学会雑誌**，2011；72(8)：2056-2060.
23. 梅邑 晃，吉川 智宏，小野寺 ちあき，西成 悠，秋冨 慎司，小鹿 雅博，井上 義博，遠藤 重厚，鋭的肝外傷後の動門脈シャントを伴う仮性左肝動脈瘤の１例．**日本腹部救急医学会雑誌**，2011；31(7)：1063-1066.
24. 加藤 久仁之，木村 祐輔，岩谷 岳，鴻巣 正史，伊藤 達郎，若林 剛，腐食性食道炎に対して胸腔鏡下食道全摘術、咽頭・喉頭切除、胃全的術、胸壁前経路結腸再建を施行した１例．**日本内視鏡外科学科雑誌**，2011；16(6)：721-726.
25. 加藤 久仁之，千葉 丈広，大山 健一，大塚 幸喜，板橋 哲也，若林 剛，小腸動静脈奇形による腸閉塞の１例．**日本消化器外科学会雑誌**，2011；44(12)：1604-1609.
26. 加藤 久仁之，千葉 丈広，大山 健一，岩間 孝英，小松 正代，若林 剛，科学放射線療法が著効した食道神経内分泌癌の１例．**癌と化学療法**，2011；38(13)：2643-2645.
27. 板橋 英教，新田 浩幸，佐々木 章，高原 武志，藤田 倫寛，片桐 弘勝，星川 浩一，伊藤 直子，高橋 正浩，若林 剛，【鏡視下手術 術中トラブル対処】肝切除術．**外科**，2011；73(1)：45-48.

28. 水野 大 , 小林 めぐみ , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛 , デブリードマン . **小児外科** , 2011；43(2)：163-165.
29. 佐々木 章 , 大渕 徹 , 梅邑 晃 , 馬場 誠朗 , 中嶋 潤 , 若林 剛 , 肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術 . **手術** , 2011；65(3)：337-340.
30. 菅井 有 , 上杉 憲幸 , 山田 範幸 , 高橋 敬介 , 若林 剛 , 寺島 雅典 , 千葉 俊美 , 鈴木 一幸 , Gastrointestinal Stromal Tumor(GIST) の臨床病理と最近の進歩 . **癌と化学療法** , 2011；38(5)：715-721.
31. 佐々木 章 , 若林 剛 , 特集「肥満と外科治療」7. 腹腔鏡下調節性胃バンディング術 , 月刊糖尿病 . **医学出版** , 2011；3(9)：61-65.
32. 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 加藤 久仁之 , 木村 聡元 , 箱崎 将規 , 片桐 弘勝 , 藤井 大和 , 藤澤 健太郎 , 秋山 有史 , 細井 信之 , 小原 眞 , 遠野 千尋 , 佐藤 一 , 伊藤 達朗 , 佐々木 章 , 若林 剛 , 腹腔鏡下大腸癌手術の標準化のための教育システム 視聴覚教育 (audio-visual education) を中心に . **癌の臨床** , 2011；56(9)：685-691.
33. 佐々木 章 , 新田 浩幸 , 高原 武志 , 藤田 倫寛 , 伊藤 直子 , 梅邑 晃 , 馬場 誠朗 , 大渕 徹 , 大塚 幸喜 , 若林 剛 , 肝癌に対する完全腹腔鏡下肝切除術 . **外科治療** , 2011；105(2)：192-196.
34. 長谷川 康 , 新田 浩幸 , 高原 武志 , 伊藤 直子 , 高橋 正浩 , 佐々木 章 , 若林 剛 , 特集 術野の展開；安全な手術を進めるために . **消化器外科** , 2011；34(10)：1493-1504.
35. 柏葉 匡寛 , 稲葉 亨 , 小松 英明 , 川岸 涼子 , 松井 雄介 , 若林 剛 , 乳癌 2. 術後補助療法 . **臨床外科（増刊号）, 医学書院** , 2011；66(11)：18-36.
36. 木村 祐輔 , 秋山 有史 , 鴻巣 正史 , 若林 剛 , 呼吸器疾患の新治療 フェントステープ . **呼吸** , 2011；30(11)：974-978.
37. 佐々木 章 , 若林 剛 , 肥満症に対するチーム医療とクリティカルパス . **日本肥満症治療学会ニュースレター** , 2011；1：6.
38. 佐々木 章 , 若林 剛 , 岩手医科大学外科学講座 . **日本内視鏡外科学会ニュースレター** , 2011；9：6-7.
39. 若林 剛 : 腹腔鏡下肝切除術 - 肝癌に対する根治的低侵襲治療 . **癌の臨床** , 2011；57(5)：231-236

2. 著　　書

1. 佐々木 章 , 若林 剛 : 成人における腹腔鏡下脾摘術 , 沖永 功太編 . **脾臓ー基礎と臨床** . ヘルス出版 , 東京 ,2011,255-258.
2. 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 木村 聡元 , 箱崎 将規 , 加藤 久仁之 , 若林 剛 : 反転法を用いた腹腔鏡下大腸全摘術 , **最先端の内視鏡下大腸手術ー単孔式からロボット手術までー** . 奥田 準二編 , 永井書店 , 大阪 ,2011,83-96.
3. 木村 祐輔 : 緩和ケアにおける PEG の適応ー在宅療養に向けた静脈栄養から PEG 管理への移行ー , **ヒューマンニュートリション** . 星 典子編 , 日本医療企画 , 東京 ,2011,3(5),56-60.
4. 池田 健一郎 , 若林 剛 : 癌化学療法施行時の栄養管理 , **オンコロジークリニカルガイド 消化器癌化学療法** . 大村 健二・瀧内 比呂也編 , 南山堂 , 東京 ,2011,353-359.

3. 学会発表

3-1 国際学会

Symposium on Minimal Access HPB Surgery 2011,Hong Kong,China,2011/1/13～1/14

＊ Wakabayashi G：Laparoscopic major hepatectomy : current status, Invited Presentation.
＊ Wakabayashi G：Mastery of Laparoscopic hepatectomy : Japanese experience, Invited Presentation.

2011Gastrointestinal Cancers Symposium (ASCO GI),San Francisco,2011/1/20～1/22

1. Nishizuka S, Ishida K, Uesugi N, Matsuo T, Ikeda M, Chiba T, Sugai T, Otsuka K, Koeda K, Wakabayashi G：Identification of chemosensitivity markers for post-operative adjuvant chemotherapy using cellular, molecular, and immunohistochemical profiles of advanced carcinomas from gastrointestinal tract, Poster Presentation.

The IFSO-APC & JSSO Congress 2011,Hokkaido,2011/2/22～2/25

1. Sasaki A, Kasama K, Obuchi T, Baba S, Umemura A, Wakabayashi G：Complications after laparoscopic sleeve gastrectomy for morbid obesity, Symposium.
2. Sasaki A, Endo M, Wakabayashi G：Co-operation of surgeon and physician for metabolic surgery -For excellent and safe achievement-, Symposium.

＊ Wakabayashi G：Caloric Restriction and Cancer: From the viewpoint of Anti-Aging Medicine, Chairman.
＊ Wakabayashi G：All About Sleeve Gastrectomy, Chairman.

The 102nd Association for Cancer Research,Orland,2011/4/2～4/6

1. Nishizuka SS, Ishida K, Uesugi N, Chiba T, Matsuo T, Yamada N, Otsuka K, Koeda K, Sugai T, Wakabayashi G：An isolation strategy for biomarkers that predict cancer relapse after 5-FU based adjuvant chemotherapy, Poster Presentation.
2. Nishizuka SS：Quantitative Cancer Biology on Solid Support, Invited Presentation.

The 52nd The Society for Surgery of the Alimentary Tract(SSAT) ANNUAL MEETING,Chicago,2011/5/6～5/10

1. Wakabayashi G：Shouldn't the enzymes be improving by now?:Liver Failure After Extended Hepatic Resection, Invited Presentation.

2011 ASCO Meeting,Chicago,2011/6/3～6/7

1. Kashiwaba M：sanofi-aventis Lecture Meeting in ASCO 2011, Discussion.
2. Kashiwaba M：Breast Cancer Forum at ASCO 2011, Discussion.

The 19th Euroean Association for Endoscopic Surgery(EAES),Torino,2011/6/15～6/18

1. Tono C,Sasaki A, Ogawa M, Obara S, Hosoi N, Wakabayashi G：Single-port versus multi-port laparoscopic cholecystectomy: A prospective randomized clinical trial, Poster Presentation.

Joint International Congress of ILTS,Elita,&LICAGE,Valencia,2011/6/22～6/25

1. Takahara T, Nitta H, Hasegawa Y, Ito N, Takahashi M, Kimura Y, Nishizuka S, Otsuka K, Koeda K, Sasaki A, Mizuno M, Wakabayashi G：Novel Treatment for HCV Hepatitis Recurrence Post Liver Transplantation,Using Mizorbine, Poster Session.
2. Wakabayashi G, Nitta H, Takahara T, Takahashi M, Ito N：Laparoscopy-Assisted Donor Hepatectomy Is Our Standard of all Donor Surgery, Poster Session.

The 14th ASIA ENDOSURGERY TASK FORCE(AETF) Workshop,Shanghai,2011/7/25～7/26

1. Wakabayashi G：Laparoscopic Hepatectomy, Invited Presentation.

The 10th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery(ELSA),Singapore,2011/8/11～8/13

1. Wakabayashi G：Laparoscopic Assisted Liver Resection, Symposium.
2. Wakabayashi G：Laparoscopic Systematic Liver Resection;Impact of Hybrid Technique, Symposium.

＊ Wakabayashi G：Minimally Invasive HPB Surgery-Safety VS Advancement, Chairman.

International Surgical Week 2011,Yokohama,2011/8/28～9/1

1. Mizuno M, Kobayashi M, Wakabayashi G, Sasaki A, Koeda K, Nitta H, Otsuka K, Kimura Y：Early experience of single-incision laparoscopic Nissen fundoplication for gastroesophageal reflux disease with mental retardation, Poster Presentation.
2. Obuchi T, Kameyama N, Tomita M, Mitsuhashi H, Matsumoto N, Katsuki Y, Wakabayashi G, Kitagawa Y：Conventional laparoscopic versus single incision laparoscopic appendectomy: a retrospective comparison, Poster Presentation.
3. Wakabayashi G：Laparoscopic donor hepatectomy, Oral Presentation.
4. Sasaki A, Kasama K, Obuchi T, Baba S, Umemura A, Wakabayashi G：Diabetes and bariatric surgery, Symposium.
5. Kimura Y, Iwaya T, Konosu M, Koeda K, Fujiwara H, Nishizuka S, Otsuka K, Wakabayashi G：A clinical study of the salvage surgery after definitive chemoradiotherapy forlocally advanced esophageal cancer (cT4NxM0), Oral Presentation.
6. Kobayashi M, Mizuno M, Wakabayashi G：Successful repair of an extremely low birth weight infant with esophageal atresia, Oral Presentation.
7. Umemura A, Sasaki A, Wakabayshi G：Results of laparoscopic sleeve gastrectomy as a single stage bariatric procedure in Japanese patients, Oral Presentation.
8. Baba S, Shimooki O, Minagawa Y, Takahashi M, Tono C, Abe T, Sasaki A, Wakabayashi G：Laparoscopic treatment of adenocarcinoma of the appendix penetrating in the transverse colon, Poster Presentation.
9. Nishizuka S, Ishida K, Chiba T, Matsuo T, Otsuka K, Koeda K, Wakabayashi G：An isolation strategy for biomarkers that predict cancer relapse after adjuvant chemotherapy, Oral Presentation.
10. Takahara T, Nitta H, Hujita T, Oubuchi T, Hoshikawa K, Nakajima J, Nishizuka S, Kashiwaba M, Sasaki A, Ikeda K, Wakabayashi G：Phase Ⅰ study of adjuvant chemotherapy: Combination of Gemcitabine and S-1 in patients with advanced biliary cancer, Poster Presentation.
11. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Takahashi M, Ito N, Nishizuka S, Kimura Y, Otsuka K, Koeda K, Sasaki A, Wakabayashi G：A retrospective analysis of efficacy of extrahepatic bile duct resection for T2 gallbladder carcinoma, Poster Disscussion.
12. Takahashi M, Nitta H, Wakabayashi G：Laparoscopic-assisted living donor hepatectomy, Video Presentation.
13. Konosu M, Kimura Y, Noda Y, Iwaya T, Endo F, Mizuno M, Sasaki A, Wakabayashi G：A case of thoracoscopic esophagectomy for esophageal gastrointestinal stromal tumor, Poster Discussion.
14. Inaba T, Kashiwaba M, Komatsu H, Kawagishi R, Uesugi N, Wakabayashi G：Verification of Surgical Margin of Breast Conserving Surgery after Primary Systemic Chemotherapy by Intrinsic Subtypes, Poster Presentation.

15. Koeda K, Fujiwara H, Nakajima J, Chiba T, Baba S, Nishinari Y, Sasaki A, Wakabayashi G : Evaluation of postoperative motor function by cine-MRI in patients after laparoscopy-assisted pylorus preserving gastrectomy, Oral Presentation.
16. Kashiwaba M, Inaba T, Wakabayashi G : Exploratory study about detection of breast cancer stem/progenitor cells by ALDH1 (Aldehyde dehydrogenase 1)/ pan-cytokeratin/ TWIST in sentinel lymph nodes, Oral Presentation.
17. Nitta H : Laparoscopic liver resection:hybrid technique, Oral Presentation.
18. Tomisawa Y, Ogasawara S, Nitta H, Nakajima J, Itabashi T, Fujita T, Itabashi H, Wakabayashi G : Palliative treatment of percutaneous transesophageal gastrostomy/jejunostomy (PTEG/J), malignant stenosis in neck and intestinal obstruction, Poster Presentation.
19. Wakabayashi G : What Happened In Japan on March 11,2011?, Oral Presentation.

＊ Wakabayashi G : What's new in bariatric surgery, Chairman.
＊ Nitta H : ISDS Poster Walk Liver1:Malignant, Chairman.
＊ Wakabayashi G : Disaster management, Chairman.

International Conference and The first IASGO CME Postgraduate Course,Moscow,2011/9/7～9/10

1. Wakabayashi G : Laparoscopic sysytematic liver resection for HCC:from hybrid to pure, Invited Presentation.
2. Wakabayashi G : Laparoscopic liver resection for hilar cholangiocellular carcinoma, Invited Presentation.
3. Wakabayashi G : Conversion chemotherapy for unresectable pancreatic cancer, Invited Presentation.
4. Wakabayashi G : Laparoscopic Liver Resection for HCC, Invited Presentation.

The 8th International Symposium on Minimal Residual Cancer(ISMRC2011),Osaka,2011/9/21～9/23

1. Nishizuka S, Ishida K, Chiba T, Kume K, Matsuo T, Uesugi N, Otsuka K, Koeda K, Sugai T, Wakabayashi G : An isolation strategy for biomarkers that predict cancer relapse after chemotherapy, Oral Presentation.
2. Wakabayashi G : Oral presentation 4, Commentator.

CAST 2011,Korea,2011/9/25～9/28

1. Takahara T, Nitta H, Hasegawa Y, Itou N, Takahashi M, Wakabayashi G : Laproscopy-assisted recipient operation for living-donor liver transplantation, Poster Presentation.

Asian Pacific Hepato Pancreato Biliary Association(AHPBA) Congress2011,Melbourne,2011/9/27～9/30

1. Wakabayashi G : Management of intra operative complications during laparoscopic liver resections, Invited Presentation.
2. Wakabayashi G : Pure Laparoscopic Medial and Ventro-Anterior Sectionectomy for Hepatocellular Carcinoma, Invited Presentation.
3. Wakabayashi G : Laparoscopic Anatomical Liver Resection for Hepatocellular Carcinoma, Invited Presentation.
4. Wakabayashi G : Laparoscopy-Assisted Resection for Hilar Cholangiocarcinoma, Invited Presentation.

＊ Wakabayashi G : Liver transplantation 4, Chairman.

Reverse Phase Protein Microarray Global Workshop,Houston,2011/10/10～10/11

＊ Nishizuka SS, Korf U : SESSION Ⅰ : Challenges, Needs, Advantages and Disadvantages of Hardware Relating to Printing, Detection and Image Processing, Chairman.

The 97th ANNUAL American College of Surgeons(ACS),San Francisco,2011/10/23～10/27

1. Wakabayashi G : Highlights from International Video Sessions, Panelist.

Gallbladder International Symposium,Beijing,2011/10/31

1. Wakabayashi G : Laparoscopic Liver Resection, Invited Presentation.

The 21st World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (IASGO), Tokyo,2011/11/9～11/12

1. Katagiri H, Nishizuka S, Kume K, Kawagishi R, Itabashi T, Akiyama Y, Fujiwara H, Kimura Y, Otsuka K, Nitta H, Sasaki A, Mizuno M, Koeda K, Wakabayashi G : Synchronous quintuple primary cancers arising from gastrointestinal tract : a case report, Symposium.
2. Wakabayashi G : Pure Laparoscopic Medial and Ventro-Anterior Sectionectomy for Hepatocellular Carcinoma, Invited Presentation.
3. Takahara T, Nitta H, Hasegawa Y, Ito N, Takahashi M, Wakabayashi G : Using sorafenib for recurrent hepatocellular carcinoma after liver transplantation:interactions with calcineurin inhibitor, Poster Presentation.
4. Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, Takahashi M, Ito N, Nishizuka S, Kimura Y, Otsuka K, Koeda K, Sasaki A, Wakabayashi G : Stereotyped procedure of laparoscopic left lateral liver resection performed by young surgeons in high volume center, Symposium.
5. Wakabayashi G : Simultaneous laparoscopic resection of colorectal cancer and synchronous liver metastases-eight years experience in a single institution, Invited Presentation.
6. Sasaki A, Nitta H, Takahara T, Obuchi T, Baba S, Umemura A, Kimura Y, Otsuka K, Koeda K, Mizuno M, Wakabayashi G : Laparoscopic spleen and splenic vessel-preserving distal pancreatectomy, Symposium.
7. Konosu M, Kimura Y, Akiyama Y, Iwaya T, Nishizuka S, Nitta H, Otuka K, Kashiwaba M, Koeda K, Sasaki A, Mizuno M, Wakabayashi G : Intramural esophageal bronchogenic cyst with esophageal fistulas : A Case Report,Poster Presentation.

＊ Wakabayashi G : New Frontiers in Laparoscopic Liver Surgery, Chairman.

3-2 国内学会

第 26 回日本静脈経腸栄養学会 , 名古屋 ,2011/2/17～18.

1. 冨澤 勇貴 , 中嶋 潤 , 新田 浩幸 , 水野 大 , 曽根 美雪 , 遠藤 龍人 , 古屋 純一 , 織田 展輔 , 阿部 里紗子 , 三浦 吉範 , 遠藤 桂 , 若林 剛 : 院内の経腸栄養投与ルート造設法の実態調査 , 一般示説 .
2. 俵 万里子 , 遠藤 龍人 , 高橋 一枝 , 二本木 寿美子 , 細川 佳代子 , 加藤 理恵子 , 菅原 敦子 , 栗谷川 洋子 , 三浦 幸枝 , 冨澤 勇貴 , 鈴木 一幸 , 池田 健一郎 : 本邦における nutritionDay 調査シートの問題点～当院独自の調査の工夫～ , 一般口演 .
3. 遠藤 龍人 , 俵 万里子 , 岩動 美奈子 , 高橋 一枝 , 二本木 寿美子 , 細川 佳代子 , 加藤 理恵子 , 菅原 敦子 , 栗谷川 洋子 , 三浦 吉範 , 古屋 純一 , 冨澤 勇貴 , 池田 健一郎 : 大学病院における NST 活動と NST 加算算定導入に向けた課題 , 一般口演 .
4. 栗谷川 洋子 , 高橋 麻衣子 , 遠藤 桂 , 永野 桂子 , 関向 えみ , 菅原 敦子 , 柳田 美喜子 , 三浦 吉範 , 加藤 理恵子 , 俵 万里子 , 織田 展輔 , 古屋 純一 , 冨澤 勇貴 , 遠藤 龍人 , 池田 健一郎 : 大学病院における NST 活性化に向けた病棟リンクナースの活動 , 一般口演 .
5. 織田 展輔 , 古屋 純一 , 栗谷川 洋子 , 高橋 麻衣子 , 遠藤 桂 , 加藤 理恵子 , 細川 佳代子 , 三浦 吉範 , 佐藤 祐子 , 豊巻 和司 , 俵 万里子 , 高橋 一枝 , 冨澤 勇貴 , 遠藤 龍人 , 池田 健一郎 : NST と連携し摂食・嚥下リハビリテーションを行った舌癌の 1 症例 , 一般口演 .
6. 千葉 丈広 , 肥田 圭介 , 藤原 久貴 , 高橋 正統 , 西成 悠 , 渡辺 陽太郎 , 石田 馨 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 新田 浩幸 , 柏葉 匡寛 , 水野 大 , 佐々木 章 , 若林 剛 : 胃癌幽門側胃切除症例における術後栄養補助療法に関する検討 , 一般口演 .

第 83 回日本胃癌学会 , 青森 ,2011/3/3～5.

1. 肥田 圭介 , 藤原 久貴 , 高橋 正統 , 千葉 丈広 , 西成 悠 , 石田 馨 , 渡邊 陽太郎 , 若林 剛 : DOC/S-1 併用化学療法と手術による集学的治療を施行した Stage Ⅳ 胃癌の検討 , 一般口演 .
2. 肥田 圭介 , 藤原 久貴 , 高橋 正統 , 千葉 丈広 , 西成 悠 , 渡邊 陽太郎 , 若林 剛 : 腹腔鏡下幽門側胃切除 D2 リンパ節郭清術における膵上縁リンパ節郭清の工夫 , 一般ビデオ .
3. 石田 馨 , 肥田 圭介 , 藤原 久貴 , 高橋 正統 , 千葉 丈広 , 西成 悠 , 渡辺 陽太郎 , 菅井 有 , 若林 剛 : TS-1/CDDP/Docetaxel による三剤併用療法が奏効し、Grade3 を認めた進行食道胃接合部癌の 1 例 , 一般口演 .
4. 藤原 久貴 , 肥田 圭介 , 高橋 正統 , 千葉 丈広 , 渡辺 陽太郎 , 西成 悠 , 西塚 哲 , 若林 剛 : 胃癌癌性腹膜炎に対する薬剤反応パターンによる抗癌剤感受性試験法の検討（Technology assessment of chemosensitivity test based on drug-response patterning for gastric cancer with peritonitis carcinomatosa), 一般示説 .

＊ 肥田 圭介 : 一般ビデオ 4, 座長 .

第 47 回日本腹部救急医学会 , 福岡 ,2011/8/11～8/12.

1. 菅野 将史 , 入野田 崇 , 舩渡 治 , 秋山 有史 , 早川 善郎 , 目黒 英二 , 小林 慎 , 高金 明典 : 当院における単孔式腹腔鏡下虫垂切除術 - 安全かつ低コストを目指して -, 一般口演 .
2. 大渕 徹 , 亀山 哲章 , 冨田 眞人 , 三橋 宏章 , 松本 伸明 , 香月 優亮 : 単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術は標準術式になり得るか？～ 100 例の経験から～ , ワークショップ .

＊ 若林 剛 : 腹部救急疾患に対する内視鏡外科手術 , 司会 .

第 97 回日本消化器病学会 , 東京 ,2011/5/13～15.

1. Wakabayashi G : The Role of Liver Resection in Advanced Hepatocellular Carcinoma,International Session.

＊ 若林 剛 : ワークショップ 8 : 急性肝不全の治療戦略と移植医療 , 司会 .
＊ 若林 剛 : 急性肝不全の治療戦略と移植医療 , 司会 .
＊ 若林 剛 : 緊急特別企画「東日本大震災　現地からの報告と復興への課題」, 司会 .

第 111 回日本外科学会（紙上開催）.

1. 新田 浩幸 , 高原 武志 , 藤田 倫寛 , 板橋 英教 , 星川 浩一 , 伊藤 直子 , 高橋 正浩 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛 : 前方アプローチによる肝右葉切除術の有用性 , ビデオフォーラム .
2. 木村 祐輔 , 岩谷 岳 , 野田 芳範 , 鴻巣 正史 , 肥田 圭介 , 藤原 久貴 , 西塚 哲 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 水野 大 , 佐々木 章 , 若林 剛 : 他臓器浸潤食道癌に対する治療方針　Salvage surgery の重要性 , パネルディスカッション .
3. 柏葉 匡寛 , 稲葉 亨 , 小松 英明 , 上杉 憲幸 , 川岸 涼子 , 松井 雄介 , 若林 剛 : センチネルリンパ節単独と多発リンパ節転移症例における ALDHl による乳癌幹細胞の陽性率と分布の検証 , サージカルフォーラム .
4. 西塚 哲 , 石田 和茂 , 上杉 憲幸 , 松尾 鉄平 , 高橋 正統 , 藤原 久貴 , 千葉 丈広 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 新田 浩幸 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 菅井 有 , 若林 剛 : 抗癌剤感受性関連タンパクプロファイルによる術後補助化学療法効果予測マーカーの同定 , シンポジウム .
5. 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 箱崎 将規 , 木村 聡元 , 加藤 久仁之 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 佐々木 章 , 若林 剛 : さらなる機能温存を目指した腹腔鏡下直腸癌手術－ Hi-Vision system の有用性－ , ビデオシンポジウム .

6. 若林 剛：卒後教育セミナー 肝切除 , 招待講演 .
7. 稲葉 亨 , 柏葉 匡寛 , 武田 雄一郎 , 小松 英明 , 川岸 涼子 , 松井 雄介 , 上杉 憲幸 , 若林 剛：MMG にて石灰化を呈した非浸潤性乳管癌 (DCIS) 症例に対する乳房温存療法における切除断端に関する検討 , ポスターセッション .
8. 鴻巣 正史 , 木村 祐輔 , 岩谷 岳 , 野田 芳範 , 西塚 哲 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛：高度進行食道癌における DCF 療法の意義 , ポスターセッション .
9. 野田 芳範 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 岩谷 岳 , 鴻巣 正史 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛：CDDP 投与後食道癌症例の組織内白金濃度と予後との関連性 , ポスターセッション .
10. 藤原 久貴 , 肥田 圭介 , 高橋 正統 , 千葉 丈広 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 新田 浩幸 , 柏葉 匡寛 , 水野 大 , 佐々木 章 , 若林 剛：当科における腹腔鏡下胃切除手術の短期成績の検討 , ポスターセッション .
11. 箱崎 将規 , 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 木村 聡元 , 加藤 久仁之 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 佐々木 章 , 若林 剛：当院における大腸癌イレウス症例の検討 , ポスターセッション .
12. 高原 武志 , 新田 浩幸 , 高橋 正浩 , 伊藤 直子 , 木村 祐輔 , 西塚 哲 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 柏葉 匡寛 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛：当教室の生体肝移植の現況 , ポスターセッション .
13. 武田 雄一郎 , 新田 浩幸 , 上杉 憲幸 , 高原 武志 , 幅野 渉 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 菅井 有 , 若林 剛：肝外胆管癌上皮内進展部と浸潤部の分子生物学的・免疫組織学的比較検討 , ポスターセッション .
14. 冨澤 勇貴 , 新田 浩幸 , 中嶋 潤 , 小笠原 聡 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛：担癌患者に対する PTEG 造設の検討 , ポスターセッション .
15. 加藤 久仁之 , 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 箱崎 将規 , 木村 聡元 , 木村 祐輔 , 西塚 哲 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 佐々木 章 , 若林 剛：当科における StageIV 大腸癌に対する腹腔鏡下手術の検討 , ポスターセッション .
16. 松尾 鉄平 , 西塚 哲 , 石田 和茂 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛：Protein kinetics と xenograft model による cetuximab の抗腫瘍活性の解析 , ポスターセッション .
17. 御供 真吾 , 高原 武志 , 新田 浩幸 , 板橋 英教 , 伊藤 直子 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 佐々木 章 , 若林 剛：進行あるいは転移を有する膵・胆道癌に対する second line 化学療法としての GEMOX 療法 , ポスターセッション .
18. 伊藤 直子 , 新田 浩幸 , 高原 武志 , 板橋 英教 , 藤田 倫寛 , 高橋 正浩 , 星川 浩一 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 佐々木 章 , 若林 剛：肝胆膵外科領域における真皮縫合の有効性についての検討 , ポスターセッション .
19. 西成 悠 , 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 箱崎 将規 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 佐々木 章 , 若林 剛：腹腔鏡下大腸癌手術後 SSI 発症予防における抗菌薬至適投与日数の検討 , ポスターセッション .
20. 千葉 丈広 , 肥田 圭介 , 藤原 久貴 , 高橋 正統 , 西成 悠 , 渡辺 陽太郎 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 新田 浩幸 , 柏葉 匡寛 , 水野 大 , 佐々木 章 , 若林 剛：腹腔鏡下胃癌手術に対する 3D-CT 画像構築の検討 , ポスターセッション .
21. 板橋 哲也 , 大塚 幸喜 , 箱崎 将規 , 木村 聡元 , 藤澤 健太郎 , 秋山 有史 , 塩井 義裕 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 菅井 有 , 若林 剛：大腸癌肝転移 (GradeB,C) に対する FOLFOX+BV(bevacizumab) 療法による肝切除の検討 , 一般口演 .
22. 大渕 徹 , 細井 信之 , 武田 大樹 , 玉澤 佳之 , 佐瀬 正博：中心静脈ポート留置における有用性ならびに問題点の検討 , 一般口演 .
23. 水野 大 , 小林 めぐみ , 中嶋 潤 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：精神発達遅滞を伴う胃食道逆流症に対する単孔式噴門形成術 , ビデオワークショップ .
24. 佐々木 章 , 中嶋 潤 , 梅邑 晃 , 大渕 徹 , 馬場 誠朗 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 若林 剛：肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の要点と注意点 , ビデオフォーラム .

＊若林 剛：腹腔鏡下肝切除－肝細胞癌に対する低侵襲手術 , 司会 .

第 23 回日本肝胆膵外科学会 , 東京 ,2011/6/8～6/10.

1. 高原 武志：肝胆膵高度技能医を目指す若手外科医の手術ビデオ , パネルディスカッション .
2. 新田 浩幸：高度医療　ラジオ波前凝固を併用した腹腔鏡補助下肝切除 , 一般口演 .
3. 新田 浩幸 , 佐々木 章 , 藤田 倫寛 , 板橋 英教 , 眞壁 健二 , 武田 大樹 , 石橋 正久 , 星川 浩一 , 伊藤 直子 , 高原 武志 , 高橋 正浩 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 若林 剛：肝細胞癌に対する腹腔鏡補助下肝前区域切除術 , ワークショップ .
4. 伊藤 直子 , 新田 浩幸 , 高橋 正浩 , 高原 武志 , 板橋 英教 , 藤田 倫寛 , 長谷川 康 , 若林 剛：GEM/S-1 併用療法後に切除施行した膵癌の 3 例 , ポスターセッション .
5. 長谷川 康 , 新田 浩幸 , 高原 武志 , 高橋 正浩 , 伊藤 直子 , 若林 剛：cT2 胆嚢癌に対する至適術式の検討 , パネルディスカッション .
6. 高橋 正浩：完全腹腔鏡下肝 S1 切除術 , 一般口演 .
7. 高原 武志：局所進行膵癌に対する術前治療としての GEM/S-1/Radiation 療法－ Phase I study, Feasibility study － , シンポジウム .
8. 若林 剛：腹腔鏡下肝切除 , 招待講演 .
9. 高原 武志 , 新田 浩幸 , 長谷川 康 , 伊藤 直子 , 高橋 正浩 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛：腹腔鏡補助下ドナー肝切除 25 例の治療成績 , ビデオセッション .

＊若林 剛：イブニングセミナー 1　肝臓外科領域における RFA の役割 , 司会 .
＊新田 浩幸：安全かつ確実な腹腔鏡下肝切除術を目指して－肝細胞癌に対する腹腔鏡補助下肝前区切除術 , 司会 .
＊若林 剛：ワークショップ 2　安全かつ確実な腹腔鏡下肝切除を目指して , 司会 .
＊若林 剛：EOB-MRI による肝癌の診断と治療へのインパクト , 司会 .

第 27 回日本 DDS 学会 , 東京 ,2011/6/9

1. 杉立 彰夫 , 高森 吉守 , 木村 祐輔 , 板橋 哲也 , 池田 みゆき , 熊谷 真奈美 , 西塚 哲 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 若林 剛：キトサンを利用したシスプラチン注射製剤の剤形変更 , 一般口演 .

第 29 回日本肥満症治療学会 , 京都 ,2011/6/10～6/11.

1. 梅邑 晃 , 佐々木 章 , 中嶋 潤 , 大渕 徹 , 馬場 誠朗 , 新田 浩幸 , 若林 剛：腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の短期成績と臨床研究の展望 , 一般口演 .
2. 佐々木 章 , 梅邑 晃 , 大渕 徹 , 馬場 誠朗 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 若林 剛：腹腔鏡下減量手術導入時のチーム医療 , シンポジウム .
3. 佐々木 章：JSSO ステートメントからガイドラインへ , 招待講演 .

第 36 回日本外科系連合学会 , 東京 ,2011/6/16～6/17.

1. 高原 武志 , 新田 浩幸 , 長谷川 康 , 伊藤 直子 , 高橋 正浩 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：腹腔鏡補助下肝門部胆管癌手術 , ビデオシンポジウム .
2. 小林 めぐみ , 水野 大 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：肺静脈・心房浸潤を疑う小児巨大肺腫瘍に対し行った横断的チーム医療による治療戦略 , 要望演題 .
3. 藤田 倫寛 , 須藤 隆之 , 佐々木 章 , 武田 大樹 , 石橋 正久 , 野田 宏伸 , 千葉 丈広 , 大渕 徹 , 伊藤 直子 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 川村 英伸 , 若林 剛：直腸脱に対する腹腔鏡下 Wells 変法直腸固定術 , ビデオシンポジウム .
4. 箱崎 将規 , 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 木村 聡元 , 加藤 久仁之 , 梅邑 晃 , 御供 真吾 , 片桐 弘勝 , 西成 悠 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 佐々木 章 , 若林 剛：腹腔鏡補助下結腸左半切除術後の腸管膜欠損部に生じた内ヘルニアによる腸閉塞の 1 例 , 要望演題 .
5. 長谷川 康 , 亀山 哲章 , 冨田 眞人 , 三橋 宏章 , 松本 伸明 , 井上 史彦 , 香月 優亮：腸管虚血を伴った孤立性上腸間膜動脈解離に対して血行再建術を施行した一例 , 一般口演 .

第 66 回日本消化器外科学会 , 名古屋 ,2011/7/13～7/15.

1. 長谷川 康 , 新田 浩幸 , 高原 武志 , 高橋 正浩 , 伊藤 直子 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：ss 胆嚢癌に対する至適術式の検討 , 要望演題 .
2. 藤原 久貴 , 肥田 圭介 , 高橋 正統 , 千葉 丈広 , 西成 悠 , 野田 芳範 , 木村 祐輔 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛：当科における残胃癌の検討 , 一般口演 .
3. 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 箱崎 将規 , 加藤 久仁之 , 木村 聡元 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 佐々木 章 , 若林 剛：進行下行結腸癌に対する腹腔鏡下結腸左半切除 －脾結腸曲授動のコツ－ , 要望演題 .
4. 梅邑 晃 , 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 箱崎 将規 , 加藤 久仁之 , 新田 浩幸 , 木村 祐輔 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：教室における大腸癌イレウスの治療戦略と臨床成績 , 一般口演 .
5. 高橋 正浩 , 板橋 英教 , 伊藤 直子 , 高原 武志 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 佐々木 章 , 新田 浩幸 , 若林 剛：生体部分肝移植における腹腔鏡補助下ドナー肝切除 , ビデオシンポジウム .
6. 肥田 圭介 , 藤原 久貴 , 高橋 正統 , 千葉 丈広 , 西成 悠 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 佐々木 章 , 若林 剛：安全・確実な幽門側胃切除 Billroth- I 法器械吻合法の確立と実践 , 一般口演 .
7. 箱崎 将規：腹腔鏡下大腸がん手術周術期における大建中湯の臨床的効果の検討 , 要望演題 .
8. 千葉 丈広：六君子湯は腹腔鏡補助下幽門保存胃切除術 (LAPPG) 施行後の食欲を改善する , 要望演題 .
9. 大渕 徹 , 亀山 哲章 , 冨田 眞人 , 三橋 宏章 , 松本 伸明 , 香月 優亮：急性虫垂炎に対する Laparoscopic interval appendectomy(LIA) の検討 , 一般口演 .
10. 木村 聡元 , 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 箱崎 将規 , 加藤 久仁之 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：高齢者消化器外科手術の諸問題（下部消化管）超高齢者に対する腹腔鏡下大腸手術の有用性の検討 , 一般口演 .
11. 佐々木 章 , 中嶋 潤 , 大渕 徹 , 馬場 誠朗 , 梅邑 晃 , 鵜木 和久 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 若林 剛：食道アカラシアに対する単孔式腹腔鏡下 Heller-Dor 手術 , 要望演題 .
12. 佐々木 章：Advanced Reduced Port Surgery ー有用なデバイスと使用のコツー , ランチョンセミナー .
13. 加藤 久仁之 , 前沢 千早 , 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 佐々木 章 , 若林 剛：大腸癌における L1 cell adhesion molecule 異常発現に関わる、遺伝子プロモーター領域のメチル化状態解析 , 一般口演 .
14. 藤田 倫寛 , 須藤 隆之 , 武田 大樹 , 石橋 正久 , 新田 浩幸 , 若林 剛：V-Loc180 を用いた真皮埋没縫合の有用性 , 一般口演 .
15. 高原 武志 , 新田 浩幸 , 長谷川 康 , 伊藤 直子 , 高橋 正浩 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛：当教室での HPD の適応と治療成績 , ビデオシンポジウム .
16. 遠藤 史隆 , 木村 聡元 , 石田 馨 , 小谷 康慈 , 阿部 薫 , 若林 剛：嚢胞性病変と充実性病変が混在した巨大後腹膜平滑筋腫の 1 例 , ミニオーラルセッション .
17. 石田 馨 , 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 木村 聡元 , 箱崎 将規 , 加藤 久仁之 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：家族性大腸ポリポーシス術後に発生したデスモイド腫瘍に対し Vbl+Mtx 療法が著効したの一例 , ミニオーラルセッション .
18. 伊藤 直子 , 新田 浩幸 , 高橋 正浩 , 高原 武志 , 板橋 英教 , 長谷川 康 , 藤田 倫寛 , 星川 浩一 , 佐々木 章 , 若林 剛：集学的治療を行った StageIV 膵癌の長期生存例 , 要望演題 .
19. 木村 祐輔 , 野田 芳範 , 鴻巣 正史 , 肥田 圭介 , 西塚 哲 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛：進行食道癌に対する DCF 療法の効果と術前化学療法としての 可能性についての検討 , 一般口演 .
20. 若林 剛：e ラーニングで学ぶ総論・がん診療領域の基礎知識 , 教育企画 .

21. 新田 浩幸 , 佐々木 章 , 藤田 倫寛 , 板橋 英教 , 片桐 弘勝 , 伊藤 直子 , 高原 武志 , 高橋 正浩 , 若林 剛：腹腔鏡補助下肝切除術の現状における位置づけ , ワークショップ .

＊若林 剛：分子標的薬導入時代におけるイリノテカンの意義 , 司会 .

＊若林 剛：肝膵同時切除術の適応と手技 , 司会 .

＊若林 剛：Ex vivo surgery- 外科手術の可能性への挑戦 , 司会 .

第 48 回日本小児外科学会 , 東京 ,2011/7/20〜7/22.

1. 水野 大 , 小林 めぐみ , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：Bipolar Tissue Sealing System を用いた小児腹腔鏡下脾摘術 , ポスターセッション .
2. 小林 めぐみ , 水野 大 , 若林 剛 , 中辻 幸恵 , 遠藤 幹也：集学的治療にて救命し得た小児巨大肺腫瘍の一例 , ポスターセッション .

＊水野 大：ポスターセッション 食道 1, 座長 .

第 16 回日本緩和医療学会 , 北海道 ,2011/7/29〜7/30.

1. 藤井 大和 , 坂下 伸夫 , 伊藤 達朗：地域医療における緩和ケア教育とその結果 , 一般示説 .

第 9 回日本ヘルニア学会 , 福岡 ,2011/8/1〜8/2.

1. 冨澤 勇貴 , 中嶋 潤 , 水野 大 , 岩谷 岳 , 川村 英伸 , 板橋 哲也 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：若年成人女性鼠径ヘルニアに対する単孔式腹腔鏡下経皮的腹膜外閉鎖法 (SILPEC) の経験 , 要望演題 .

＊若林 剛：ヘルニア手術における麻酔法の選択 , 司会 .

第 25 回日本キチン・キトサンシンポジウム , 奈良 ,2011/8/30〜8/31.

1. 杉立 彰夫 , 板橋 哲也 , 木村 祐輔 , 西塚 哲 , 大塚 幸喜 , 新田 浩幸 , 長谷川 康 , 肥田 圭介 , 高森 吉守 , 福田 稔 , 若林 剛：抗癌剤の剤形変更ーキトサンを利用した DDS ー , 一般口演 .

第 19 回日本乳癌学会 , 仙台 ,2011/9/2〜9/4.

1. 柏葉 匡寛 , 稲葉 亨 , 小松 英明 , 川岸 涼子 , 松井 雄介 , 上杉 憲幸 , 菅井 有 , 若林 剛：T1 腫瘍における幹細胞マーカーの発現とリンパ節転移との相関についての検討 , 一般口演 .
2. 柏葉 匡寛：乳癌患者における血清 HER2 タンパク測定の検証と文献的考察、課題および将来展望 , シンポジウム .
3. 松井 雄介 , 柏葉 匡寛 , 稲葉 亨 , 小松 英明 , 川岸 涼子 , 上杉 憲幸 , 菅井 有 , 若林 剛：当院における関連病院、クリニックとの循環型連携パス導入の試み , 一般口演 .
4. 川岸 涼子 , 柏葉 匡寛 , 稲葉 亨 , 小松 英明 , 松井 雄介 , 上杉 憲幸 , 菅井 有 , 若林 剛：PST で pCR が得られるも急激な進行を示したトリプルネガティブ乳癌の 1 例 , 一般示説 .
5. 稲葉 亨 , 柏葉 匡寛、武田 雄一郎、小松 英明、川岸 涼子、上杉 憲幸、若林 剛：HER2 陽性乳癌に対する Primary systemic therapy(PST) の腫瘍縮小効果に関する検討 , 一般示説 .
6. 柏葉 匡寛：乳癌ーバイオロジーの理解と臨床応用ー , モーニングセミナー .

＊柏葉 匡寛：口演 34　チーム医療 1, 座長 .

第 47 回日本胆道学会 , 宮崎 ,2011/9/16〜9/17.

1. 高原 武志 , 新田 浩幸 , 長谷川 康 , 伊藤 直子 , 高橋 正浩 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：腹腔鏡補助下胆道癌手術 , 要望ビデオ .

第 65 回日本食道学会学術集会 , 仙台 ,2011/9/26.

1. 木村 祐輔：cT4 食道癌に対する根治的化学放射線療法後の Salvage surgery の成績と問題点 , 一般示説 .

第 70 回日本癌学会 , 名古屋 ,2011/10/3〜10/5.

1. 杉立 彰夫 , 新田 浩幸 , 池田 みゆき , 松尾 鉄平 , 板橋 哲也 , 西塚 哲 , 高橋 正浩 , 高原 武志 , 伊藤 直子 , 長谷川 康 , 若林 剛：A Novel Gemcitabine Delivery System（ジェムシタビン徐放化の試み), 一般口演 .
2. Nishizuka SS,Ishida K,Matsuo T,Kume K,Wakabayashi G：An isolation strategy for biomarkers that predicts cancer relapse after 5-FU-based adjuvant chemotherapy,Oral Presentation.
3. Ogasawara S,Tomisawa Y,Nishizuka S,Wakabayashi G：mTOR signaling in thyroid cancer cell,Poster Presentation.

第 47 回日本移植学会 , 仙台 ,2011/10/4〜10/6.

1. 高原 武志 , 新田 浩幸 , 長谷川 康 , 伊藤 直子 , 高橋 正浩 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛：腹腔鏡補助下ドナー肝切除の確立へ , ワークショップ .

＊若林 剛：肝移植 3, 座長 .

第 44 回日本甲状腺外科学会 , 鳥取 ,2011/10/6〜10/7.

1. 冨澤 勇貴 , 杉谷 巌 , 吉田 明 , 宮内 昭 , 山田 弘之 , 神森 眞 , 佐藤 雄一：ATC と石灰化についての検討 , シンポジウム .
2. 小笠原 聡 , 冨澤 勇貴 , 馬場 誠朗 , 佐々木 章 , 鈴木 正通 , 菅井 有 , 前沢 千早 , 佐々木 純 , 栗原 英夫 , 若林 剛：甲状腺結節性病変の follow 中に transform したと考えられる甲状腺未分化癌症例の検討 , 一般示説 .

第 38 回日本低温医学会 , 東京 ,2011/10/6〜10/7.

1. Wakabayashi G：Peculiar complications of cryosurgery, 教育セミナー発表 .

第 38 回日本小児栄養消化器肝臓学会 , 盛岡 ,2011/10/8〜10/9.

1. 水野 大：小児における単孔式腹腔鏡下手術 , 教育講演 .

＊水野 大：ポスターセッション「小腸移植」座長 , 座長 .

第 64 回日本胸部外科学会 , 名古屋 ,2011/10/9〜10/12.

1. 木村 祐輔 , 岩谷 岳 , 秋山 有史 , 鴻巣 正史 , 藤原 久貴 , 肥田 圭介 , 西塚 哲 , 大塚 幸喜 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛：cT4NxM0 食道癌に対する Salvage surgery の治療成績 , 一般口演 .
2. 木村 祐輔 , 岩谷 岳 , 秋山 有史 , 鴻巣 正史 , 藤原 久貴 , 西塚 哲 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：T4 食道癌に対する Salvage surgery の治療成績 , 一般口演 .

第 21 回日本乳癌検診学会 , 岡山 ,2011/10/21〜10/22.

1. 柏葉 匡寛：乳癌 Subtype 分類と術後補助療法 , ランチョンセミナー .

第 19 回日本消化器関連学会週間 (JDDW2011), 福岡 ,2011/10/20〜10/23.

1. 馬場 誠朗 , 下沖 収 , 皆川 幸洋 , 川岸 涼子 , 八重樫 瑞典 , 眞壁 健二 , 吉田 雅一 , 武田 大樹 , 鴻巣 正史 , 高橋 正統 , 遠野 千尋 , 阿部 正 , 佐々木 章 , 若林 剛：直腸癌術前放射線化学療法の取り組み , 一般口演 .
2. 肥田 圭介 , 藤原 久貴 , 馬場 誠朗 , 千葉 丈広 , 西成 悠 , 渡邊 陽太郎 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 佐々木 章 , 若林 剛：幽門保存胃切除術（LAPPG）の手技と cine-MRI を用いた術後胃運動機能評価 , ポスターセッション .
3. 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 加藤 久仁之 , 木村 聡元 , 箱崎 将規 , 藤井 大和 , 吉田 雅一 , 八重樫 瑞典 , 佐々木 章 , 若林 剛：腹腔鏡下大腸全摘の手術手技 －定型化した結腸授動手技を中心に－ , ビデオシンポジウム .
4. 長谷川 康 , 新田 浩幸 , 高原 武志 , 高橋 正浩 , 伊藤 直子 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：大腸癌肝転移に対する術前補助化学療法が肝容積に与える影響 , 一般示説 .
5. 新田 浩幸 , 佐々木 章 , 藤田 倫寛 , 板橋 英教 , 眞壁 健二 , 石橋 正久 , 武田 大樹 , 片桐 弘勝 , 伊藤 直子 , 高原 武志 , 高橋 正浩 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 若林 剛：肝切除は腹腔鏡補助下か完全腹腔鏡下か , ポスターセッション .
6. 藤田 倫寛 , 須藤 隆之 , 武田 大樹 , 石橋 正久 , 渡辺 陽太郎 , 阿部 薫 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 , 若林 剛：術前に診断した回腸脂肪腫によるイレウスに対して単孔式腹腔鏡下手術を施行した 1 例 , 一般示説 .
7. 鴻巣 正史 , 野田 芳範 , 木村 祐輔 , 岩谷 岳 , 秋山 有史 , 遠藤 史隆 , 西塚 哲 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛：当科における食道癌術前化学療法による術後感染症のリスク検討 ,Poster Presentation.

第 49 回日本癌治療学会 , 名古屋 ,2011/10/27〜10/29.

1. 松尾 鉄平 , 西塚 哲 , 肥田 圭介 , 石田 和茂 , 藤原 久貴 , 御供 真吾 , 梅邑 晃 , 池田 みゆき , 若林 剛：高度進行・再発胃癌に対する細胞増殖曲線パターンによる抗癌剤感受性判定 , ワークショップ .
2. 稲葉 亨 , 柏葉 匡寛 , 武田 雄一郎 , 小松 英明 , 川岸 涼子 , 松井 雄介 , 上杉 憲幸 , 若林 剛：Low papillary type の広範囲 DCIS から異なる浸潤形式を呈した 1 例 ,Poster Presentation.
3. 小松 英明 , 柏葉 匡寛 , 稲葉 亨 , 川岸 涼子 , 松井 雄介 , 上杉 憲幸 , 菅井 有 , 若林 剛：術後急速な肺転移を来した乳腺紡錘細胞癌の 1 例 , 一般示説 .
4. 若林 剛：腹腔鏡下肝切除ー肝癌に対する根治的低侵襲治療 , シンポジウム .
5. 鴻巣 正史 , 木村 祐輔 , 岩谷 岳 , 野田 芳範 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 上杉 憲幸 , 菅井 有 , 若林 剛：腹臥位胸腔鏡下食道切除術を施行した食道 GIST の 1 例 , 一般口演 .
6. 木村 祐輔 , 岩谷 岳 , 秋山 有史 , 鴻巣 正史 , 藤原 久貴 , 西塚 哲 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛：T4 食道癌に対する治療戦略ー Salvage surgery の有効性ー , 一般口演 .
7. 柏葉 匡寛 , 稲葉 亨 , 小松 英明 , 川岸 涼子 , 松井 雄介 , 上杉 憲幸 , 菅井 有 , 若林 剛：リンパ管侵襲陽性乳癌における癌幹細胞および EMT マーカーによる乳癌転移機序の解明 , シンポジウム .
8. 木村 祐輔：進行がん患者における疼痛治療のポイント , ランチョンセミナー .
9. 高原 武志：胆道癌に対する術後治療の方向性 〜単一施設の治療成績の結果から〜 , 一般口演 .
10. 御供 真吾 , 肥田 圭介 , 藤原 久貴 , 千葉 丈広 , 高橋 正統 , 水野 大 , 佐々木 章 , 上杉 憲幸 , 菅井 有 , 若林 剛：S-1/CDDP が奏効した多発骨転移・遠隔リンパ節転移を伴った進行胃癌の 1 例 , 一般示説 .

＊若林 剛：優秀示説 10　肝 1, 座長 .

＊柏葉 匡寛：優秀示説 18, 座長 .

＊柏葉 匡寛：優秀示説 22, 座長 .

＊若林 剛：ミニシンポジウム 6　手術療法 1, 司会 .

第 27 回日本小児外科学会秋季シンポジウム , 大阪 ,2011/10/29.

1. 小林 めぐみ , 水野 大 , 若林 剛：門脈血流測定による低出生体重児に対する腸管虚血の早期診断－予防こそ最善の治療－ Early diagnosis of Portal vein blood flow measurement by low birth weight infants against intestinal ischemia - the best treatment is prevention-, 一般口演 .

第 73 回日本臨床外科学会 , 東京 ,2011/11/17～11/19.

1. 若林 剛：腹腔鏡下右肝切除を定型化する , 特別講演 .
2. 大塚 幸喜：腹腔鏡下低位前方切除の縫合不全経験から学んだ定型化手技 , ビデオシンポジウム .
3. 木村 祐輔：局所進行食道癌（T4NxM0）に対する Salvage surgery の治療成績 , パネルディスカッション .
4. 小松 英明 , 柏葉 匡寛 , 稲葉 亨 , 川岸 涼子 , 松井 雄介 , 上杉 憲幸 , 菅井 有 , 若林 剛：当科におけるセンチネルリンパ節微小転移乳癌症例の検討 , 一般口演 .
5. 伊藤 直子 , 新田 浩幸 , 高橋 正浩 , 高原 武志 , 長谷川 康 , 武田 大樹 , 眞壁 健二 , 藤田 倫寛 , 板橋 英教 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：StageIV 膵癌の長期生存例 , 一般口演 .
6. 大塚 幸喜：「安全で質の高い腹腔鏡下直腸がん手術」～特に縫合不全ゼロを目指して～ , シンポジウム .
7. 新田 浩幸 , 高原 武志 , 伊藤 直子 , 藤田 倫寛 , 板橋 英教 , 眞壁 健二 , 石橋 正久 , 武田 大樹 , 片桐 弘勝 , 長谷川 康 , 高橋 正浩 , 佐々木 章 , 若林 剛：前方アプローチによる Hanging Technique と自動縫合器を用いた上腹部正中切開肝右葉切除術 , 一般口演 .
8. 八重樫 瑞典 , 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 箱崎 将規 , 加藤 久仁之 , 梅邑 晃 , 藤井 仁志 , 若林 剛：結腸間膜穿通を来たしたＳ状結腸癌の 1 例 , 一般口演 .
9. 木村 聡元 , 藤澤 健太郎 , 松尾 鉄平 , 片桐 弘勝 , 石橋 正久 , 細井 信之 , 玉澤 佳之 , 佐瀬 正博：遺残虫垂炎により発見された重複虫垂の 1 例 , 一般口演 .
10. 馬場 誠朗 , 下沖 収 , 皆川 幸洋 , 八重樫 瑞典 , 眞壁 健二 , 川岸 涼子 , 高橋 正統 , 遠野 千尋 , 阿部 正 , 佐々木 章 , 若林 剛：診断的腹腔洗浄により , 腸管破裂に至らずに手術し得た宿便性イレウスの 1 例 , 一般示説 .
11. 佐々木 章 , 大渕 徹 , 馬場 誠朗 , 梅邑 晃 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 若林 剛：副腎良性疾患に対する reduced port surgery, ビデオシンポジウム .
12. 肥田 圭介 , 藤原 久貴 , 西成 悠 , 渡邊 陽太郎 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛：腹腔鏡下胃切除術における膵上縁リンパ節郭清の工夫 , 第 73 回日本臨床外科学会 ,11 月 ,2011, 東京都 , 一般口演 .
13. 藤井 仁志 , 吉田 徹 , 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 加藤 久仁之 , 八重樫 瑞典 , 遠藤 秀彦 , 若林 剛：直腸 GIST 術後 10 年後に肝転移を認め、Imatinib で術前化学療法後、肝切除し得た症例 , 一般口演 .
14. 水野 大 , 小林 めぐみ , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：小児に対する単孔式 Nissen 噴門形成術 , ワークショップ .
15. 高原 武志：肝門部胆管癌手術や生体肝移植レシピエント手術へ鏡視下手術の導入 , ワークショップ .
16. 高原 武志 , 新田 浩幸 , 長谷川 康 , 伊藤 直子 , 高橋 正浩 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：腹腔鏡補助下生体肝移植レシピエント手術 , 一般口演 .
17. 御供 真吾 , 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 木村 聡元 , 箱崎 将規 , 加藤 久仁之 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛：腹腔鏡下手術が有用であった横行結腸間膜裂孔ヘルニアの 1 例 , 一般示説 .
18. 鴻巣 正史 , 木村 祐輔 , 秋山 有史 , 岩谷 岳 , 遠藤 史隆 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛：食道ステント挿入で人工呼吸器より離脱しえた食道胸腔内穿破の 1 例 , 一般口演 .
19. 長谷川 康 , 新田 浩幸 , 高原 武志 , 高橋 正浩 , 伊藤 直子 , 板橋 哲也 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：大腸癌肝転移に対する術前化学療法が肝容積に与える影響 , 要望演題 .

＊若林 剛：ランチョンセミナー「消化器関連敗血症死ゼロを目指して」, 司会 .
＊若林 剛：ランチョンセミナー「ステント治療ーここまで出来るー」, 司会 .
＊若林 剛：ビデオワークショップ 7, 司会 .

第 33 回日本バイオマテリアル学会 , 京都 ,2011/11/21

1. 杉立 彰夫 , 長谷川 康 , 伊藤 直子 , 板橋 哲也 , 高原 武志 , 高橋 正浩 , 西塚 哲 , 大塚 幸喜 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 高森 吉守 , 若林 剛：キトサンを担体とした抗癌剤の剤形変更ー臨床利用の可能性ー , 一般口演 .

第 54 回日本甲状腺学会 , 大阪 ,2011/11/21～11/23.

1. 小笠原 聡 , 冨澤 勇貴 , 馬場 誠朗 , 西塚 哲 , 鈴木 正通 , 佐々木 純 , 栗原 英夫 , 紅林 淳一 , 若林 剛：未分化転化の制御因子を探る , 一般示説 .
2. 冨澤 勇貴 , 小笠原 聡 , 中野 善薫 , 佐々木 純 , 栗原 英夫 , 若林 剛：広範壊死を伴った甲状腺乳頭癌術後早期に、腺内転移が急速増大した 1 例 , 一般示説 .

第 66 回日本大腸肛門病学会 , 東京 ,2011/25～11/26.

1. 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 加藤 久仁之 , 木村 聡元 , 箱崎 将規 , 吉田 雅一 , 八重樫 瑞典 , 若林 剛：脾結腸曲の授動が必要な進行結腸癌に対する腹腔鏡下手術手技 , ビデオシンポジウム .
2. 加藤 久仁之 , 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 箱崎 将規 , 木村 聡元 , 藤澤 健太郎 , 松尾 鉄平 , 藤井 仁志 , 出口 博之 , 友安 信 , 谷田 達男 , 若林 剛：当科における大腸癌肺転移切除症例の検討 , 一般口演 .
3. 板橋 哲也 , 大塚 幸喜 , 箱崎 将規 , 加藤 久仁之 , 木村 聡元 , 藤澤 健太郎 , 若林 剛：当科における腹膜播種の治療成績 , 一般口演 .
4. 箱崎 将規 , 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 木村 聡元 , 藤澤 健太郎 , 秋山 有史 , 若林 剛：大腸癌肝転移 (GradeB,C) に対する FOLFOX+BV (bevacizumab) 療法による肝切除の検討 , 一般口演 .
5. 大塚 幸喜：実践！腹腔鏡下大腸手術手技の習得 , モーニングセミナー .

＊大塚 幸喜：直腸癌鏡視下手術 1, 座長 .

第 38 回日本臓器保存生物医学会 , 仙台 ,2011/11/25～11/26.

＊若林 剛：虚血・再灌流傷害 , 司会 .

第 24 回日本外科感染症学会 , 三重 ,2011/12/1～12/2.

1. 鴻巣 正史 , 木村 祐輔 , 秋山 有史 , 岩谷 岳 , 遠藤 史隆 , 西塚 哲 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛：食道癌術後 Bacillus cereus 菌血症の 1 例 , 一般口演 .

＊若林 剛：パネルディスカッション 2-1・肝胆膵手術の新しい周術期感染管理（肝）, 座長 .

第 24 回日本内視鏡外科学会 , 大阪 ,2011/12/7～12/9.

1. 馬場 誠朗 , 佐々木 章 , 大渕 徹 , 梅邑 晃 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 若林 剛：胃 GIST に対する単孔式腹腔鏡下胃局所切除術の位置づけ , シンポジウム .
2. 馬場 誠朗 , 佐々木 章 , 小川 雅彰 , 須藤 隆之 , 遠野 千尋 , 小原 眞 , 細井 信之 , 佐藤 直夫 , 大渕 徹 , 梅邑 晃 , 若林 剛：単孔式と多孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の前向きランダム化臨床試験：単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の位置づけ , 特別企画 .
3. 大渕 徹 , 亀山 哲章 , 冨田 眞人 , 三橋 宏章 , 松本 伸明 , 吉川 祐輔 , 佐々木 妙子：当院における単孔式腹腔鏡下手術の現状～ 255 例の経験から～, 特別企画 .
4. 肥田 圭介 , 藤原 久貴 , 西成 悠 , 渡邊 陽太郎 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛：腹腔鏡下胃切除術の定型化がもたらすもの , パネルディスカッション .
5. 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 加藤 久仁之 , 木村 聡元 , 箱崎 将規 , 藤井 仁志 , 八重樫 瑞典 , 吉田 雅一 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 佐々木 章 , 若林 剛：大腸癌に対する腹腔鏡手術を定型化し標準化するためには , パネルディスカッション .
6. 大塚 幸喜：岩手に於ける腹腔鏡下大腸手術の教育～見せて聞かせる教育～ , スポンサードシンポジウム .
7. 水野 大 , 小林 めぐみ , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：小児における単孔式腹腔鏡下手術の適応拡大 , 一般口演 .
8. 木村 祐輔 , 秋山 有史 , 鴻巣 正史 , 岩谷 岳 , 肥田 圭介 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 佐々木 章 , 水野 大 , 上杉 憲幸 , 菅井 有 , 若林 剛：腹臥位による胸腔鏡下手術により切除した食道 GIST の 1 例 , 一般口演 .
9. 佐々木 章 , 馬場 誠朗 , 大渕 徹 , 梅邑 晃 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 若林 剛：副腎良性疾患に対する reduced port surgery, シンポジウム .
10. 新田 浩幸：安全な腹腔鏡下肝切除術を目指して一手技と機器の up to date ー , ランチョンセミナー .
11. 高橋 正浩 , 眞壁 健二 , 武田 大樹 , 板橋 英教 , 長谷川 康 , 高原 武志 , 伊藤 直子 , 新田 浩幸 , 若林 剛：完全腹腔鏡下肝 S1 切除の手術手技 , パネルディスカッション .
12. 板橋 哲也 , 大塚 幸喜 , 加藤 久仁之 , 藤澤 健太郎 , 箱崎 将規 , 木村 聡元 , 八重樫 瑞典 , 秋山 有史 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：腹腔鏡下手術における圧排鉗子の開発一骨盤内視野展開に対する新デバイスの試みー , ワークショップ .
13. 武田 大樹 , 須藤 隆之 , 藤田 倫寛 , 上杉 憲幸 , 佐々木 章 , 若林 剛：後腹膜 Muller 管嚢胞の 1 例 , 一般口演 .
14. 藤原 久貴 , 肥田 圭介 , 高橋 正統 , 千葉 丈広 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛：当科における腹腔鏡下胃全摘に関する検討 , 一般口演 .
15. 藤田 倫寛 , 須藤 隆之 , 佐々木 章 , 武田 大樹 , 石橋 正久 , 梅邑 晃 , 御供 真吾 , 冨澤 勇貴 , 渡辺 陽太郎 , 阿部 薫 , 新田 浩幸 , 若林 剛：単孔式 TAPP 法の導入 , パネルディスカッション .
16. 長谷川 康 , 新田 浩幸 , 高原 武志 , 高橋 正浩 , 伊藤 直子 , 板橋 哲也 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：術前診断に難渋した脾症の一例 , 一般口演 .
17. 新田 浩幸 , 佐々木 章 , 藤田 倫寛 , 高橋 正浩 , 高原 武志 , 伊藤 直子 , 長谷川 康 , 板橋 英教 , 片桐 弘勝 , 石橋 正久 , 武田 大樹 , 眞壁 健二 , 若林 剛：自動縫合器を用いた腹腔鏡（補助）下肝切除 , パネルディスカッション .
18. 新田 浩幸：腹腔鏡下肝臓切除術の実際～ Big Incision, Big Surgeon? ～ , ランチョンセミナー .
19. 加藤 久仁之 , 大山 健一 , 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛：小腸動静脈奇形による腸閉塞の 1 例 , 一般口演 .

＊佐々木 章：ディベートセッション：肥満手術は日本で成功するか , 座長 .
＊肥田 圭介：一般演題 胃・悪性（2), 座長 .
＊若林 剛：「安全な腹腔鏡下肝切除術を目指して一手技と機器の up to date ー」新田 浩幸 , 司会 .
＊若林 剛：シンポジウム 14・腹腔鏡下肝切除の手術手技と治癒・成績 , 座長 .
＊新田 浩幸：要望演題 8・外科領域における合併症軽減の工夫（5）（肝臓・脾臓・膵臓), 座長 .
＊佐々木 章：シンポジウム：単孔式腹腔鏡下手術の適応拡大（5）（肝臓・膵臓・その他）, 座長 .
＊大塚 幸喜：要望演題 14・外科領域における困難症例の報告（7）（大腸), 座長 .

3-3 研究会・セミナー等

Medical Seminar In Iwate ～ゾシン発売 2 周年記念～ , 盛岡 ,2011/1/15.

＊若林 剛：「嫌気性菌はなぜ臭いのか」大毛 宏喜 , 座長 .

第 74 回大腸癌研究会 , 福岡 ,2011/1/21.

1. 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 箱崎 将規 , 木村 聡元 , 加藤 久仁之 , 藤井 大和 , 佐々木 章 , 菅井 有 , 若林 剛：直腸癌に対する新時代の腹腔鏡下手術－Hi-Vision system の有用性－ , 一般示説 .

いわて遠隔外科医療カンファランス～特別講演会～ , 盛岡 ,2011/1/26.

1. 佐々木 章：単孔式と多孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の前向きランダム化試験 , 一般口演 .

＊若林 剛：「単孔式腹腔鏡下手術の今」北城 秀司 , 座長 .

＊若林 剛：「単孔式と多孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の前向きランダム化試験」佐々木 章 , 座長 .

第 5 回みちのくウィンターセミナー , 盛岡 ,2011/1/29.

＊木村 祐輔：「進行食道癌に対する集学的治療」土岐 祐一郎 , 座長 .

＊大塚 幸喜：「進行結腸癌根治治療のベストプラクティス～腹腔鏡手術と補助化学療法～」山口 茂樹 , 座長 .

＊柏葉 匡寛：「乳がん術前化学療法後におけるセンチネルリンパ節生検の適応」佐伯 俊昭 , 座長 .

＊新田 浩幸：「肝切除術－臨床の現実と研究－」藤元 治朗 , 座長 .

第 45 回東北肝臓研究会 , 仙台 ,2011/2/4.

1. 長谷川 康 , 新田 浩幸 , 高原 武志 , 高橋 正浩 , 伊藤 直子 , 若林 剛：術前診断に難渋した嚢胞性膵腫瘍の一例 , 一般口演 .

MBC Treatment Forum in Morioka, 盛岡 ,2011/2/4.

1. 稲葉 亨：Trastuzumab/Gemcitabine の併用療法が奏功した再発乳癌の 1 例 , 一般口演 .
1. 柏葉 匡寛：進行再発乳癌における Gemcitabine の位置付け , パネルディスカッション .

＊若林 剛：「進行再発乳癌における治療戦略－ 2011 －」中村 清吾 , 座長 .

第 10 回肝移植医療フォーラム , 東京 ,2011/2/12.

1. 高原 武志：当院における生体肝移植の短期治療成績 , 一般口演 .

いわて遠隔外科医療カンファランス～特別講演会～ , 盛岡 ,2011/2/16.

1. 大塚 幸喜：ICOG についての状況報告 , 一般口演 .

＊若林 剛：「消化器外科医に必要な腫瘍免疫学」山口 佳之 , 座長 .

＊佐々木 章：司会 .

第 3 回単孔式内視鏡手術研究会 , 東京 ,2011/2/19.

1. 佐々木 章 , 大渕 徹 , 馬場 誠朗 , 梅邑 晃 , 鵜木 和久 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 水野 大 , 若林 剛：食道アカラシアに対する単孔式腹腔鏡下 Heller-Dor 手術 , 一般口演 .
2. 水野 大 , 小林 めぐみ , 中嶋 潤 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：重症心身障害者に対する単孔式腹腔鏡下噴門形成術 , 一般口演 .

＊佐々木 章：一般（その他), 座長 .

Meet The Expert, 東京 ,2011/2/26.

＊若林 剛：「Laparoscopic Liver Surgery：From Resection to Transplantation」Daniel Cherqui, 座長 .

第 44 回制癌剤適応研究会 , 熊本 ,2011/3/11.

1. 西塚 哲 , 石田 和茂 , 上杉 憲幸 , 千葉 丈広 , 池田 みゆき , 山田 範幸 , 松尾 鉄平 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 菅井 有 , 若林 剛：術後補助化学療法後の再発予測分子マーカーの同定 , シンポジウム .
2. 松尾 鉄平 , 西塚 哲 , 肥田 圭介 , 石田 和茂 , 藤原 久貴 , 御供 真吾 , 梅邑 晃 , 池田 みゆき , 若林 剛：高度進行・再発胃癌症例に対する細胞増殖曲線パターンによる抗癌剤感受性判定 , 一般口演 .

第 5 回 IWATE Wound Closure Seminar Early Exposure Session, 盛岡 ,2011/5/16.

＊若林 剛：誰も教えてくれなかった内視鏡下縫合技術の上達方法 , 司会 .

第 33 回日本癌局所療法研究会 , 大阪 ,2011/6/10.

1. 板橋 哲也 , 杉立 彰夫 , 木村 祐輔 , 池田 みゆき , 熊谷 真奈美 , 松尾 鉄平 , 西塚 哲 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 若林 剛：腹膜播種に対するシスプラチン新剤形の開発 —基礎的検討—, 主題 .
2. 杉立 彰夫 , 池田 みゆき , 松尾 鉄平 , 西塚 哲 , 新田 浩幸 , 高橋 正浩 , 高原 武志 , 長谷川 康 , 若林 剛：ジェムシタビン剤形変更の試み , 一般口演

第 75 回大腸癌研究会 , 東京 ,2011/7/8.

1. 板橋 哲也 , 大塚 幸喜 , 箱崎 将規 , 加藤 久仁之 , 木村 聡元 , 藤澤 健太郎 , 秋山 有史 , 佐々木 章 , 若林 剛：当科における StageIV 腹膜播種の治療成績 , 一般示説 .

第 29 回日本肝移植研究会 , 仙台 ,2011/7/22 ～ 7/23.

1. 長谷川 康 , 新田 浩幸 , 高原 武志 , 高橋 正浩 , 伊藤 直子 , 若林 剛：生体肝移植後 1 ヶ月で発症した門脈血栓症の一例 , 一般口演 .
2. 高原 武志 , 新田 浩幸 , 長谷川 康 , 伊藤 直子 , 高橋 正浩 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：腹腔鏡補助下生体肝移植レシピエント手術 , ビデオセッション .

＊若林 剛：周術期管理、合併症 2, 司会 .

第 10 回日本 PTEG 研究会 , 札幌 ,2011/4/23.

1. 冨澤 勇貴 , 中嶋 潤 , 新田 浩幸 , 水野 大 , 板橋 哲也 , 伊藤 直子 , 藤田 倫寛 , 若林 剛：院内の経腸栄養投与ルート造設法の実態調査 , 一般口演 .

第 47 回日本肝癌研究会 , 静岡 ,2011/7/28 ～ 7/29.

1. 新田 浩幸 , 佐々木 章 , 藤田 倫寛 , 板橋 英教 , 眞壁 健二 , 武田 大樹 , 石橋 正久 , 星川 浩一 , 伊藤 直子 , 高原 武志 , 高橋 正浩 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 若林 剛：肝細胞癌に対する腹腔鏡（補助）下肝切除の手術手技 , ビデオフォーラム .

＊若林 剛：「ネクサバールの上手な使い方ー混沌とした進行肝がん治療の中でー」小尾 俊太郎 , 座長 .

＊若林 剛：ビデオフォーラム 4, 座長 .

第 18 回外科フォーラム , 東京 ,2011/7/30.

1. 若林 剛：肝切除 , シンポジウム .

第 12 回乳癌最新情報カンファランス , 熊本 ,2011/8/5.

1. 柏葉 匡寛：Intrinsic subtype と乳癌幹細胞の Cross-talk, シンポジウム .

第 4 回単孔式内視鏡手術研究会 , 東京 ,2011/8/27.

1. 佐々木 章 , 小川 雅彰 , 須藤 隆之 , 遠野 千尋 , 小原 眞 , 細井 信之 , 佐藤 直夫 , 阿部 薫 , 青木 毅一 , 大渕 徹 , 馬場 誠朗 , 梅邑 晃 , 若林 剛：単孔式と多孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の前向きランダム化臨床試験 , ワークショップ .
2. 馬場 誠朗 , 佐々木 章 , 大渕 徹 , 梅邑 晃 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 若林 剛：副腎良性疾患に対する reduced port surgery, 一般口演 .
3. 大渕 徹 , 亀山 哲章 , 冨田 眞人 , 三橋 宏章 , 松本 伸明 , 佐々木 妙子 , 吉川 祐輔：体格指数別の単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の検討 , ワークショップ .

＊佐々木 章：肝・胆・膵（口演), 座長 .

第 6 回肝癌治療シミュレーション研究会 , 東京 ,2011/9/24.

1. 長谷川 康 , 新田 浩幸 , 高原 武志 , 高橋 正浩 , 伊藤 直子 , 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 加藤 久仁之 , 若林 剛：直腸癌多発肝転移に対して FOLFOX6+cetuximab が著効し根治切除しえた一例 ,.

＊若林 剛：セッション 2. その他 2, 座長 .

第 3 回膵臓内視鏡外科研究会 , 仙台 ,2011/10/8.

＊佐々木 章：一般演題 中央切除・核出術他 , 座長 .

第 30 回 Microwave Surgery 研究会 , 盛岡 ,2011/10/7～10/8.

1. 長谷川 康 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 , 眞壁 健二 , 石橋 正 , 武田 大樹 , 片桐 弘勝 , 板橋 英教 , 藤田 倫寛 , 伊藤 直子 , 高原 武志 , 高橋 正浩 , 若林 剛：腹腔鏡下肝切除におけるラジオ波前凝固を用いた肝離断 , シンポジウム .

＊若林 剛：特別講演「Physics of Microwave for Tissue Ablation」David A. Iannitti, 座長 .

第 41 回胃外科・術後障害研究会 , 大阪 ,2011/10/7～10/8.

1. 肥田 圭介 , 藤原 久貴 , 西成 悠 , 渡邊 陽太郎 , 馬場 誠朗 , 佐々木 章 , 若林 剛：腹腔鏡補助下幽門保存胃切除術 (LAPPG) の手技と成績 , 一般口演 .

市民公開シンポジウム これからのがん対策 , 盛岡 ,2011/10/9.

1. 若林 剛：シンポジスト , シンポジウム .
2. 木村 祐輔：シンポジスト , シンポジウム .

第 2 回消化器癌臨床・病理研究会 , 盛岡 ,2011/10/15.

＊若林 剛：「最近の大腸癌化学療法のエビデンス」朴 成和 , 座長 .

第 2 回いわて胃癌治療カンファランス , 盛岡 ,2011/11/4.

＊若林 剛：「胃癌化学療法 - 個別化への新展開 -」山田 康秀 , 座長 .

第 4 回東北ヘルニア研究会 , 仙台 ,2011/11/5.

＊若林 剛：ランチョンセミナー「ロジカルアプローチ～根拠に基づいた MESH 選択と手術～」伊藤 契 , 座長 .

第 14 回いわて乳腺疾患フォーラム , 盛岡 ,2011/11/5.

＊稲葉 亨：2. 画像検討 , 司会 .

第 1 回県合同輸血療法委員会 , 盛岡 ,2011/11/5.

＊若林 剛：「術中大量出血時の輸血療法 - 臓器移植術を中心に－」山本 晃士 , 座長 .

先端開発特区「消化器内視鏡先端医療開発プロジェクト」, 神戸 ,2011/11/7.

1. 若林 剛：腹腔鏡下ドナー肝切除の技術・デバイス , 成果報告 .

岩手医大生体肝移植 30 例記念 肝移植セミナー , 盛岡 ,2011/11/8.

1. 長谷川 康：生体肝移植後 1 ヶ月で発症した門脈血栓症の一例 , 症例検討 .

＊若林 剛：「肝移植実施の悩みと勇気」田中 紘一 , 座長 .

＊新田 浩幸：「生体肝移植後 1 ヶ月で発症した門脈血栓症の一例」長谷川 康 , 座長 .

第 4 回北東北胆道癌セミナー , 盛岡 ,2011/11/19.

1. 高原 武志：胆道癌の術後化学療法 , 一般口演 .

＊若林 剛：「肝内・肝外胆道癌の外科治療戦略の動向」宮崎 勝 , 座長 .

第 2 回岩手甲状腺眼症研究会 , 盛岡 ,2011/11/12.

＊冨澤 勇貴：特別講演 1 , 座長 .

第 5 回肝臓内視鏡外科研究会 , 東京 ,2011/11/16.

1. 長谷川 康 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 , 眞壁 健二 , 武田 大樹 , 片桐 弘勝 , 伊藤 直子 , 高原 武志 , 高橋 正浩 , 若林 剛：大腸癌同時性肝転移に対して腹腔鏡補助下同時切除術を施行した 16 例の検討 , 一般口演 .

＊若林 剛：招待講演 , 座長 .

＊新田 浩幸：一般演題 4, 座長 .

第 21 回外科漢方研究会 , 東京 ,2011/11/18.

1. 八重樫 瑞典：腹腔鏡下大腸癌周術期における大建中湯の有用性 , シンポジウム .

第 5 回手術手技セミナー , 盛岡 ,2011/11/24.

＊若林 剛：「国際基準としての D2 胃切除術」佐野 武 , 座長 .

9回がんとハイポキシア研究会 , 目白 ,2011/11/26 ～ 11/27.

1. 小笠原 聡 , 冨澤 勇貴 , 西塚 哲 , 若林 剛：新しい甲状腺未分化癌細胞株とその細胞生物学的特性 ,Poster Presentation.

第 6 回肝移植症例検討会 , 盛岡 ,2011/11/29.

1. 高原 武志：抗 HLA 抗体陽性症例 , 一般口演 .

＊若林 剛：「肝移植における抗 HLA 抗体の課題」江川 裕人 , 座長 .

＊若林 剛：「抗 HLA 抗体陽性症例」高原 武志 , 座長 .

第 5 回内視鏡下肥満外科治療研究会 , 大阪 ,2011/12/6.

1. 佐々木 章 , 新田 浩幸 , 大渕 徹 , 馬場 誠朗 , 梅邑 晃 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 遠藤 昌樹 , 若林 剛：腹腔鏡下スリーブ状胃切除術：手技のポイント , シンポジウム .

＊若林 剛：第二部「適応、術後管理、先進医療など」, 司会 .

第 18 回外科侵襲とサイトカイン研究会 , 金沢 ,2011/12/10.

1. 小林 めぐみ , 水野 大 , 若林 剛：新生児腸管虚血に伴う門脈血行動態の検討 , 一般口演 .
2. 武田 大樹 , 新田 浩幸 , 眞壁 健二 , 長谷川 康 , 伊藤 直子 , 高原 武志 , 高橋 正浩 , 若林 剛：脾容積から見た肝再生の検討 , 一般口演 .

＊若林 剛：「各種病態における high-mobility group box1 の動態と診断・治療への応用」北川 雄光 , 座長 .

IN Cell User's Day, 東京 ,2011/12/12.

1. 久米 浩平：抗癌剤反応機構における不均一性モニタリングへの In Cell Analyzer 2000 の応用 , 一般示説 .

第 17 回 Research in Oncology Seminar, 盛岡 ,2011/12/22.

＊西塚 哲：「分子機序に基づく難治性がんの治療戦略」田中 真二 , 司会 .

第 191 回日本消化器病学会 東北支部例会 , 仙台 ,2011/2/5.

1. 高原 武志 , 新田 浩幸 , 伊藤 直子 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 滝川 康裕 , 鈴木 一幸 , 若林 剛：Mizoribine を用いた生体肝移植後の C 型肝炎治療 , シンポジウム .
2. 遠藤 史隆 , 新田 浩幸 , 高橋 正浩 , 高原 武志 , 伊藤 直子 , 長谷川 康 , 板橋 英教 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：頭蓋底転移をきたした肝内胆管癌の 1 症例 , 一般口演 .

第 191 回日本消化器病学会 東北支部例会 , 盛岡 ,2011/7/8.

1. 遠藤 史隆 , 松尾 鉄平 , 西塚 哲 , 肥田 圭介 , 藤原 久貴 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 新田 浩幸 , 柏葉 匡寛 , 水野 大 , 佐々木 章 , 若林 剛：高度進行・再発胃癌症例に対する細胞増殖曲線パターンによる抗癌剤感受性判定 , 一般口演 .
2. 馬場 誠朗 , 佐々木 章 , 須藤 隆之 , 小川 雅彰 , 小原 眞 , 佐藤 直夫 , 阿部 薫 , 青木 毅一 , 梅邑 晃 , 大渕 徹 , 若林 剛：単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の成績：多施設 vs 単一教育機関 , 一般口演 .
3. 鴻巣 正史 , 木村 祐輔 , 秋山 有史 , 岩谷 岳 , 遠藤 史隆 , 西塚 哲 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛：胸腔内穿破に伴う呼吸不全により人工呼吸管理となった高度進行食道癌に対して食道ステント挿入術が有効であった 1 例 , 一般口演 .
4. 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 加藤 久仁之 , 藤井 仁志 , 八重樫 瑞典 , 西塚 哲 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 肥田 圭介 , 水野 大 , 佐々木 章 , 若林 剛：Hi-Vision system による腹腔鏡下直腸癌手術 , シンポジウム .
5. 武田 大樹 , 高原 武志 , 眞壁 健二 , 長谷川 康 , 伊藤 直子 , 高橋 正浩 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 新田 浩幸 , 柏葉 匡寛 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：腹腔鏡下に摘出した副腎骨随脂肪腫の 1 例 , 一般口演 .
6. 藤原 久貴 , 肥田 圭介 , 高橋 正統 , 千葉 丈広 , 御供 真吾 , 若林 剛：S-1/CDDP 併用療法が奏功し，長期無増悪生存を得た胃癌多発骨転移・遠隔リンパ節転移の 1 例 , 一般口演 .

第 30 回岩手県乳腺疾患研究会 , 盛岡 ,2011/2/19.

1. 小松 英明 , 柏葉 匡寛 , 稲葉 亨 , 川岸 涼子 , 松井 雄介 , 上杉 憲幸 , 菅井 有 , 若林 剛：術前TC療法でpCRが得られたTriple negative乳癌の 1 例 , 一般口演 .

第 8 回日本乳癌学会東北地方会 , 仙台 ,2011/3/5.

1. 小松 英明：教育セミナー , パネリスト .
2. 柏葉 匡寛：次世代型タキサン系抗癌剤への期待と展望 , ランチョンセミナー .
3. 柏葉 匡寛 , 稲葉 亨 , 小松 英明 , 川岸 涼子 , 松井 雄介 , 若林 剛 , 上杉 憲幸 , 菅井 有：若年乳癌患者の特徴と妊孕性維持の重要性 , 一般口演 .
4. 稲葉 亨 , 柏葉 匡寛 , 小松 英明 , 川岸 涼子 , 若林 剛 , 上杉 憲幸：Primary systemic therapy(PST) 後に陰転化した HER2 陽性局所進行乳癌の 1 例 , 一般口演 .

第 10 回東日本肝移植周術期研究会 , 東京 ,2011/3/5.

1. 高原 武志 , 新田 浩幸 , 長谷川 康 , 伊藤 直子 , 藤田 倫寛 , 板橋 英教 , 高橋 正浩 , 若林 剛：生体肝移植後の（周術期・外来経過観察中の）腎機能について , 一般口演 .

第 127 回岩手の消化器病懇話会 , 盛岡 ,2011/3/12.

1. 佐藤 邦彦 , 千葉 俊美 , 安孫子 幸人 , 廣田 茂 , 滝川 康裕 , 鈴木 一幸 , 大塚 幸喜 , 若林 剛 , 菅井 有：潰瘍性大腸炎の Colitic cancer に回腸癌を合併した 1 例 , 一般口演 .
2. 小坂 崇 , 遠藤 昌樹 , 小野寺 沙織 , 松田 望 , 佐藤 邦彦 , 春日井 聡 , 安孫子 幸人 , 齋藤 慎二 , 小穴 修平 , 廣田 茂 , 千葉 俊美 , 滝川 康裕 , 鈴木 一幸 , 肥田 圭介 , 若林 剛 , 赤坂 理三郎 , 上杉 憲幸 , 菅井 有：7 重複を認めた Epstein-Barr virus(EBV) 関連胃癌の 1 例 , 一般口演 .

第 14 回岩手内視鏡外科研究会 , 盛岡 ,2011/5/21.

1. 藤田 倫寛 , 須藤 隆之 , 佐々木 章 , 武田 大樹 , 石橋 正久 , 梅邑 晃 , 御供 真吾 , 冨澤 勇貴 , 新田 浩幸 , 若林 剛：盛岡市立病院における単孔式 TAPP 法の導入 , 一般口演 .

＊大塚 幸喜：「下部消化管疾患に対する低侵襲手術：advanced reduced port surgery」竹政 伊知朗 , 座長 .

＊肥田 圭介：「腹腔鏡下胃癌手術の現状～より安全な手技の普及に向けて～」衛藤 剛 , 座長 .

第 5 回岩手直腸がんフォーラム , 盛岡 ,2011/6/3.

1. 大塚 幸喜：ICOG についての状況報告・ディスカッション , パネルディスカッション .
2. 板橋 哲也：切除不能大腸癌肝転移症例に対する術前化学療法の経験 -FOCAL trial-, 特別講演 .

＊若林 剛：切除不能大腸癌肝転移症例に対する術前化学療法の経験 -FOCAL trial-, 座長 .

岩手ハーセプチン胃癌講演会 , 盛岡 ,2011/6/10.

1. 肥田 圭介：HER2 陽性胃癌に対する治療戦略 , 一般口演 .

第 127 回日本小児科学会岩手地方会 , 盛岡 ,2011/6/18.

1. 高田 彰 , 石川 健 , 千田 勝一 , 小林 めぐみ , 水野 大：間欠的水腎症に対する尿管ステント留置による評価 , 一般口演 .

第 22 回内視鏡外科フォーラム東北 , 山形 ,2011/6/25.

1. 大塚 幸喜：当教室における単孔式腹腔鏡下大腸癌手術の適応と手技ー教育基幹施設としての現状ー , シンポジウム .
2. 大塚 幸喜：腹腔鏡下低位前方切除の Knack and Pitfall ー郭清から周術期管理までー , ランチョンセミナー .
3. 水野 大 , 小林 めぐみ , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：重症心身障害者に対する単孔式腹腔鏡下噴門形成術 , 一般口演 .

＊佐々木 章：ミニシンポジウム 単孔式手術 , 座長 .

第 21 回東北肝臓外科研究会 , 仙台 ,2011/6/25.

1. 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 高橋 正浩 , 伊藤 直子 , 板橋 哲也 , 眞壁 健二 , 武田 大樹 , 石橋 正久 , 板橋 英教 , 藤田 倫寛 , 長谷川 康 , 高原 武志 , 佐々木 章 , 若林 剛：FOCAL trial 症例に対して腹腔鏡補助下大腸肝同時切除を行った 1 例 , 一般口演 .
2. 高原 武志 , 新田 浩幸 , 長谷川 康 , 伊藤 直子 , 高橋 正浩 , 木村 祐輔 , 大塚 幸喜 , 肥田 圭介 , 佐々木 章 , 若林 剛：腹腔鏡補助下胆道癌手術 , 一般口演 .

＊新田 浩幸：肝切除法の工夫と変遷 , 座長 .

岩手県大腸癌病理研究会 , 盛岡 ,2011/7/1.

＊若林 剛：大腸癌の化学療法～個別化治療の可能性～ , 座長 .

いわて肥満症治療セミナー , 盛岡 ,2011/7/2.

＊佐々木 章：「GLP-1 アナログ製剤による減量効果」式部 典子 , 司会 .

＊若林 剛：「バリアトリックサージェリーとメタボリックサージェリー」山本 寛 , 座長 .

岩手遠隔外科医療カンファランス , 盛岡 ,2011/7/27.

＊佐々木 章：治癒と生存期間延長へのあくなき挑戦 ～セツキシマブの腫瘍縮小効果～ , 司会 .

岩手 GIST 学術講演会 , 盛岡 ,2011/8/25.
＊若林 剛：イマチニブ耐性 GIST の診断治療方針 , 座長 .
＊肥田 圭介：グリベック耐性によりスーテントに切り換えた症例 , 座長 .

岩手県肝がん治療講演会 , 盛岡 ,2011/8/26.
＊若林 剛：当科における進行肝癌の治療状況について , 座長 .

第 7 回岩手緩和ケアセミナー , 盛岡 ,2011/9/3.
＊木村 祐輔：「当院における在宅緩和ケア、診療提携・他職種協働への取り組み」千葉 恭一 , 座長 .
＊若林 剛：「なぜ痛みと闘うのか？なぜオピオイドなのか？」山口 重樹 , 座長 .

第 5 回岩手外科教育セミナー , 盛岡 ,2011/9/9.
＊若林 剛：「消化器外科：最近の外科手術」塚田 一博 , 座長 .
＊大塚 幸喜：「大腸癌の集学的治療」楠 正人 , 座長 .

第３７回東北小児外科研究会 , 盛岡 ,2011/9/16.
1. 小林 めぐみ , 水野 大 , 中辻 幸恵 , 遠藤 幹也 , 猪飼 秋夫：下大静脈内腫瘍塞栓切除中に心タンポナーデに陥った一例 , 一般口演 .
＊水野 大：一般演題 , 司会 .
＊水野 大：特別講演 , 司会 .

第 162 回東北外科集談会 , 盛岡 ,2011/9/17.
1. 片桐 弘勝 , 肥田 圭介 , 川岸 涼子 , 藤井 仁志 , 加藤 久仁之 , 鴻巣 正史 , 板橋 哲也 , 秋山 有史 , 藤原 久貴 , 西塚 哲 , 大塚 幸喜 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛：食道・胃・大腸に発生した同時性 5 重複癌の一例 , 一般口演 .
2. 箱崎 将規 , 川崎 雄一郎 , 佐藤 一 , 佐藤 直夫 , 坂本 隆：当院で経験した胆嚢捻転症の 2 例 , 一般口演 .
3. 秋山 聖華 , 畠山 元 , 杉村 好彦 , 川村 英伸 , 中屋 勉 , 小沼 浩人 , 高野 長邦：tocilizumab での治療中に急性腹膜炎を合併した若年性特発性関節炎の一女児例 , 一般口演 .

第 79 回日本小児外科学会東北地方会 , 盛岡 ,2011/9/17.
1. 秋山 聖華 , 畠山 元 , 杉村 好彦 , 川村 英伸 , 中屋 勉 , 小沼 浩人 , 高野 長邦：tocilizumab での治療中に急性腹膜炎を合併した若年性特発性関節炎の一女児例 , 一般口演 .
2. 大宜見 由奈 , 小林 めぐみ , 水野 大 , 若林 剛：一卵性双生児の一子に VATER 症候群を合併した一例 , 一般口演 .

第 24 回近畿内視鏡外科研究会 , 大阪 ,2011/10/15.
1. 肥田 圭介 , 藤原 久貴 , 西成 悠 , 渡邊 陽太郎 , 木村 祐輔 , 新田 浩幸 , 大塚 幸喜 , 佐々木 章 , 水野 大 , 若林 剛：岩手医科大学外科における腹腔鏡下胃切除術の現況 , シンポジウム .

第 50 回記念日本薬学会東北支部大会 , 仙台 ,2011/10/30.
1. 佐々木 陽子 , 佐藤 誠志 , 朝賀 純一 , 熊谷 真澄 , 小畑 由香子 , 高原 美智子 , 川野 由美子 , 小松 英明 , 稲葉 亨 , 柏葉 匡寛 , 若林 剛 , 工藤 賢三 , 高橋 勝雄：アンスラサイクリン・ベース・レジメンを施行した乳癌患者に対する制吐療法と悪心・嘔吐の発現状況に関する調査 , 一般口演 .

いわて外科セミナー , 盛岡 ,2011/11/15.
1. 小林 めぐみ：超音波カラードップラーによる新生児門脈血流測定 , 一般口演 .
＊水野 大：一般演題 , 座長 .
＊若林 剛:「手術侵襲を軽減するための周術期管理の工夫－注射用エフオーワイや注射用エラスポール 100 の有用性を探る－」太田 哲生 , 座長 .

第 3 回岩手外科緩和医療検討会 , 盛岡 ,2011/11/25.
＊若林 剛：「癌治療医が実践する緩和医療」長島 誠 , 座長 .

第 15 回いわての肝胆膵フォーラム , 盛岡 ,2011/11/26.
＊若林 剛：「膵癌の集学的治療－術前化学放射線治療からペプチドワクチン療法まで－」山上 裕機 , 座長 .

第 9 回南部外科研究会 , 盛岡 ,2011/12/1.
1. 八重樫 瑞典 , 肥田 圭介 , 藤原 久貴 , 木村 祐輔 , 西塚 哲 , 大塚 幸喜 , 新田 浩幸 , 柏葉 匡寛 , 水野 大 , 佐々木 章 , 若林 剛：胃癌術後に対する VTE 予防の検討 , シンポジウム .

第 7 回いわて肝移植適応研究会 , 盛岡 ,2011/12/2.
1. 長谷川 康：わが国の脳死肝移植ドナーのアロケーションシステム , 一般口演 .
＊若林 剛：「わが国の脳死肝移植ドナーのアロケーションシステム」長谷川 康 , 座長 .

第 128 回日本小児科学会岩手地方会 , 盛岡 ,2011/12/10.
1. 中村 聖華 , 小林 めぐみ , 水野 大 , 若林 剛 , 佐々木 美香：昆布による食餌性イレウスの 1 例 , 一般口演 .

Chugai Gastric Cancer Meeting in Morioka, 盛岡 ,2011/12/15.
＊肥田 圭介：「進行再発胃癌に対する個別化化学療法」佐藤 太郎 , 座長 .

4. 講 演 会

第 1 回名古屋肝臓内視鏡外科研究会 , 名古屋 ,2011/1/6
1. 若林 剛：腹腔鏡下肝切除－ 2011 年に向けて－ , 招待講演

第 25 回札幌冬季がんセミナー , 札幌 ,2011/2/12
1. 若林 剛：肝がんに対する低侵襲手術ー腹腔鏡下肝切除 , 招待講演

大阪・受験用／基礎編 講習会 , 大阪 ,2011/2/20
1. 若林 剛：老化危険因子としての炎症 , 招待講演

第 5 回能代山本緩和ケア研究会 , 能代 ,2011/2/25
1. 木村 祐輔：緩和ケアにおけるチーム医療のあり方－岩手医科大学附属病院の取り組みから－ , 特別講演

第 39 回千葉消化器疾患研究会 , 千葉 ,2011/2/25
1. 若林 剛：腹腔鏡下肝切除－肝癌に対する低侵襲治療－ , 招待講演

第 1 回東京肝臓内視鏡外科フォーラム , 東京 ,2011/3/5
1. 若林 剛：Laparoscopic Systematic Liver Resection from Hybrid to Pure Technique, 特別講演

第 5 回移植 Live Seminar, 神戸 ,2011/3/5
1. 若林 剛：腹腔鏡補助下ドナー肝切除 -UP Date, 特別講演

第 3 回三鷹消化器カンファレンス , 東京 ,2011/3/10
1. 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 箱崎 将規 , 木村 聡元 , 加藤 久仁之 , 若林 剛：大腸疾患に対する低侵襲外科治療の実際－腹腔鏡手術手技と教育を中心に－ , 特別講演

日本から外科医がいなくなることを憂い行動する会 , 東京 ,2011/5/20
1. 若林 剛：東日本大震災：現地からの報告 , 招待講演

第 97 回日本消化器病学会 市民公開講座 , 東京 ,2011/5/22
1. 若林 剛：被災地の医療の現状と課題 , 基調講演

第一三共株式会社 学術講演会 , 盛岡 ,2011/6/6
1. 佐々木 章：低侵襲外科治療の現況　一単孔式腹腔鏡下手術の成績ー , 講演

第 22 回北海道肝がん研究会 , 札幌 ,2011/6/11
1. 若林 剛：肝細胞癌治療における腹腔鏡下肝切除の役割 , 特別講演

乳がん学術講演会 , 新潟 ,2011/6/17
1. 柏葉 匡寛：PAM50 から捉えた乳癌多様性と薬剤感受性 , 特別講演

第 5 回上方乳がん研究会 , 大阪 ,2011/6/25
1. 柏葉 匡寛：再発乳癌の治療 Intensity を再考する , 特別講演

TSUGARU ESOPHAGEAL SURGERY MEETING, 弘前 ,2011/6/28
1. 木村 祐輔：食道癌に対する集学的治療 －岩手医科大学の取り組み－ , 特別講演

Breast Cancer Expart Conference, 東京 ,2011/7/22
1. 柏葉 匡寛：講演

第 6 回 Young GI Surgeon's Club in Nasu, 那須塩原 ,2011/7/23
1. 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 加藤 久仁之 , 箱崎 将規 , 木村 聡元 , 若林 剛：私が歩んだラパロスコピックサージェリーー腹腔鏡下大腸手術が上手くなりたい！－ , 特別講演

胃がん大腸がん連携パス説明会 , 盛岡 ,2011/7/28
1. 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 加藤 久仁之：大腸がん術後連携パスを中心に , 特別講演

能代山本地区医療安全講習会 , 能代 ,2011/7/28
1. 佐々木 章：静脈血栓塞栓症の予防と周術期管理の実際 , 特別講演

第 33 回腹腔鏡下大腸切除講習会 , 福島 ,2011/7/30
1. 大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 加藤 久仁之 , 木村 聡元 , 箱崎 将規 , 若林 剛：横行･下行結腸癌に対する腹腔鏡下手術　－特に脾結腸曲授動を伴う手技－ , 講演

第 6 回消化器がん学術講演会 , 徳島 ,2011/8/13
1. 若林 剛：転移性肝癌の治療戦略 , 特別講演

内視鏡外科手術室チーム勉強会 , 大阪 ,2011/8/20
1.佐々木 章：内視鏡手術におけるチーム医療の必要性と実際の手技 , 招待講演

第 6 回肝臓内視鏡外科研究会「ハンズオンセミナー」, 静岡 ,2011/8/21
1.若林 剛：腹腔鏡下肝切除術～手技とポイント・その３～ , 招請講演

ASCO 2011 Review in 北海道 , 札幌 ,2011/8/26
1.柏葉 匡寛：特別講演

第 44 回万国外科学会 , 横浜 ,2011/8/27
1.若林 剛：肝臓がんーからだに優しい手術から肝移植まで , 招待講演

第 46 回福井肝癌研究会 , 福井 ,2011/9/2
1.若林 剛：腹腔鏡下肝切除術の標準化と挑戦 , 特別講演

Colorectal Cancer Forum In Fukushima, 福島 ,2011/9/7
1.大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 加藤 久仁之：進行結腸・直腸癌に対する術前術後補助療法の実際 , 特別講演

日本麻酔科学会 北海道・東北支部市民公開講座 , 盛岡 ,2011/9/10
1.木村 祐輔：緩和医療ー開業医および病院勤務医の立場からー , 講演

第 1 回久留米周術期管理フォーラム , 久留米 ,2011/9/20
1.大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 加藤 久仁之 , 若林 剛：腹腔鏡下低位前方切除の Knack and Pitfall　ー合併症、特に縫合不全を回避するためにはー , 特別講演

第 4 回山形大腸手術手技セミナー , 山形 ,2011/9/24
1.大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 加藤 久仁之 , 若林 剛：Ｓ状結腸・下行結腸癌に対する腹腔鏡下手術手技 , 招待講演

講演会 , 和歌山 ,2011/10/1
1.柏葉 匡寛：再発乳がんにおけるアバスチンのインパクト , 招待講演

第 23 回さつま鏡塾 , 鹿児島 ,2011/10/1
1.大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 加藤 久仁之 , 若林 剛：Ｓ状結腸癌に対する腹腔鏡下手術手技　ー内視鏡外科技術認定医合格に向けてー , 特別講演

日本から外科医がいなくなることを憂い行動する会【きみが外科医になる日セミナー】, 東京 ,2011/10/8
1.若林 剛：手術を極める , 招待講演

市民公開講座 , 盛岡 ,2011/10/8
1.新田 浩幸：体にやさしい肝臓の手術～小さな肝切除から肝移植まで～ , 講演

第 18 回東総がんフォーラム , 千葉 ,2011/10/13
1.若林 剛：肝癌に対する腹腔鏡下肝切除 , 特別講演

第 15 回福島外科セミナー , 福島 ,2011/10/14
1.大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 加藤 久仁之 , 若林 剛：腹腔鏡下大腸手術の手技と教育の実際　ー標準手術になるためにはー , 特別講演

外科手術用品の臨床ニーズと開発・申請の進め方 特別講習会 , 東京 ,2011/10/18
1.若林 剛：消化器外科における癒着防止材・止血剤の使用経験 , 講演

大腸がん治療研修医セミナー , 秋田 ,2011/10/26
1.大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 加藤 久仁之 , 若林 剛：大腸がんに対する腹腔鏡下手術の標準化を目指して , 特別講演

北海道内視鏡外科研究会 第 2 回教育集会 , 札幌 ,2011/11/1
1.大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 加藤 久仁之 , 若林 剛：安全な腹腔鏡下大腸手術をめざして　ー定型化の重要性ー , 特別講演

上海セミナー , 上海 ,2011/11/4
1.大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 加藤 久仁之：腹腔鏡下低位前方切除術手技の実際 , 特別講演

第 15 回内視鏡外科手術を学ぶ会 , 札幌 ,2011/11/11
1.大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 加藤 久仁之 , 若林 剛：腹腔鏡下大腸切除術の最前線　ー直腸と脾弯部を攻めるー , 特別講演

第 39 回兵庫医科大学第二外科同門会 , 兵庫 ,2011/11/12
1.若林 剛：進化した肝切除：腹腔鏡下肝切除 , 招待講演

2011 年度 久慈地域緩和ケア医師研修会 , 久慈 ,2011/11/12
1.木村 祐輔：がん性の疼痛の機序、評価および WHO 方式がん性疼痛治療法について , 講演

第 2 回肥満症外科治療セミナー , 東京 ,2011/11/13
1.佐々木 章：腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の合併症 , 招待講演

第 19 回日本消化器病学会関東支部教育講演会 , 東京 ,2011/11/13
1.若林 剛：腹腔鏡下肝切除術ー肝癌治療における役割 , 招待講演

第 2 回 Shake hands セミナー , 仙台 ,2011/11/19
1.大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 加藤 久仁之 , 若林 剛：安全な腹腔鏡下大腸手術をめざして　ー定型化の重要性ー , 特別講演

久慈市市民公開講演会 , 久慈 ,2011/11/24
1.佐々木 章：体にやさしい最新の手術 , 招待講演

第 4 回大阪内視鏡外科手術セミナー , 神戸 ,2011/12/3
1.大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 加藤 久仁之 , 若林 剛：腹腔鏡下大腸手術の定型化と教育の実際　ー標準化するために、今やるべきことー , 特別講演

第 8 回日本乳癌学会関東地方会 , さいたま ,2011/12/3
1.柏葉 匡寛：HER2 陰性乳癌における最新分子標的治療～抗血管新生療法～ , 講演

2011 年度 岩手医科大学緩和ケア医師研修会 , 盛岡 ,2011/12/12
1.木村 祐輔：身体症状に対する緩和ケア 消化器症状および呼吸困難に対する緩和ケア , 講演

第 1 回福島大腸手術手技セミナー , 福島 ,2011/12/17
1.大塚 幸喜 , 板橋 哲也 , 加藤 久仁之 , 若林 剛：腹腔鏡下低位前方切除の標準化をめざして　ー内側アプローチから周術期管理までー , 特別講演

編集後記

2011年3月11日の東日本大震災から1年3ヶ月が経過しました。今回の教室年報では、各関連施設の先生方に震災当時の現状や現在までのご苦労について写真を交えながらご寄稿いただきました。その内容から確信できたことは、我が岩手医科大学外科同門には、「寡黙で辛抱強く、優しい心」を持った先輩、後輩がたくさんいるということです。東北、岩手を離れられている同門の先生方に、うまくお伝えできたでしょうか。

私が本誌を担当してから今回で6回目の発行になります。本誌の内容もリニューアルが必要と考え、私自身もそろそろ交代の時期かな？と思っておりますが、引き続き先生方にご寄稿いただくことには変わりはないと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

最後に、ご執筆いただきました関連病院の先生方、編集に協力していただいた教室員、教室秘書さん、毎年写真撮影や画像を提供してくださっている画像情報センターの大村直樹さん、そして本誌制作を担当してくださっているヤマダプランニングの八重畑さんに深謝を申し上げるともに、巖刀会の先生方の益々のご健勝を心からお祈り申し上げます。

平成24年5月

大塚　幸喜

表紙説明　　撮影：2012.5.11

盛岡の開運橋からみえる「岩手山と北上川」です。写真の右に「みちのく盛岡心のふるさと」と書かれた開運橋花壇も見えます。川の左岸には、石川啄木の石碑もあります。桜が散って、種々の花や木々の新緑が最も美しいこの時期、自然の息吹を感じながら、川岸をジョギングしています。盛岡駅前在住　川村英伸（岩手医科大学平成元年卒　現在盛岡赤十字病院外科）

巖刀会（がんとうかい：岩手山別称（巌鷲山）から1字とり、岩手の外科医の象徴の意）